滿洲日報

認識不足の意思表示 容易に承認し得ない

警告に對する我軍部の意見 きのふ外務省に傳達

【東京二十五日發】參謀本部では三國の警告問題に關し二十五日午前十一時より首腦部會議を開き二宮次長以下出席、右に對する軍部の意嚮を決定し、午後橋本第二部長が外務省に赴き之を傳達した、その骨子は大體左の如し

一、關東軍の執りつゝある匪賊討伐は聯盟理事會における芳澤代表の聲明の範圍内であり又錦州攻撃の意思を持つて居ない、終始聯盟の精神に副ふて居る

一、然し錦州政府が兵匪を指揮して滿蒙の治安を攪亂し關東軍に挑戰的態度に出でつゝある以上、自衛のため實力を以てこに對すべき事なきを保し難い

一、故に錦州方面平和維持の唯一の方法は錦州政府及び軍隊が速かに關内に撤退し、且つ今日執りつゝある行動を即時停止するにある

一、三國の平和維持に關する努力は認むるも認識不足の一方的意思表示に對しては帝國の威信と名譽のため正義に邁進しつゝある軍部として容易に承認し得ざる處である

匪賊討伐權行使通告

日本代表部理事會に通告

【ジュネーヴ二十四日發】國際聯盟理事會日本代表部は二十四日理事會に通牒を送り、滿鐵線西方にて匪賊の跳梁愈々增大しつゝある事を指摘し、日本軍は理事會にて宣言せられた匪賊討伐權を行使するの已むなきに至つた旨通告した

錦州政府解消と支那軍の撤退を要求

奉天省政府首腦が協議中

支那側情報によれば奉天省政府では錦州政府がその省内の一角に今尚蟠居し匪兵を使嗾、良民を苦しめつゝあるに對し、近く警告を發し東北政府は和平と民衆保護の名において同政府の解消を要求、これと同時に張學良に對しその正規兵別働隊等一切の軍黨を灤州以西に撤退せん事を求むるの議が進められてゐる【奉天電話】

積極的に日本に對抗

南京外交委員會で決定す

【南京二十五日發】特別外交委員會は昨夜緊急會議を開き錦州問題と閻錫山の提議による中央軍を錦州に急派する件を協議したが、支那側は日本が飽迄錦州占領の決意ありとなし積極的に對抗する外なしといふに意見一致した、なほ過渡期の國民政府主席として伍朝樞が推擧されたが伍は右就任を拒絕した

胡支那秘書官

【パリ二十三日發】本日支那公使館秘書官胡世澤氏はブリアン氏を訪問したが去る十日の理事會で可

わが勇士が樹上にて偵察（田庄臺附近にて）【藤井特派員撮影】

負傷兵收容

…の戰鬪で負傷した八名は全部…病院に收容してゐるが全部良好である、戰死行方不明の…は懸命の搜査も空しく未だに…を發見するに至らない【營口…】

日本が惡いならば首でも取りに來い

荒木陸相、警告に憤慨

【東京二十五日發】英米佛三國から錦州問題に關し我政府に對し注意喚起を爲して來た事に就いて我軍部では之を一種の三國干涉なりとし甚だしく憤慨を害し斯くの如き自衛權の發動に基く日本軍の行動を誣謗する行動に就いては斷然排擊すべしとの見解を持してゐるが、荒木陸相は語る

左樣な事は未だ何も聞いて居ないが、事實として我國は何警告されるやうな事はして居ないから、どうしやうもあるまい、ただし何の返事もせずにうつちやつて置くといふ事も出來まい何うしても日本が怪しからぬといふなら首でも取りに來て貰ひたいものだ

決された決議第二項に違反すと認むる如き行動を日本側が執つた場合には支那は決議第六項に依つて一再び理事會に訴へるものと觀らる

對日戰を開始せよ

學良に激勵電報を發す

【南京二十五日發】國民政府は出來るだけ中央軍を錦州に增派し宣戰布告をなさざる積極的戰鬪行爲を開始すべしとの對日強硬論が漸次有力となりつゝあり、吳稚暉は本日學良に對し全力を擧げて錦州を固守する事を勸告し左の如き激勵電を發した

貴下が若し敢然錦州で開戰せば曩に奉天を失つた失敗を償ふて餘りあるべく、愈よ錦州大會戰とならばブリアンも恐らく日本に對し聯盟規約第十六條の經濟封鎖條項適用斷行の擧に出るであらう、軍界各將領は閻錫山の對日開戰提案を支援し、完全に協力するといつて居る、吾人の血を以つて日本軍の刀を彩り、吾人の骨を以て錦州城を埋めよ今や軍人が總てを擧げて國に殉じ職務遂行を期すべき秋である

新屯に兵匪約一千

空陸協力して擊退

敵は北方の大房身に移動す

【田庄臺二十五日藤井特派員發】田庄臺駐屯の第〇大隊は二十五日午前十一時田庄臺東北方一里半に在る新屯に約一千名の敵歩兵が集結し居るを發見し直に野砲一門を以て砲擊を加へ折柄飛來せる陸軍飛行機〇機は〇〇と協力して之を攻擊したるに敵は狼狽して北走大房身に移動した

負傷を顧みず任務を果す

勇敢なる木村一等兵

【營口電話】二十三日夜の戰鬪で手首に負傷して任務を續けてゐた兵を發見したそれは新潟縣三島郡日越村字石堂出身の木村賢勇次郎一等兵である

錦州軍の戰法

義勇軍、別働隊、匪賊等は日本軍の討伐に際し次の如き戰法を執るべく上司より命ぜられたるものゝ如くである、即ち小部隊の日本軍來るときはこれを擊破し大部隊にして敵し難き時は良民を裝ひ四散潛伏し日本軍若しこれを討てば國際聯盟その他外國に對し日本軍の暴狀を捏造し宣傳すべし而して日本軍通過し去りたる時は更に集結して日本軍の後方を襲擊攪亂すべしといふのである彼等賊團の間には特殊の合言葉を使用してゐると

敵の裝甲列車三輛を爆擊

【奉天電話】二十五日午前十一時大石橋方面より飛來せる我軍飛行機〇臺は雁行して北寧支線に沿ふて北上し新屯に居た敵の集團を擊破した後午後一時頃田庄臺を距る百キロの大窪附近に敵の裝甲列車三列車あるを發見、直に爆彈を投下し最前線の一列車を完全に顚覆せしめた、他の二列車は盤山方面に遁行したので目下これを追擊爆擊中である【營口電話】

第〇師團の補充部隊

京城通過北行

【京城特電二十五日發】第〇師團滿洲派遣部隊の一部〇〇〇名は二十五日午前九時三十六分龍山驛に臨時軍用列車で到着、朝鮮軍司令部其他軍部將士はじめ府民に迎へられ龍山驛前で約一時間休憩、戰友の心からなる待遇を受け同十時三十分北行した、京城驛にこの勇士を待構へた數萬の群衆は發車と共に萬歲と軍歌の聲プラットホー…

我軍指揮官の布告

田庄臺治安維持に關し

田庄臺駐屯の桂大隊長は日本軍指揮官の名を以て廿五日左の布告を發表した

一、今回の入城目的は治安の維持にあり

二、軍規嚴肅なる日本軍は匪賊討伐するに當り良民は徹底的に保護す

三、日本軍入城するも毫も恐るゝ必要なし、者民は安心して業に服すべし

四、以上の各項に背き又は流言蜚語を放ち或は排日行爲敵對行爲に出る者は嚴罪に處す【營口電話】

壯烈・夜の市街戰

支那側計畫的に我軍を逆襲

記者も便衣隊に狙擊さる

田庄臺にて廿四日　藤井啓輔特派員

▼…二十三日午後二時田庄臺水濠地へ到着して我〇〇大隊は同三時凍結せる遼河を渡渉するはなほ危險の虞があるので水濠地に殘つたが同三時半頃先頭部隊の〇個中隊が田庄臺部落に入城、直に大隊本部を、商務會内に置き桂大隊長は入城後の善後策を協議した、大隊本部には一個小隊を殘して他部隊は全部城内守備に任じた、これがため本部の警備は頗る手薄になつて居たが、此時突如敵は大隊本部を襲擊した、敵は商務會周圍の家屋に潛んで居たものの如く我大隊本部を商務會にみちびき其警備が手薄となるを待つて突如一齊射擊を行つたものである

▼…先頭部隊に從ひたゞ一人先着した記者は入城途中部落が餘り平穩なのに安んじて部落を視察せんと、大隊本部表入口にもたれて居たところパラ〳〵と銃聲が聞えたかと思ふと便衣隊の一人は大隊本部入口五間先の家角から銃口を向けて狙擊して居り、たゞ一人居た記者は標的となり狙擊されたが危ふく入口より屋内に飛込み難を免れた、大隊本部では敵に對し應戰したが敵は周圍の家屋に潛んで有利な自然物を利用して一齊射擊を續け、大隊本部はついに對岸野砲大隊との間の電話線を切斷され各方面の連絡を失ひ敵の重圍に陷りたる形となつた、敵は保安隊、正規兵、公安局巡警等官民一致して計畫的に襲擊せるものと判明した

▼…部落に潛む敵の兵力は約五百名と稱せられて居るが、先に我大隊が入城前、桂大隊長は支那側公安局長を呼び訓諭せる際、彼は大隊長に對し無抵抗を誓つたにも拘らず、我等を商務會に招き入れ計畫的に襲擊せるものらしい、敵の執拗なる襲擊は夜陰に入つて益々激しくなり、對岸の水濠地に駐屯する野砲大隊の掩護砲擊の下に壯烈なる夜の市街戰は深更に至るまで續き、敵の兵力は夜に入つて增加する模樣は月明によつて明らかに看取され我大隊本部に突擊する形勢を示してゐた、果せるかな桂大隊が前夜の疲れを癒やすため同部隊を休ませたが午後十一時頃一旦北方に逃走した敵の裝甲列車がわが占據せる臺㞍前驛を距る四キロの地點まで再び逆襲し來り我れに向つて砲擊しはじめたのでわ…

旅順から補充部隊派遣

旅順〇〇兵隊の兵士〇〇名及同歩兵〇〇聯隊の曹長以下〇名は二十五日午後八時二十分旅順驛發列車で何れも補充部隊として各本隊所在地へ向け出發した

學良に送つた蔣の密書

學良側近者の語るところによれば蔣介石は學良に對し左の如き密書を送つた

新中央委員間には私見頗る多くして意見一致せず、前途甚だ憂慮さる、余と貴下とに對しては軍權を放棄するに非ざれば時局の收拾不可能なりと述べてゐる【奉天電話】

錦州軍の決死隊朝鮮に潛入

上海反日團の密偵とゝもに

【京城特電二十五日發】朝鮮に重大使命を帶びた錦州軍の決死隊が潛入せんとの情報は、其後張學良部下の腕き數十名を以て組織し新義州方面より夫々鮮内に潛入しその一部は平壤府内に潛入せるものと判明した、又上海反日救國會からも密偵四、五名鮮内に潛入し平壤に本據を置き或種の計畫をなしつゝありとの情報あり鮮内當局は事件を極度に重大視し俄に警戒を嚴にしてゐる

高給を支拂つて馬賊を募る

前警務處長が委員を派遣

頭目五十餘名と協議

關東軍當局の談によれば黃顯聲の部下某の語るところを聞くに最近前遼寧警務處長黃顯聲は瀋鄉總辦に、また黃部下程拓松を收編主任に任命し、且つ黃の部下十餘名を觀察委員として多額の現金を攜行せしめ遼西地方の各縣に派し從來東北軍に招撫せられたる馬賊の頭目五十餘名と打合せをなし更に部下の募集方を督勵せしめたがその馬賊團募集の條件は左の通りである

一、自ら拳銃を所持するものは月給現大洋三十元を給す

二、百名以上（武裝せる馬賊以下同じ）を率ゐる者は大尉として待遇す

三、騎兵二百五十名又は歩兵五百名を率ゐるものは少校營長に任ず

四、騎兵五百名又は歩兵一千名を率ゐる者は上校團長に任ず

五、百名に滿たざる部隊は他の少部隊と合し定員に達したる後委員において檢閱の上編成費を支給す

六、當分は一地方に潛伏して良民を裝ふ

七、戰爭勃發せば專ら日本軍の行動妨害に努めること【奉天電話】

沿線各地の兵匪跳梁

最近兵匪の跳梁を擧げれば左の如し

一、沙河西方黑林臺集結せる兵匪は十九日以來再び勢力を挽回したが機關銃を有する約三百餘名の有力團となり沙河西方十二籽孟大達堡を橫行してゐるが、二十二日その西方約四籽の王岡堡を包圍し同地公安隊に武器の提供方を強要しつゝあり、同地農民は日本軍に討伐方を請願し來つた

二、郭鐵梅の兵匪約二百名は目下大孤山東北方約四十五支里の中央廟附近にあつて歩兵銃で威嚇し近河、岫巖方面を襲擊すべく…

機北上

南京から飛行

支那一帶警備狀況報告

【東京二十四日發】大角海相は二十四日午後一時官邸に財部、岡田、加藤、山本の各軍事參議官の參集を求め支那一帶に亘る其後の警備狀況並に時局に鑑み佐世保に待機中だつた巡洋艦出雲及び特務艦能登呂を第二遣外艦隊に編入し本日旅順に向け發航せしめる經過を報告し諒解を求めたが、大角海相は東郷元帥及犬養首相を歷訪し同樣の報告をなした

滿鮮問題國民同盟の聲明

閻馮の提案

八氏南京へ向ふ　殿の廣東代表

周水子に飛來した わが重爆撃機四機
約二週間耐寒試驗

重爆撃機の發動機耐寒試驗を實地について行ふため周水子に飛來する事になつてゐた濱松飛行第七聯隊の重爆撃機四機は、藤井少佐指揮の下に廿三日濱松を出發途中太刀洗、平壤に着陸し廿五日午後零時四十分平壤發、同三時五十分四機揃つてその巨姿を周水子上空に現はし、岩井豫備少將、加藤航空官石井大連警察署長、外着の隈部大尉等の出迎へ裡に同四時見事全部の着陸を終へた、機を降りた搭乘員一同は直に整列して藤井少佐に報告し藤井少佐の訓示あつて一先づ休憩したが今回の四機の飛來は陸軍重爆撃機最初の試みとして同發動機の耐寒試驗を行ふことが目的で藤井少佐の指揮で約二週間關東州內上空で試驗飛行を行ふことになつてゐる

試驗地として 州內は絕好
隈部大尉語る

今回の重爆撃機の演習につき同飛行隊で研究、連絡等の仕事に當るため二十五日來連の旅客機で外發として到着した陸軍航空本部航空兵大尉隈部正美氏は語る

旅客機は實際愉快ですね、今度の飛行第七聯隊の演習で特に皆さんの了解を得て置きたいことは發動機の耐寒試驗のためだけであるといふことです、勿論彈藥のやうなものは全然持つて來てゐませんし飛ぶのも關東州內だけに限定されてをります、何分重爆撃機發動機の耐寒試驗は今度が最初で、內地には適當な試驗場所がなく耐寒試驗の目的を達する爲には關東州が最も適當でありますので來たやうなわけです、豫定は大體一月八日までで試驗濟み次第飛んで歸る筈です

斷平當該國政府の 注意を喚起す
暗殺事件とわが當局

【東京二十五日發】廣田大使暗殺計畫につきまだ廣田大使より何等の公報なきも外務當局の意嚮はモスクワに使臣を派してゐる國は英、佛、伊、獨、バルチック四聯合、トルコ、ペルシア、支那等可成り多いが國際違犯行爲中最も憎むべき元首代表に對する直接行動等を計畫してゐた以上、事實の判明を待ち何れの國の使臣たるとはず斷然當該國政府の注意を喚起せねばならぬとしてゐるのである

廣田大使暗殺 陰謀の內幕
某國外交官に依賴された 勞農一市民が告發

【モスクワ二十四日發】勞農當局が發表した廣田大使暗殺陰謀計畫なるもの、輪廓左の如し

十二月二十二日聯邦交通人民委員會從業員でソウエート市民たるゲー某は合同國家保安局參事會に對し次の如き事實を告發した

三年半以前より自分はモスクワ駐剳某國外交團の一員と交際を續けて來た、この十二月初め以來同人は會談毎に專ら滿洲事變を持ち出し若し「モスクワで勞農聯邦駐剳日本大使の生命に危害を加へるならばこれが勞働聯邦と日本との間の戰爭の原因とならう」と仄かし、其後會ふ度にこの仕事の必要を力說し執拗に日本大使狙擊を說くので自分はこれが自分に奇怪なる戰爭挑發者の役目を割當てる事を確信するに至つた、自分の未熟から祖國に對する斯くの如き忌はしい屈辱的活動に引込まれた重大な過失の償ひをしたいと思ふ

右の告訴中の各種の資料を調査した結果、外務人民委員會は確證を得たので上述外交官主席使臣に對し速かに該陰謀外交官を國外に送還すべき事を要求し承認を得たものである

閑院元帥宮
御親任御奉告

【東京二十五日發】今回參謀總長に御親任遊ばされた閑院元帥宮殿下には二十七日御西下伊勢神宮桃山御陵等に御奉告の御參拜を遊ばされる事となつた

全省稅務會議

新任財政廳長趙鵬第氏は奉天全省の稅務革新の爲め所管各縣の稅捐局長各部を召集廿五日廳內に於て全省稅務會議を開催した、又趙廳長は目下所管內の各縣にして直接稅金送附し來るもの二十數縣なると數種の稅目廢止の爲め現在の人員不用となれるより再び大淘汰を決行する事となり全職員傭員共試驗の結果現在員を半數に減するさ【奉天電話】

東北電信局 副局長任命

さきに東北電信電話局長就任の吉長吉敦鐵路局長金璧東氏は本務多忙の爲め現吉林公署員白鐵澤氏を副局長に任命白氏は二十四日より執務を開始した、尙白氏は現に吉長電信局長をも兼務してゐるこの道の人である【奉天電話】

奉天地方指導部 縣自治大會
けふ午前開催に決定

去る十五日開催の筈であつた奉天地方維持指導部縣自治大會は廿六日午前十一時より縣政府通りの新事務所にて開催した、同日は支那側は臧省長、袁最高顧問、各機關首腦者、來賓として日本軍部、總領事館、滿鐵の各代表列席、于沖漢部長より挨拶に代へて自治指導進行方法と兵匪討伐に關する意見を開陳、終つて各縣自治調査に

飛來した重爆撃機と搭乘者一行

臧奉天省長 全省に布告

臧式毅氏は就任以來省政務の刷新につき種々考慮を拂ひつゝあるが二十四日各縣に對し左の意味の布告を發し地方長官を督勵した

件は既報の通りである、さて數月以來地方の秩序亂れ人民痛苦の折柄、地方官として種々盡力されたる件については大いに多とするところである、今や正式政府成り秩序漸く整ひ政務緖につかんとす、地方政務に關與するものはその地の治安を維持し民衆の痛苦を除去し匪賊の驅逐に努むべきである、本省長もこの難局を背負ふて出發せる以上一身を賭して事に當るべきにつき諸公も奮闘努力、若しこの際民政擾亂のものあらば嚴罰に處すべく以つて功罪を明らかにせんと欲す【奉天電話】

行ける部員を集めロシアの支那赤化政策よりロシア自體の共產政治の失敗を論じ自治の根本方針は支那自體の自治制によるべきで富の偏在を除き一般民衆の福利を平等にするにある旨を訓話する筈【奉天電話】

奉天省政府 諮問機關

臧式毅氏は政務諮問機關として今回省政府內に顧問廳なるものを設け袁金鎧氏外一名を最高顧問とし外に顧問諮議若干を招聘し重要政務を諮問するに決し不日これが職制出來上り次第發表の筈である【奉天電話】

滿鐵首腦部の 不更迭進言
六日會の幹部から

【東京二十四日發】滿鐵恒久性懇談會「六日會」の幹部門野重九郎坂西利八郎、矢野恒太、內田嘉吉倉知鐵吉、白岩龍平、佐藤安之助星野桂吾氏外九氏はこの程丸の內六日會事務所に會合新內閣成立と滿蒙關係につき意見の交換を行ひ主として滿洲に高等機關設置に關する件、滿洲增兵の件、中央國策評議機關設置の件、滿洲中央政權樹立の狀勢、滿洲の經濟資源等我國今後の施設大綱等につき協議したが、以上の問題は追つて決定することゝし先決問題として本會はもと滿蒙政策の一貫を翹望し從つ本年度滿洲首腦の恒久性問題を提唱したる有志の結合に出發せる會合たるを以て今回政府の更迭ありたりと雖も滿蒙政策上重大なる理由なくしてその首腦を更迭するが如きは本會として贊成し難しとの趣意を政府要部に進言することを申し合せて散會したが、同會の有志代表阪谷芳郎男は右の趣旨を文書に認め昨日犬養首相、その他各大臣、內閣書記官長、本庄關東軍司令官等に宛て滿鐵首腦者更迭反對の意思表示を爲した尙六日會にては今後も滿鐵社員會と連絡をとり飽くまで初志の貫徹を期する覺悟であると

軍縮が實現せずば 歐洲と協調打切る
米上院ボ委員長聲明

【ワシントン二十四日發】アメリカ上院外交委員長ボラー氏は近くジュネーヴに開催さるゝ一般軍縮會議並にドイツ賠償金問題に關し本日左の如き聲明書を發表した

賠償金並に各國の軍備問題にして思ひ切つた輕減縮小が斷行されない場合には、アメリカは斷然歐洲諸國との協調を打切り獨自の立場を守るべきである、歐洲諸國との協調を打切る事はアメリカに何等かの犧牲を拂はしむるものであらうが、現狀の儘でアメリカが歐洲問題に關係を持つ事は結局破產に陷る事とならう、故に賠償金、軍備問題にして輕減縮小が斷行せられれば多少の犧牲を拂ふを忍び斷然歐洲問題から手を引くを至當とする

戰債問題の 國際會議
マック首相力說

【ロッシーマス廿四日發】イギリス首相マクドナルド氏は本日新聞記者との會見においてドイツ賠償金に關する國際決濟銀行顧問委員會の報告書を批判し、戰債及び賠償金問題に關する國際會議を至急開催する必要を力說しイギリス政府は關係各國と會合し本問題が協議する用意を持つてゐる、直に會議を開催しやうではないかと述べた

ドーズ氏歸國

【ロンドン二十四日發】駐英アメリカ大使ドーズ氏は軍縮會議につきフーヴァー大統領スチムソン國務長官と協議するため歸國命令を受け三十日歸國の途に就く事となつた

我軍縮全權 昨朝上海到着

【香港二十五日發】軍縮會議出席の日本全權一行は今朝諏訪丸で當地到着官民の歡迎を受けた、一行は明二十六日出發の豫定である

張海鵬廿九日 赴奉

いよ〳〵二十九日來奉し臧省長と面談することになつた【奉天電話】

文部省の 行政整理
千三百二十名

【東京二十五日發】文部省では前內閣以來の本省並に大學直轄學校における行政整理に關し大藏當局と折衝を重ねた結果此程整理案が決定し來年一月中旬頃から三月中旬頃までに全部の整理を完了する筈であるが整理人員は一千三百二十名之に要する節約額總額は八十五萬圓に達する見込みである

公債發行豫定額 四億七千萬圓に上る

【東京廿五日發】前內閣の方針によると昭和七年度公債發行豫定額は約三億圓となつて居た、現內閣の豫算編成方針によれば更に一億七千萬圓を增加する事となつた、卽ちその內譯を示せば

一、增稅中止による代り財源公債四千萬圓
一、貨幣交換差損金五千萬圓（前內閣時代にはポンド貨下落のため八百萬圓の差益金が歲入として計上されたるに對し、現內閣となり金輸再禁止を行つたため圓價暴落したため形勢逆轉を來した）
一、失業公債の增加額三千萬圓
一、行財政整理の戾しによる新規財源一千萬圓（拓務省その他局の復活による）
一、滿洲事變に對する臨時軍事費增加額千萬圓

以上合計一萬六千萬圓公債利子の增加額一千萬圓合計一億七千萬圓となり之により明年度公債發行額は總計四億七千萬圓となる

正貨二百萬磅 英本國に到着

【プリマス二十四日發】正貨二百萬磅は本日印度から當港に到着

北平邦人保護

【北平二十四日發】錦州地方の形勢逼迫につれ北平支那街居住の一千餘の在留民は又も重大なる不安に襲はるに至つた公使館側は事態を憂慮し公安局長鮑毓麟に保護方を要求したところ鮑局長は日本人の生命財產は絕對安全なりと明言すると共に最近日本人住宅に巡警を派し注意して居る

林總領事離奉

ブラジル大使に榮轉の奉天總領事林久治郎氏は豫定の如く二十五日午後三時二分發官民二百餘名の盛んな見送りを受けて離奉東上した【奉天電話】

けふの兩院

【東京廿五日發】二十六日の兩院は開院式終了後、本會議を開き議長より勅語奉答文起草委員十八名を指名一旦休憩後再開奉答文を上程可決する

海關孫の換算不統一で 安東では徵收高率
上海同樣の算出方法によれと 安東商議から交涉中

支那海關が關稅徵收に採用してゐる海關孫の金換算々出方法は上海にては米支爲替と同地金換算に依つて之を定めてゐるが、安東は上海及大連の米支爲替及び銀價を參照し更に金と換算する等の煩雜なる方法に依つてゐるので上海の孫の金算出に於て八十錢三、四厘の時安東は八十二、三錢となり、最近の政變に依る金價の暴落の際の如きは上海九十錢三厘に對し安東海關は一圓十四錢を徵收するといつた有樣で、安東で關稅を納入する者は一孫に對して十四錢以上の高率を支拂ふ事となるので安東商工會議所は支那海關に對しこの不統一を指摘して上海同樣の算出方法交涉中で、若しこれに應ぜぬ時は強硬なる方法を採るべく種々講究中である【安東電話】

餘りに自分勝手
一老人

◇最近新聞紙に報道されるところによると、大連醫師會では、大連には一般市民のために滿鐵醫院及び市內の一般醫師あり、貧困者のために聖愛病院及び施療機關があるに拘らず、赤十字診療所が大連醫院と聖愛病院との中間料金によつてゐることは不都合だとの理由で、聖愛病院の料金なもつと高くせよとの陳情をしてゐるとのことである。

◇醫師業者の社會を安泰ならしめるためにはある程度の協定や協調やは必要とするであらう、しかし「滿洲で病院通ひすれば千圓仕事だ」とは一般の聲である程、滿洲の醫藥料は內地の何處に比べても高いのだ、のみならず赤十字事業は限られたる局部的事業からその範圍を擴大して最近では廣く一般國民の福利民福のために活動してゐるものである、この尊き赤十字事業の醫藥料を、この何處よりも高い大連開業醫の醫藥料に引上げよといふことは、餘りに社會を無視した自分勝手な言分ではあるまいか。

◇人間は表面化された慈善の價に堪へず、果して幾割もかしこの高い醫藥料に堪へてゐるものが大連全人口の生活を營んでゐる平然たり得る生活を營んでゐるに當るであらうか、平生何等慈善團體の世話にならず、またなるべき性質のものでない生活を營んでゐる立派な社會人にしても、なほ且つこの高い醫藥料に堪へずして、赤十字病院を求めるものゝ多いのは、一般の醫藥料高き大連なるが故の特殊現象だともいひ得るのだ。

◇醫術は仁術であり、社會必須の事業であればこそ、國家もこれに特殊の便宜を與へ、人の身命を託すべき重要職業たるに拘らず一片の卒業證書をもつて開業を許してゐるのだ、もう少し社會を達觀されたいものだ。

大觀小觀

米、英、佛三國の干涉的警告に憤慨した荒木陸相「當然のことだしてそれが不都合だといふならば首でも取りに來い」と一喝▲但し、大切な首をやみやみ渡すやうな馬鹿は居ないぞ！との氣魄充分▲警告三國に對するわが政府の回答、條理整然、列國の認識不足や理不盡を論破して餘りあるとす▲それでもなほ判らぬやうならば相手せぬがよし、こつちはこつちで信ずる通り自衞手段を敢行することだ▲「餅搗きの威勢に街のあわただし」▲それにしても錦州駐在の外國武官とやらが「支那軍は挑戰的軍事行動に從事し又は準備したる何等の證據なし」と保證したさうな▲招待されて御馳走になつてオベンチヤラを陳いて表面の樣子を見て、それでよく實情が掴めたものだ▲便衣隊、兵匪馬賊等の暗躍、飛躍、襲擊、奪掠虐殺、挑戰等の事實がほんとに彼て無責任な報告をしたような事實等に判つて居るのか居ないのか▲もしそんな報告が基礎になつて例の三國の干涉的警告になつたものとすれば國際間の友誼上遺憾この上なし▲知事に續いて各府縣部長級の大異動斷行、政黨色の塗り替へ作業は先づこれを以て一段落▲お陰で日本全國は今や政友臭紛々となる、舊臭い民政臭も胸くそが惡かつたけれど生乾きの政友臭また鼻持ちならず▲選擧第一主義の弊ふせぐべく相變らず政黨臭に惱まされる一般國民こそ迷惑千萬といふべし▲「枯野原ただ一色にくろずみて」

人事

▲前田正嗣氏（水上署勤務巡查部長）廿四日附警部補に任官、直ちに貔子窩警察署に榮轉

蔣、張の狡猾な 責任轉嫁策
裏面では依然實權を掌握
北平にて 坂本楨

蔣介石は陸海空軍總司令に就いては未だ一言も觸れてゐないが、總司令は國府主席の兼任するものであり主席及び各兼職を辭職した以上、蔣の總司令は當然消滅したものであるにも拘らず、彼はその腹臣を各要省の主席に配し實際上の軍權は依然として掌中に握り、表面下野の如く見せかけながら事實は何等今日までの蔣と變りない、彼は表看板を取はづして黨內外の責任を新南京政府に轉嫁し、而もその實權を裏面において握つてゐるので、彼としての活動は寧ろ餘程自由になつた便宜さへある。一部で、蔣は中全會に顏り席東全代表を一網打盡に逮捕すべく大クーデターを斷行するかも知れぬと懸念してゐるのは、彼がなほ實權を放棄しないから起つたことだ。

◇南京における蔣介石のやり口は同時に北平における學良の今次の態度にそのまゝ反映してゐる、蔣が總司令を辭めた以上、學良として副司令を辭するのは當然であるが彼は決して下野したのではないその意思もない、蔣も今學良を下野させたくない。そこで副司令の代りに生れたのが變てこな北綏靖公署主任である。該公署の組織內容及び權限が判明しないので、副司令とどちらが學良にとつて都合がいゝのか斷定出來ないが、下野でなく名義變更のみといふ立前から見て、實質的にこの兩機關に大きな相違はない筈、支那側の消息によると、新機關の組織法及び所要人員は副司令部と大同小異だといつてゐる。

◇所が學良は、この北平綏靖公署主任をまた辭退してゐる。東北殘黨のみで固める機關よりも、寧ろ黃河以北各省の各界要人を網羅するヨリ强力な機關を作りたいのだ。それは國防委員會をも含めた北方軍事委員會及び北平政治分會である。ここに北平といふは會の所在地を指すのでその權限範圍は黃河以北の北支全部を含むことはいふまでもない。學良にいはせると政治分會は東北政務委員會を北平に移し、改組して人員を增したもので、余は中央に委員四十餘人を推薦した。各方面の人材を收容してこの難局打開に當りたい心願であるさうな

一中全會で決定されるのであるが、理論上不合理な所がないから當然實現されるであらう。（つゞく）

家事經濟の豫算 もうお組みですか(下)

豫算生活を實行するためには斯んな點に注意を

第四 には費目を少くして戴きたいと思ひます衣服費、食物費、住居費の外に費目を多くして細かく分けますと記帳がなかなか面倒になつて遂々終りまでつけられなかつたなどといふ破目になります、これについて思ひ出すのは女學校の家事教科書などで教へられる家計簿記ですがこれは正しい簿記法だと叱られればそれまでとしてこれはまた實に厄介で面倒なものに出來て居ります、理屈に於いて正しくてもそれを毎日記帳する爲に多くの時間と勞力を費すことは忙しい家庭婦人には耐へられぬことです子供の四人も五人も抱へて雇人なしに家庭をきりまはす主婦は休養の時さへ與へられずに働き通さなくてはならないのですから單調な新婚時代や有閑婦人に向くやうな家計簿の形式は實行出來ません、從來の家計簿記の形式は豫算生活も現金生活もする必要がないやうに出來てゐます、あの形式をもすこし科學化してもつともつと整理や記帳に

能率 の上るものに改善したいと思ひます、今日家庭婦人が豫算生活はおろか使つた金の行方さへも明らかにしないで其日其日暮しの經濟をやつて居る人の多いのはこの女學校の家計簿記が大分禍をして居るのでないかと思ひます、私は從來の形式に拘泥せずに自分で勝手に考案したものを生徒にも教へ、自分でも實行して居りますが家庭と學校に仕事をもつて勞力を使ふものにもらくらくとやつてゆけます、費目は普通の家庭ならば衣服費、住居費、食物費、教育費(修養)交際費、運用費、豫備費(貯金)の七費目位で充分だと思ひます忙しい人には衣、食、住の三つでもよい位だと思ひます

第五 には記帳についてですが從來のやうに毎日の買物を記帳して其金額を累計してゆくのでなくて毎月初めに豫算額を明記して物品を購入する度に其豫算額から引去つて殘金を現すのがよろしいと思ひますそして剩餘のあつた時には次月にまはすし不足した時には次の月は豫算額から不足した分だけ差引いたものを以て豫算として超過しないやうによく緊張して次月の終りには使ひすぎを取りかへすやうに努力いたします、かくして毎月緊張して居りますと年末に豫想外のつかひ過ぎがない筈です、副食物費などは一日の豫算額を定めて毎日これを越えないやうに努力するのがよいと思ひます私は次のやうな形式でいたして居りますが毎日野菜を買ふにも魚を買ふにも其日の使つてよいお金高がはつきり

意識 いたして居りますから使ひ過ぎることは御座いません一日一圓で月三十圓と定めれば大抵三十圓の豫算で濟みます

副食物費(豫算一日一圓)

月日	品目	代價(十)(一)
一二、一	豆腐半丁	圓、〇五
	白玉粉一袋	、一五
	豚肉百匁	、四〇
	野菜	、一三
	澤庵一本	、一〇 (一)、三〇
一二、二	鮪五十匁	、六〇
	葱三百匁	、〇六
	燒豆腐四ツ	、一二
	豆一升	、一三
	烏賊	、四〇 (一)、三〇
一二、三	ハム百匁	、六〇
	上板一本	、二五
一二、四	野菜	、一三 (一)、二〇
	昆布二枚	、〇六
	挽肉百匁	、三五
	野菜	、三五 (十)、三五

豫算生活を壞すものは何といつても虛榮心です今日一般の經濟生活をみて、もすこし私共婦人が一家の經濟のみに立籠らないで社會の經濟國家の經濟なども考へて金錢を生產的に合理的に消費する爲にものと頭を働かさなければならぬと思ひます、經濟生活に少し餘裕があれば衣服費に使つたり着物とゆかないまでも半襟や履物のよいのを買つたり不必要な家具を飾つたりするやうな外面的な經濟生活から私共は

早く 足を洗つて時節柄今一度家の內部を詳細に見渡して箪笥や行李の中に徒らに貯へられて居るものがないかよく調べてこの際新しく金を出すことは控て手持品の活用利用に努力したいと思ひます、主婦は強い自覺を以て確實な豫算生活を送つて頂きたいと思ひます。

時局と教育(下)

大貫正

國家の多事多難に際しては國民は休戚を共にし體驗に訴へまして其赤誠を捧げ擧國一致の實をあげることが吾々の責務であります、護國獻金の眞意義も、眞精神もこれに要約されるのであります、然るに動もするとこの根本精神を忘れて獻金の多額を望むあまりに芳しからぬ方法によつて集めんとする者もないではないのであります、もとも〻獻金の趣意は

戰線に ある軍隊の勞苦を察して自分もこの苦みを共にしようとする純情より出發するのでありますから苟くも享樂を獻金の名に於て購はしめんと欲するが如きは其の根本に於て甚だ矛盾してゐるものであります、特に獻金の資源に關する方法等について奇を衒ひ金額の多少でも競爭する樣なことが萬々一にもありましたならば其の結果に於ては戰りはないかも知れませんが其の方法手段の醜惡なことに戰慄せざるを得ないのであります、而して

美しい 教育的の仕事に一抹の暗影がさすのであります、こんな事は現在に於ては微塵もないのでありますが鹿逐ふ者は山を見ずといふ譬へのやうに獻金の多額といふ事にのみ眩惑してその根本の精神を忘れないやうにとの杞憂から申上げるのであります、そしてこれは社會一般の獻金運動の眞意義にも共通する問題でありましてどこまでも美しい愛國、護國の純情の迸りでなくてはなりません唯この心ばかりが人を動かし世を動かすのであります、一死以て君國に奉ずる

軍人の 精神もこの國民が背後に於ける至誠の叫びがあづかつて力あるのであります、去る十四日我が大連市內の女子中等學校が聯合して旅順衛戍病院に傷病者を慰問致しました、こうした美しい心のあらはれが如何に勇士の意氣を鼓舞するか、次の手紙によつて明かなる事と思ふのであります

皆樣昨日はありがたう御座いました、皆樣の御心籠めての唱歌舞踊、慰問品總てのものがどの位無聊に苦しむ自分等の心を明るくして呉れたか知れません、殊に溫い御便りを拜見致しましては只

感涙に むせんで居ります自分等はこの御禮に代へまして一日も早く退院して再び戰線に立つて自分のめく劍尖に敵を刺したいと思つて居ります、皆樣は新聞や先生にお聞きになりまして御存じでせう、昂々溪、チ、ハルの戰闘を自分も此の戰闘に參加しました、勿論再び還る事は欲して居りませんでした十一月十八日三間房の戰闘に戰友は戰死し負傷して野戰病院に送られましたのに自分は微傷だになく逃亡する敵を追撃し夜を通して十三里、酷寒と飢と敵とに交戰しつゝチチハル迄前進しました、此の間に殘念ながら極度の

凍傷に 冒されて居りました、支那兵營に入城して自分の責務は遂行したと安心した時もう歩行困難になつて仕舞ひました、一時チチハル領事館の假病院に後送されたのです、戰死した戰友を想起した瞬間、自分自身の不運を泣かずには居られませんでした、赤き夕陽荒野の果てに落つる頃、宿營せる支那部落の端で誓つた戰友の言葉、今尚自分の涙を誘ひます、でも御陰樣で自分の足も餘程快方に向つて居ります、どうぞ御安神下さい、今度はもう命なんか眼中に置きません、先輩の

血と骨 とで築き上げた此の地はやはり自分等の血と骨とで保持して行きます、一歩たりとも敵の侵入は斷じて許しません、昨日皆樣の歌に「わたしの兄さん滿洲で死んだ、わたしの父さんも滿洲で死んだ」あゝそうそう守れよ滿洲でしたれ、あの歌が自分の腦裡から離れません、自分の叔父樣は日露の役に此の滿洲で戰死しました、自分もまた此の地に死ぬ事を希ふて居ります、そして遠い故鄕の幼い弟や妹達に守れよ滿洲を唄はせたいのです、次に昨日皆樣に連れられて來たキユーピーさんは自分が夜半に傷の痛みに目を醒ましても朝になつても目をパッチリさせて微笑んで居ります ほんさうに

大元氣 です、今度戰線に行く時は雜嚢の中に入れて連れて行く約束を今日しました、さぞ敵の機關銃や砲の音響に驚いて大きな目を白黒させるかも知れませんね、それとも少しも恐れず笑ひを續けて居りますかしら、二人のキユーピーさんの中一人は看護婦さんです、胸の邊に赤十字が附いて居ります、自分が負傷した時種々慰めて呉れるでせう、何れまた暇を見て書きませう、もう繃帶交換の時間ですから先は亂筆にて御禮申上げますと共に皆樣方の御奮闘を御祈りして筆を擱きます さらば

畏多くも明治天皇の御製に

國思ふ道に二つはなかりけり、戰のにはに立つも立たぬも

時局に處する國民のとるべき道はこれであります、殊に教育者は飽くまでも至誠至純報國盡忠の一念に燃えこの時局に當りまして國體觀念の養成と國民精神の涵養に努むることが急務中の急務と思ふのであります

勅題に因んだ新春の束髮

勅題「曉雞聲」に因んで新春の曉の朗かな氣分を現はした一九三二年の束髮です、寫眞の右(上)と(中)は東京美容院德永千代子さん結上、その下はすゞらん美容院內田秀子さん結上、左の上中下は共に遼東美容院濱口いつ子さんの結上げです

一 ヒトモ ウマモ アリノヤウ ヒロイノハラハ ドコマデモツヅイテ キモチノイイ コト

二 タイチヤンハ ヒコウキニ ノツタ ツモリデ ヨロコンデ キタライツカ オホキナイシ ノソバ

三 オトウサンタチノ キル イシダツタガ ドコヲミテモ イシノホカハ ナニモナイ

四 イシハ オホキクテ ウゴカナイノデ コマツテキルト ニワカニ モリノナカカラ ヒトノ アシオト

滿日各地版

穆純昌歸順
熙長官に嘆願の上 軍部に指示を乞ふ

【長春】長春、南嶺の激戰で敗退した砲兵營團長(大佐)穆純昌は十九日手兵二百名を率ゐ南嶺を逃走後二十日双陽縣城に入り數日滯在中に敗殘兵一千名餘を集め驛馬河に沿ひて北進吉長線下九臺附近を橫斷東支沿線老少溝兵營に逃入し吉林省新政府に反抗的態度を示すに至つた、然るに一方東支南部線一帶に於て反國治軍の色彩が最も濃厚にしてゐた双城縣駐屯第三十二旅團々長蘇德臣が最近に至り歸順を表したゝめ穆團長も此處にその不利を悟り歸順運動を開始し本月十一日夜寬城子次驛一間堡驛に下車徒歩吉長線東站(長春驛次驛)より乘車十二日吉林に赴き極秘裡の間に熙長官と會見歸順につき嘆願するところあつた、熙長官は軍部關係に運動了解を乞ひその結果二十三日午後八時三十五分着列車で來長同夜金壁東中將を訪問同中將の斡旋で板野憲兵分隊長と會見二十四日午前十一時三十分板野少佐の盡力で旅團司令部に長谷部少將と會見謝罪その指示を乞ふに至つた譯であるが穆團長は近く老少溝兵營に部下を糾合の上家族を纏め吉林の砲兵營團長として拔擢就任することゝなつた

女學生の歸省に 教諭附添ふ
時節柄、萬一を懸念し

【旅順】旅順高等女學校在學中の生徒にて二十四日終業式と共にそれ〴〵父兄の膝下に樂しき新春を迎へる爲め歸省する者は總計二百十二名にて、時局柄州外の者に對しては學校から伊藤教諭附添ひ各驛頭に於て兩親へ引渡す事となり歸途伊藤教諭は各方面を慰訪慰問を爲す由である、因に沿線各地から來てゐる生徒は左の如くである

▲二十四日午後八時二十分出發 立山、煙臺、郭家店、長春、鷄冠山(各一名宛)蘇家屯、公主嶺(各三名宛)四平街(四名)撫順(五名)奉天(六名)開原(十二名)

▲二十五日午前九時三十五分出發 松樹、九寨(各一名宛)周水子、南臺(各二名宛)熊岳城、海城(各三名宛)沙河口(六名)金州(九名)普蘭店、瓦房店(各十名宛)遼陽(十三名)大房身(二十一名)大石橋(十七名)營口(二十六名)大連(二十八名)安東(三十二名)

托鉢金を獻金

【鞍山】鞍山佛教團の高野山、淨土宗、東本願寺、不動尊、臨濟宗、曹洞宗の六派合同托鉢は本月上旬より行はれて居たが六派代表二十四日地方事務所社會係に出頭し托鉢金五十圓を獻金した

鮮農三百餘名 慰問金を贈る

【奉天】瀋陽縣吳家荒居住鮮農代表三名は三百餘名よりの慰問金七十六圓を持參し廿四日軍司令部副官部に出頭し戰傷將士に渡され度き旨申出た

北海ハーモニ 會沿線を慰問

【旅順】旭川全市高等女學校及び同小學校女生徒を主體とし校外情操教育目的の下に組織された北海ハーモニ會協會では今回旭川高女生田代美代子(四年生)笠井豐子(二年生)友田辰子(三年生)同北都高女生坂內千惠子(二年生)花輪千枝子(四年生)金谷松江(二年生)の六名が代表し久慈、小野、佐々木三教諭、佐藤會長、大原商議書記と共に一月二日來旅、旅順衛戍病院を振出しに沿線各地の各方面慰問行脚を爲すと

桐野裝甲列車 匪賊を掃蕩す

【連山關】二十一日午後六時二十分連山關出發の桐野特務曹長の指揮する裝甲列車は逐次敵情を偵察しつゝ湯山城驛に到り更に引返して午前八時三十分林家臺を通過、黃家堡子舊傷場に到り三時其東方高地に敵匪約百名あるを知り直に下車之れを攻擊、步兵砲の威力と相俟ちて徹底的打擊を與へ敵の數名を射殺、負傷者多數を作り潰滅に期せしめ正午悠々連山關に引上げた

匪賊四百餘名 鮮農を襲ふ

【長春】二十二日東支沿線米沙子驛南方三十支里尚家店に現れた匪賊四百名餘は通行中の鮮人を襲擊輸送の途にあつた糧十二石、大豆百七十八麻袋、馬車十七輛、馬七十頭を掠奪した上馬車夫の支那人十九名を人質として拉致一隊二百名餘は吉長沿線卡倫驛東方十八支里の地點に現はれたゝめ吉林護路軍六十五名及機關銃連(五十名)は此の討伐に出動せしが賊は逃走した

鞍山農商聯合會 着々內容を充實

【鞍山】曩に鞍山附近は匪賊猖獗を極め住民は戰々兢々として何れも生業に安んずることを得ざりしかば地方の治安を維持し併せて經濟上の融和發展を計る目的の下に去月十四日鞍山附屬地を中心とする二十一ヶ村の商務會及び農務會を以て鞍山農商聯合會の組織せられたることは既報の如くなるが、其の後日本側各機關の援助を受けて順調に發展し他の各地より參加するもの續々增加し、現在に於ては鞍山を中心とする遼陽縣第六區第十一區劉二堡(鞍山西北方三邦里人口一萬五千)を中心とする第七區唐馬塞(鞍山の西方五邦里人口一萬)を中心とする第八區以上四個區管內の全村を網羅し、尚最近海城縣騰鰲堡(鞍山の南方三邦里人口一萬五千)の參加を得て頗る廣大なる地域に亘り、名稱も遼陽縣南部農商聯合會と改め新に規則を制定し近日總會を開き役員を決定する筈である、而して今後の警備方面は別に機關を設けて之を切離し專ら鞍山を中心とせる產業交通其他經濟的公共事業を起し以て地方開發に貢獻し公利民福を計るを目的として着々之が計畫の步を進めつゝある

小學生の慰問

【撫順】撫順永安小學生代表の傷病兵慰問二十日午前九時半發列車にて永安小學自治會代表尋五六年二十名は瀧野校長に引率され赴奉日支事變の第一線に起つて皇國の爲盡せる在奉各軍隊及び衛戍病院を訪ひ傷病兵を具に慰問する處あつた

警官慰問會理事長北行

【奉天】在滿警察官慰問會理事長佐藤榮志氏は二十二日來奉同日北行したが、同氏は酷寒滿洲の曠野に於て第一線の警備に當つてゐる警官を慰問する傍ら警官の努力を體驗するため自ら派出所等に宿泊しその實情を內地へ紹介するため奉天には一兩日中來奉年內に慰問を終へ安奉線にて歸國の豫定である

包圍の鳳凰城 防備工事施行

【鳳凰城】兵匪團の包圍狀態にある當鳳凰城は何時匪賊の襲來するやも計り難きを以て、二十四日朝來駐在の警察官は多數の內鮮支人を指揮して附屬地の周圍に防備工事を施しつゝあり

大堡にて邦人 一名射殺さる

【鳳凰城】本月二十日西川中尉が一小隊を率ゐる大堡附近の匪賊討伐に出動の際連行せる日本人某は同隊の偵察に赴き三日の後大堡に歸り止宿中、匪賊の便衣隊を受けたる住民に包圍されて射殺された、その際同宿の鮮人鄭光錫も大腿部に貫通銃創を受けたが生命に別條はない模樣であると

凶作に惱む 青森縣に送金す
公主嶺在住者一同が 出動將士の留守宅に

【公主嶺】東北各地に於ける凶作に苛まれた農村の疲弊はその極に達し悲慘の狀態にありて滿洲事變に際し青森縣附近より滿洲に出動せる多數の將士は硝煙彈雨下に激寒と戰ひ兵士の如きは零碎の給與金を鄉里に送りつゝありと洵に同情に堪へず出動將士留守宅の窮乏援助の微意を表せんがため僅少であるが公主嶺在住者一同より金百圓を地方事務所長森景樹氏より青森縣知事に宛送金した

年賀郵便 例年に倍加
奉天の取扱數

【奉天】年賀郵便の特別取扱ひを開始した奉天郵便につきその取扱ひ數を聞いて見ると本年は軍隊が出動してゐる關係上年賀郵便その他郵便物とも昨年の倍加してゐる即ち廿日は五萬三千七百通で昨年の同日は二萬六千五百通、廿一日は十萬六千六百通で昨年同日は五萬五千五百通を示し既に係員は輕便手古鄉の有樣である又一般郵便物の受付も廿日は四萬九千五百通で昨年同日は二萬四千通、廿一日は五萬四千通、昨年同日は二萬二百通である同局では廿三日から大連講習所から十五人の應援を得て大々的に仕事を開始することになつた

中國官吏の 增俸を計畫
蓋平縣で

【大石橋】從來中國官吏の俸給は至つて薄給にして殊に委任官以下は潔廉なる官吏として其の體面を保ち能はざる現狀に鑑み、蓋平縣指導委員等は各公務員增俸を必要なりとし昨廿一年度は本年豫算の二割增とし(公安局公安隊に限り三割增し)目下豫算編成中にて奉天新政府當局の認可あり次第之を實施すべしと云ふが、一度び此の報傳へらるゝや一般官吏は勿論市民及部落民に至る迄何れも自治制度の善政を謳歌し居れりと云ふ

公主嶺警察署員の警備

界前線に零下三十度の酷寒を衝き警備の光景

匪賊來襲の情報に公主嶺警察署員が附屬地警備

長春

警官の辛勞を 極力慰安接待
警察婦人會が

長春昨今の夜間は零下二十五度から三十度を示してゐるがこの凍りつく寒夜を徹宵、匪賊潜入防止及び歲末警戒のため、勤務してゐる警察官のため、長春警察婦人會ではこの辛苦を慰勞するため去る二十一日より警察署裏獨身宿舍に警察式に半數づゝ交代で出動大いにその接待振りを發揮してゐるが、二十一、二十二の兩日はそば、うどんデー、二十三日は市中側村田寺田兩氏の寄附としてそば、うどんデー、二十四、二十五の兩日は警察婦人會の甘酒デーとしてサービス百パーセントである、但し毎夜八時と十時の二回だが防寒靴さへカチ〱に凍りついてゐる街頭を拔身の拳銃で數時間を廻つて來る警察官の足は無感覺になり顏も手も同樣でこの辛苦を熱いうどんや甘酒で接待するのだからトテモ嬉しいらしい、尚婦人團は引續き接待デーを催す筈だがその間には各方面からの慰問デーもある模樣である

航空隊出動す

獨立長春飛行第〇中隊〇機は市民多數の見送裡に二十四日午前十時七分先頭機離陸、南下某方面に出動したが陸上勤務の殘留部隊(先發は二十三日夜八時三十分發)は二十四日夜十時發にて航空隊の跡を追ひ出動した

夜間電報取扱開始

長春城內電報局は最近匪賊の橫行が頻繁であるため、從來取扱はなかつた夜間電報事務も特にその取扱ひを許可することゝなり既に開始した

公主嶺

兒童自治會員 慰問金を贈る

公主嶺小學校の兒童自治會員は時局の現狀に鑑み兵匪と慘烈なる奮鬪をなしつゝある公主嶺守備隊騎兵聯隊の兩將士と警察官、衛戍病院に加療中の傷病兵士に對し二十四日慰問金を贈つたのであるが各會員は校內に募金箱を造り學業の傍ら家庭にあつて種々なる働きにより調達した金が二十一圓廿六錢となり役員の男女生協議の結果守備隊に八圓を騎兵隊に五圓を警察署に五圓を衛戍病院に三圓二十六錢(菓子)を贈つた外高等二年の女生は昨今の酷寒を衝き蒲鉾の行商による收益金二十三圓を守備隊に贈つた優しい女生の心に愛國心の熱血と自發的全校生徒の小さい願にも強く響き獻金しやうと決心した健氣な行爲に感激措く能はざるものがある

憲兵隊に獻金

公主嶺警察署勤務巡查齋藤眞吉同驛員長谷川盛一の兩氏は二十三日駒井憲兵隊長に宛て金十圓に書狀を添へ送附してきた

鐵嶺

強盜三十名と 自警團交戰す

【奉天】廿四日午前零時頃奉天鐵西管外撫軍屯支那糧貨商聚興東方に長銃所持の卅名組賊現れ蒲團五枚、衣類十枚、防寒靴一足を強奪し逃走せんとした時、急報により驅つけた自警團員十五名と衝突し大交戰をなし自警團員一名の右足部に盲貫銃創を負はしめ西方に向け逃走した目下犯人嚴探中である

奉天

興禪寺婦人會も 聯合會を脫退

聯合婦人會より佛教五派の婦人會が連袂し脫退した事は既報したが興禪寺婦人會でも廿三日全幹事會を開き聯合婦人會脫退を決議した

教育委員任命

奉天市政公署では今回市教育委員會を組織し左の八氏を委員に任命來春より開校の管下小學十九校の準備研究をなさしむることゝなつた(地方名士)趙載裕、杭常瑞(一校長)林耀山、于濂、劉宗基、傅文獻(教育專門家)周福金、李存甫

林大使送別會

今回ブラジル大使に榮轉した林奉天總領事に對する奉天官民の送別會は二十四日夜ヤマトホテルに於て催された參會者百五十名、席定まるや野口居留民會長一同を代表して此際滿蒙の事情に精通せる林總領事を失ふを惜み送別の辭を述ぶるや林氏は悲痛なる面容にて過去二十年來夢寐にも念頭より去らざりし滿蒙問題將に建設期に入らんとする秋、官命とは言へ此地を去るは殘念に堪へない然し將來必ずや一度ならず二度三度否四度五度この地に來りたい、本日は時節柄この種の催しを御斷りしたのであるけれ共諸公の驥尾に附し微力を致し是非との事で一言御禮旁々お詫びに來たのだと聲涙並び下る約三十分に亘る謝辭あり宴席近來稀なる緊張味を帶び八時散會した

遼陽

中間驛慰問 婦人會が

遼陽俱樂部婦人會の奉仕部役員と當番幹事は野村主事が帶同の上左記日割に依り中間驛在勤社員並に家族を慰問の上煙草やキャラメルを慰問の印に贈呈すと

▲首山、張臺子(廿四日)山本、飯田、古賀、中村(地方係長)各夫人

▲十里河、沙河(廿六日)若林、山中、寺澤、中島各夫人

▲煙臺採炭所、太子河、煙臺驛(廿八日)杵淵、泉、佐瀨、寺澤各夫人

鮮銀支店長招待

大串朝鮮銀行支店長は廿三日午後五時半から新聞記者團を中日飯店に招待懇親の宴を催した

大石橋

バザー益金を 慰問獻金す

大石橋小學校及家政女學校に於ては昨二十二日午前十一時より同校講堂に於て生徒の製作品展覽會を兼ねバザーを開催し、手藝品手工製品の豫約販賣並に實習品の即賣をなしたが、四百四十餘圓の賣上げにて純益金八十餘圓を得たるを以て本日谷口校長は生徒總代四名を隨へ守備隊憲兵隊及び警察を夫れ〲訪問該純益金を按分慰問の意を表した

沿線往來

▲多門第二師團長 廿三日夜過奉遼陽へ

▲首藤滿鐵理事 同日歸連

▲村上滿鐵鐵道部長 廿四日來奉

▲宇佐美奉天事務所長 二十四日午後歸奉

▲入江滿電專務 二十三日來奉

▲大藏男 廿三日赴連

▲[illegible]遼陽地方事務所長 二十三日歸連

▲多門第二師團長 廿三日夜行で北方から歸遼

鞍山

實業協會協議

鞍山實業協會では廿三日午後四時より協會事務室に於て役員會を開き協議したが結果左の如し

一、消費組合撤廢に關するの件に就ては委員附託とし委員には加藤政人、三浦源七、田中末松

二、昭和製鋼所問題に關するの件は文章を以つて政府要路首相、陸相、拓相、政友會其他に請願す

三、南大將來滿に關するの件に就ては南大將に會見し鞍山の現狀を陳情することに決定

四、歳末決濟日に關するの件に就ては昨年の通り三十日に決定

五、特別評議員推薦に關するの件は小野寺所長を推薦す

六、奉天商議よりの通報、滿蒙の經濟發展に對する障害排除方に關するの件に就ては各要路に請願す細目は加藤會長一任に決す

農商聯合會自動車を運轉

遼陽縣南部農商聯合會は區域内の交通機關の完備を計る爲め先づ第一歩として鞍山劉二堡間及び鞍山騰鰲堡間に乗合自動車並に貨物運搬自動車營業を開始することゝなり既に遼陽縣政府の認可を得目下南滿電氣會社との合辦經營を爲すべく計畫を進めつゝあり而して最初は客自動車二臺と貨物自動車四臺を運轉し將來順次營業を擴張して鞍山を中心として背後地一帶に自動車交通網を張らんとする豫定であると

味岡中隊歸鞍

北滿方面に出動中の鞍山守備の第三大隊第三中隊味岡中隊は部下百二十名を引率し二十四日午後八時鞍山驛着列車にて歸鞍した、驛頭には官民多數の出迎へがあり盛況であつたが同中隊の將士は皆元氣旺盛で守備隊に入つた

瓦房店

兒童の慰問金　署長感激す

瓦房店小學校にては今回の時局に關し軍隊及び警察官を慰問すべく各家庭と連絡を取り慰問金を取纏め慰問狀と共に松尾、高尾の兩兒童が代表となりて二十四日警察署に出頭贈呈方申出でた右に付佐藤署長は語る

兎に角此の純情溢れた慰問狀を見て吳れ各兒童の腦裡に今回の事變即ち帝國の興亡に關する擧國一致の大事件が如何に深刻に響き如何に熱心に考へて居るかが判る、生徒の赤心の發露は勿論であるが此様に仕立て撫育しつゝある教師及父兄の人格も偲ばれて涙なくては此文が讀めぬ我々の努力はまだく足らぬ一層感激奮起を促された

入營兵出發す

當地在住者にして今回入營する者左記は二十三日午前九時發列車にて出發したが多數官民の見送りを受け萬歳裡に出發した

甲斐虎彦氏野戰重砲兵第二聯隊へ△岩瀬政行氏熊本工兵第六大隊へ

旅順

貯金通帳を拾得屆出づ　二千四百圓

元寶町齋藤アイさんは二十二日午後二時過ぎ鯰島町で二千四百圓の貯金通帳を紛失したが新市場の臨田滅と云ふ婦人が拾得感心にも屆出たので、二十四日御禮に金二圓を贈られたので「阿呀！謝々々」

兎耳鷲目

旅順警察署巡査村上節、富樫玄英、名和谷利雄、佐々木一三、三原[illegible]三の五巡査は今回奉天署へ轉任

◇

廿三日朝出發した警察官練習生中安東驛は廿四日無事着安したので市長宛一同無事着いた、御厚意を謝す市民へよろしくとの入電があつた

◇

旅順衛戍病院入院中の戰傷兵九名は二十四日午後八時二十分發列車にて原隊へ歸還した

◇

黄花魚風經漁業獎勵會通常總會は廿四日午後一時から旅順民政署に於て開催昭和五年度決算同七年度豫算に就て附議する處があつた

◇

旅順第一中、第一小、同二小、高等女學校では二十四日それく終業式を行ひ校長よりの訓話ありて一月七日迄休業となつた

第二の反抗 (113)

三宅やす子　阿部金剛畫

東京へ (一)

翌朝、お靜は、父が隣家に行つて居る隙を見て、うちを忍び出た。父には眼につくやうに置手紙をしておいた。手紙には、金のしまひどころが書いてある。

「……今日のうちに、すぐあとのお金を送ります。くはしいことは落ちついてから、手紙にかきます。このお金の出どころは心配しなくてもいゝのです。わたしは藝者になるのはどうしてもいやですこまわつて下さいね」

そのあとのことが、どうならう、それまでを考へて居られるお靜ではなかつた。

自分が此土地に居たら、いつまでもけりがつかないのだ。東京へ東京へ

またこの身體は、當分、誰にも知られずに働くことが出來る――汽車に乗りこんでしまふと、お靜はホッとした。

此儘、東京についたら――どこに行かうか。

昨日奥さんの渡してくれた名刺を、がま口から出して見た。

これは奥さんのお實家だらうか、奥さんの兄さんなら、きつと優しいいゝ方なんだらうか。

優しい、と考へると、すぐにお靜は、亡つた彼女の愛人のことが思ひ出されるのだ。

まだどうしても死んだとは思はれない。どこからか、ひよいと出て來て「俺も一緒に東京に逃げやう」と云つてくれさうな氣がする

でも、もうあの人には此世では逢ふことが出來ない。自分の不幸は――何と云つても、これ以上の不幸はないのだと思つた。

汽車に乗りなれないお靜に、汽車は無しやうに退屈だつた。隣の四十男がしきりに何か話しかけた。お靜はかたくなつていよく退屈だつた。

驛で辨當を賣る聲がきこえても彼女は何も食べたくない。

默つて、飲まず、食はずで、彼女は上野の驛に着いてしまつた。

賑やかな東京の街、どつちに行つていゝかわからない人ごみの中を、よその人はさつさと、さも急用があるやうな顔つきで歩いてゐた。お靜は、行先の電車をたづねるために、まづ交番に寄つて、おそるく彼女の行先を書いた名刺を出して見せた。

「ハアン」

ねむさうに立つて居た警官が、ひげを一寸ひねつてから云つた。

「これや、なかく遠いよ」

「…………」

「省線で行つた方が可え」

省線で、と云はれても、お靜には見當もつかなかつた。

「地理が不案内らしいな」

と當然なことを云つて

「そら、あすこに行つて切符を買ふんぢや、高田馬場の驛で降りてそこで降いた方が可え」

お靜は云はれた通りに省線に乗つた。

空腹が、急に感じられて、めがまはりさうだつた。

お化粧の座談會　第一回

寫眞は右上から下へ（いろは順）

市村羽左衞門丈　坂東三津五郎丈　坂東彥三郎丈　高砂屋福助丈　尾上梅幸丈　尾上菊五郎丈　中村吉右衞門丈　松本幸四郎丈　澤村宗十郎丈　守田勘彌丈

菊五郎・私が四十餘年の舞臺生活の中で、眞の化粧料として、サーワ白粉程滿足致した品はありません。右サーワ白粉は、チタニウム研究所長三木元子女史の創製に成る物で、二酸化チタニウムを主體とし、或る特殊の成分を配合して作られた、絶對無鉛製の白粉です。元來チタニウムと云ふ物が、鉛とは共存しない性質を持つて居るものださうで、此白粉が確實に無鉛である事は既に權威ある學界の諸博士が證明されて居るのですから、確實に完全である事が保證されます。私は三木元子女史から此サーワ白粉の試用を依頼されて實際一年有餘の研究を續けましたが、其間三木女史はよく私の言ふ事を聞入れて呉れて、ほんの些細な缺點までも殘る方なく改善して、爰に始めて本邦唯一の眞の化粧料が完成された譯です。

梅幸・私は菊五郎から勸められて、サーワ白粉を使用する事になつたのですが、全く在來私共が使つてゐたもの、缺點であつた附着と伸びの惡い事が斷然なく、昔の鉛白粉同樣に附着がよく伸びがよく、其上に水刷毛を遣へば遣ふ程、生々とした白さの艶が冴えて、然も乾きが早く一度仕上げた化粧振りは、長時間を保つて化粧崩れのしないのは、事實驚歎に價するものがあります。在來の化粧は、一時間位の長丁場の舞臺を勤いて、部屋へ戻つて鏡を見ますと、孰れの爲に襟白粉が剝げて居たり、又は汗の爲に顏の化粧が崩れて居る事が度々でしたが、サーワ化粧をするやうになつて以來は、一時間以上の舞臺を勤めて入いつて來ても、少しも化粧崩れのしないのは勿論、全體の白粉面が白粉を附けた時よりも却つて美しく冴えた白さを現はして居ます。斯う云ふ事は斷じて今迄には見られない、尤も偉大な効果です。

幸四郎・全くサーワ白粉の化粧榮えは、附けた時よりも程經てから、艶の冴えた白さを現はす事です。それにサーワ白粉は在來の半量以下で、以上の白さを作る事が出來ます。先般歌舞伎座の「忠臣藏」で、私が定九郎を勤めた時の如きも、いつもの例で手足から胸へ掛けサーワ白粉を塗つて出ました所、時の經つほど白さが濃く冴えて來て、あまりに美し過ぎるので、追々に手加減をして調子を取りましたもの、始めのうちは是までの習慣上、白粉を多く附けて、言はば皮膚の上へ白粉を一皮冠せて化粧をしたものでしたが、サーワ白粉は半量以下の薄さで、倘それを水刷毛で刷伸して、同じ結果を得られる計りでなく、白粉が薄く伸びる爲に、皮膚を透して生きた化粧の出來るのが特色です。

福助・私なども其點に就いて、いつでも白さが濃くなり過ぎます。此頃は大分手加減を覺えて來ましたが、在來の固煉白粉が一興行二十五日間の厚化粧に三箇位を使用しましたものが、サーワ固煉白粉を專用するやうになつて、只の一箇で間に合ひます。

彥三郎・誰しもサーワ白粉の遣ひ始めには、さう云ふ經驗を持つて居ます。現在菊五郎などでもサーワ白粉の賣出し一ケ年も前から、サーワ白粉の試用者であり乍ら、矢張最初の間は濃く附け勝でしたが、此頃漸く調子が分つて半量で充分の白さを作るやうになりました。然もサーワ白粉は純國產のチタニウムを主體とした品ですから、サーワ白粉の專用は一面に國產の奬勵にもなり、併せて經濟上にも頗德用でありますし、且皆さんの賞讃されました如く、眞の化粧料として完全無缺な品ですから、大日本俳優協會では、東京衞生試驗所の檢査を經て、一般の俳優界へサーワ白粉を推奬しましたのと同時に、日本俳優學校でも、學生一同の化粧料に、サーワ白粉を專用させる事を發表しました。

吉右衞門・取分けて私のやうに汗性の者は、技藝に熱しますと、寒中でも瀧のやうに汗が流れて顏や襟の化粧が崩れて來ます。しかし役柄に依つては、途中で顏直しをするのは、大に感興を減じますから、無據幕切まで辛抱もしましたけれど、サーワ白粉を專用するやうに成つてから此心配が無くなりましただけでも、サーワ白粉の効果は、しみじみ有難いと思つて居ります。

三津五郎・私も亦吉右衞門に負けない汗性で、在來の化粧では、踊つて居る中に汗の流れで、どうしても化粧崩れがしましたので、踊の間に粉白粉で急がしく顏直しをしたものでしたが、サーワ白粉專用以來、汗を押へる事はありましても、化粧崩れのした事を覺えません。

羽左衞門・それにもう一つ、サーワ白粉の化粧振が美しく仕上る證據としては普通の化粧で寫した寫眞と、サーワ化粧で寫した時の寫眞とを見比べると、サーワ化粧で寫した寫眞は、際立つて目鼻立がクッキリ鮮に寫るのです。是等は一寸人の氣の付かない事で、實際の化粧榮えの上に、どれだけの相違があると云ふ事が、誰の目にも瞭然と見分けが付きます。

宗十郎・殊に俳優の舞臺化粧は、一般御婦人方のお化粧よりも、舞臺の關係上からしまして常に厚化粧濃化粧を多く作ります。從つて今までは、厚化粧を續けて居る者の顏には、必ず白粉燒と稱して、黑い斑點が殘つたものでしたが、サーワ白粉に限つては、年中厚化粧を仕續けて居ても、決して白粉燒が出來ないのですから、私は悴たちにも申付けて、サーワ白粉の專用をさせて居りますが、倘一つ私の經驗から得ましたサーワ白粉の特長を申しますと、在來の化粧が兎角附着がよからず、中には粘り氣で白粉を保たせるやうに出來て居る品もありまして、白粉を塗上げました顏が、指へ物をして居る感じで、うつかりと手も付けられないやうに思はれたものですが、サーワ白粉は分子が極めて細かく、肌障りがサラサラとして、最も乾きが早く、且白粉を塗つて水刷毛の化粧法で刷伸して仕上げた跡を、サーワ化粧水で停めて置けば、障つても擦つても化粧崩れのする事がなく、安心して快感を持つて居られますし、舞臺の上で顏直しをする事も無くて濟みます。つまり煎じ詰めて申せば、ヒッタリと皮膚に合つて、殊更に白粉を濃く塗つて居る氣分でなく、眞から美しくなつた心持で居られるやうに思はれますのです。

勘彌・俳優の舞臺化粧の中で一般の御婦人方のお化粧と相違する點は、舞臺化粧は顏の化粧に釣合はして必ず手先へも化粧を施します。又或場合には足の化粧を施します。但し足の化粧は特に足を出して見せる場合だけですが、手の化粧は恐らく缺かした事はありません。さうして厚化粧濃化粧の時には、手の甲から二の腕へ掛けて、煉白粉を薄めたものを、塗刷毛で刷伸しまして、更に手先へ水を付けて撫伸して行く方法を取りますが、それは舞臺化粧に限られた事と申してもよろしいので、敢てお勸めはいたしませんけれど、一般の普通化粧をなさる方々が、顏のお化粧の白さとは反對に手の赤いのは、つまり顏だけへ白粉を塗つて居る事を證明するやうに見えますから、顏のお化粧よりは勿論薄く、サーワ粉白粉を刷附けて、それを掌で擦込んで置くだけで、充分釣合の取れる美しい化粧が出來ますから、此義は是非御實行を希望いたす所であります。

菊五郎・化粧はすべて行屆かなければならないでせう。如何に顏の白粉が美しく附いて居ても、耳裏に白粉が固まつて居るとか、生際の白粉が濃過ぎるとか云ふ事は、要するに自然に背いた事になる譯で、昔の名優は耳の白粉を拭いて、耳朶へ一寸薄く紅を刷附けて置くとか、鼻の穴へも薄く白粉を刷いて、其中へ薄

な完全な化粧料が出來て、私たちの多年の理想が實現されたのですから、いよいよ佳き化粧品に依つて佳き化粧法を研究して行きたいと思つて居ます。

梅幸・それにはサーワ化粧品の種類として、サーワ白色固煉白粉、同肌色固煉白粉、同白色煉白粉、同肌色煉白粉、同純白水白粉、同肌色水白粉、同濃肌色水白粉、同純白粉白粉、同肌色粉白粉、同濃肌色粉白粉、サーワ化粧水、サーワ白粉下、サーワコールドクリーム、サーワヴァニシングクリーム、サーワクリーム白粉、サーワ頰紅、サーワ口紅等が完成されて居ますから、夜の化粧には肌色を用ひ、年增の化粧には濃肌色が適當と云ふやうに、殆んど思ひの儘の化粧が出來る譯です。

羽左衞門・前にも幸四郎から話が出て居たが、昔は手足へ白粉を塗ると、其白粉が衣裳を汚して衣裳屋が困つたもので、白粉を酒で溶いて附けるのが、衣裳を汚さない方法として、我々もそれを實行して居たものですが、サーワ白粉は煉白粉を極薄く溶いて塗つて、仕上げると白く冴えて乾くので、衣裳を汚す事がない。萬一誤つて濃化粧を垂らすやうな事が、イヤ我々は手慣れて居るからそんな事はないけれど、もしあるにしてからが乾いた跡を叩けば、粉になつて飛散つて仕舞ふのであるし、又煉白粉でなくとも、サーワ粉白粉を刷附けて、パフで撫伸して行くだけでも、サーワ白粉ならば手足の化粧は充分に出來る。然も敢て白粉下のクリームを用ひないでも、實に綺麗によく附きます。

幸四郎・昔は俳優の濃化粧には、白粉下として堅油を擦込んだものであるが、私は唯今サーワ白粉下のクリームを專用して居ます。極めて少量を擦込んで充分に効果があつて、入浴をしてもミツワ石鹼で洗ひ落さなければ決して化粧は崩れない位によく保ちます。

遣はずとも柔かい布で一度顏をほてる位に擦つて置けば、肌理に吸收されて居るクリームの働きで、濃化粧薄化粧ともに、思ひの儘に美しく附くと云ふ方法を行つて居ります。

福助・濃化粧をして出る役から次の幕に薄化粧をして出る役のある時、今までは一々化粧を仕直しましたが、私は此頃サーワヴァニシングクリームで濃化粧を拭取つた跡へ、サーワ肌色粉白粉を刷附けてそれを仕上げたゞけで、簡單に且美しい化粧榮えを作つた事がありましたが、舞臺化粧としては兎もかくとして斯う云ふ事は一般の化粧法に應用が出來ると思ひました。

吉右衞門・それとは反對に、私は薄化粧の役を勤めた顏の上へ、それを洗ひ落さずに、濃化粧の上塗りをした事があります。尤も幕間の短い急がしい場合の時で、實は自分では多少の不安を感じて居ましたが、扨塗上げて仕上げて見ると、その二重塗が少しも際立たずに、新規に念を入れて作つた化粧と同じ結果を得たので、サーワ白粉は二重塗りにも成績の極めて良好である事を知り得ました。

三津五郎・サーワ白粉の化粧が一際よく白く冴えるのは、誰しもが齊しく認める特長ですが、私は少量のサーワ白粉下を擦込んだ跡でサーワ頰紅を指先へ附けて兩眼の周圍を薄くぼかして置いて、其上からサーワ固煉白粉を役柄に依る適當の薄さに薄めてそれを均らしてから化粧をして居ります。

勘彌・サーワ化粧に生々とした艶の冴え出る事は、全く外の化粧に見る事の出來ない、化粧料としての第一條件に適つた特長です。さうしてサーワ白粉は、固煉、普通煉、水白粉いづれも先づ入用の分量、在來の白粉の時に適つた半量でよろしい、それを別の器に取分けて置いて、夫々適度に水を含ました塗刷毛で右の白粉を數回撫均らすのがよろしい。撫で均らすだけ、白

ールドクリームの如きでも、之をお化粧下としては、多量に遣へばいゝと云ふ物ではなく、多量に遣ふ時には却つてサーワ白粉は滑つたり、寄つたりする事になります。少量を兩の掌でよく擦つて、それを額から、襟から、鼻と云ふ順に、力強く皮膚のほてる位に、逆に肌理の中へ擦込んで行く心持にするのがよろしい。それで一度柔かい布で拭取つて仕舞つて、つまり肌理へ吸收されて居るだけで、充分に白粉の附着と保ちをよくする効果が擧るのです。

菊五郎・サーワ白粉及びサーワ化粧品の一式に就ては、私は發賣以前からの試驗者として、各其特長は知り拔いて居るのだが、同じサーワ化粧に親しんで居る人たちの中で、何かサーワ化粧の缺點を見出した人があつたら是非それを敎へて貰ひたいと思ひます。

梅幸・サア強て缺點を言へば、サーワ白粉はあまりに綺麗になり過ぎる事だらう、特長の方ならばまだまだ細かに話せば幾らでもある。

幸四郎・化粧が綺麗に仕上がるのが眞の化粧料の値打であるのだから、それは缺點とは言はれない。それより分量の方が問題でせう。とにかく在來の白粉の半量以下で、以上の美しさが作られる、此半量以下が一寸むづかしい。ツイ今までの手加減で分量を極めるので、狂言の役柄によつてはどうしてもツイ綺麗になり過ぎる。一般の化粧としては綺麗に過ぎると云ふ事は無いが舞臺では役によつては困るわけです。

羽左衞門・其時にはサーワ樂屋用に朱胴色もあれば砥の粉色も出來て居るのだから、それを加減して交ぜればいゝさ、つまり一般なら肌色や濃肌色さ、白粉の話で綺麗になり過ぎるのに小言を言つたら、もうお終ひだ。

三津五郎・それでは芝居へ出勤の時間が近附きましたから座談會もお終ひにいたしませう

（M・M生速記）

？誰れが何れでせうか？（座談會出席諸丈の舞臺顏）

匪賊孤店子驛を襲ひ賣溜金を強奪し去る
驛員全部を驛長室に押込めて
吉長沿線不安となる

十數名より成る匪賊の一團は各自拳銃を所持して二十四日夜七時半頃吉長線孤店子驛を襲撃して一部は驛の屋外を見張り他の一部七、八名は驛長室に闖入して拳銃を突きつけて驛員全部を一室に押込め金庫を開扉して切符賣溜金鈔票三千八百五十元を強奪逃走した、賊が電信電話線を切斷したこと、驛と驛員宿舍間の交通を遮斷しその聯絡を斷つたこと等から見て同驛の襲撃は前より計畫されてゐたものと見られてゐる、なほ驛員には幸ひに死傷者が無かつたがこの襲撃の成功によつて今後彼等匪賊團は吉長線各驛の襲撃を引續き敢行せぬかと顧る憂慮され、一方吉長鐵路局では夜間の乘客が極度に減少するだらうと觀てゐる【長春電話】

約七百名の別働隊
安奉沿線二ヶ所に襲來

我軍の後方を攪亂せんとする匪賊別働隊の安奉線切斷計畫は最近頻々と行はれてゐるが、二十五日午前零時頃、殆んど同時刻に二個所襲はれ、高麗門驛附近では約七百の別働隊が鐵道線約百米附近迄迫り一時危險に瀕したが我守備隊は敵と交綏一時間半で漸く撃退した【安東電話】

牛心台に五百餘名
わが警官隊討伐に出動

二十五日正午頃牛心臺にまたく五百餘名の兵匪現はれ同驛襲撃の模樣があるので上田本溪湖署長以下四十名はこれが討伐に出動した【奉天電話】

湯崗子危險

田庄臺附近でわが軍のため掃蕩された賊軍の大部隊は二十四日午後になつて湯崗子の附屬地間近に現れた、このため湯崗子附屬地は危險に曝されてゐる【奉天電話】

鳳凰城襲撃か

鳳凰城附近を潰行しつゝある賊軍の頭目徐分海の指揮する別働隊は最近安奉線破壞を計畫し通遠堡の主力を以て鳳凰城附近を襲ふべく作戰中なりと【奉天電話】

各宮家より東北へ御下賜金

【東京二十四日發】北海道及び青森縣下の凶作御救恤の思召しを以て二十四日各宮家より内務省社會局を通じ金一封を御下賜あらせられた

飢饉地方の爲義捐金を募集
關東廳が

關東廳では今般の青森、北海道地方飢饉に對し義捐金を醵出すべく地方課より本廳以下各隷屬官署所に紹介募集中であると

派遣兵を歡迎
繪葉書を贈る

今回の滿洲派遣兵に對し大連市では埠頭港橋の南詰に歡迎門を建て各人毎に滿洲名所繪葉書五枚一組を贈呈し大いに歡迎する事にした

恤兵の劍道大會
大連、京城軍を破る

大連講道館有段者會並に滿洲劍友會の共同主催及び滿洲體育聯盟後援の軍隊慰問資金募集の武道大會劍道の部は引續き二十五日午後より續行、全市中等學校選拔劍道紅白試合は白軍先鋒の大藏河原四名を倒して優勢と見えたが紅軍一中の櫻庭もまた四名を倒して同點となり後白軍中堅育成の稻森敵三名を倒してまたもリードした紅軍の二中木下四名を續く一中難波もまた二名を倒し白軍大將育成の溝口孤軍奮闘して難波以下大將まで實に五名を倒し育成大廠聯合軍たる白軍を勝利に導く、次いで辻丸柴藤兩五段に依る大日本帝國……

我警察官派遣所を支那兵が一齊射撃
きのふ延吉縣下で

【龍井特電二十五日發】二十四日午後一時延吉縣銅佛寺のわが臨時警察官派遣所の一巡査が、同派遣所附近で突然支那軍隊より射撃され、次いで派遣所も五十乃至七十米突を隔てゝ數ケ所から一齊射撃を受けたのでわが警官側も應戰し約三十分銃火を交へ之を擊退した双方死傷者無し、右の支那軍隊は過般滿鐵社員二名を射殺した團長王德林の部下二十一名で事件後銅木溝に移駐してゐたのが今回更に吉林へ移駐を命ぜられその途中わが警察官を襲撃したのである、引續き後續部隊も同地を通過して吉林へ向ふので、わが派遣所は總領事館の應援を得て嚴戒中である、一方わが當局は延吉鎭守使に嚴重抗議中であるが支那側は吳參謀長を現場に急行せしめ事件の續發防止に努めてゐる

藤内巡査の遺骨
昨夕大連驛に着く

去る二十三日匪賊が高麗門驛並びに派出所を襲つた際派出所を守つて同僚と共に匪賊に應戰、衆寡敵せず遂に賊彈に斃れた藤内晃二巡査の遺骨は安東にて署葬の後引取に行つた令兄晃氏並びに元關東廳警視中尾大次郎氏に護られて二十五日午後四時五十分大連着列車で着いた、薄暗くなつた驛頭には當田民政署警務課長を初め愛國赤誠會、第二中學校、沙河口方面の人々など官民多數の出迎へがあつた着後直に驛ホームにおいて愛國赤誠會より贈られた線香で一般の人々は燒香し赴任一ケ月を經ずして悲しき遺骨となつて歸つて來た藤内巡査の英靈に涙新たに注がれそれより聖德街一丁目令兄晃氏の自宅に運ばれた（寫眞は大連驛着の遺骨）

『お馬に人參を喰べさせたい』
本社に寄託された心からの獻金數々

各地にて寒氣と缺乏に惱まされながら或は匪賊討伐に或は一般警備に身命を賭して奉公してゐる將兵や警官に對する一般市民の同情感謝は雪崩の如く日を追ふて熾烈を加へ慰問獻金となつて現はれてゐるが、左に掲ぐるものもその一例であつて、すべて寄贈方を本社に依賴してきたものである

大連朝日◇小學校六年四組の全女生徒は生徒の貯金や石鹸等を賣つて利益を擧げた金を掘附けの愛國貯金箱に投じ、たまつた二十圓四十四錢を持參したが、この内五分の一のお金はこの寒いのにお馬さんも可哀想だから人參を買つて喰べさせて下さいと女生徒らしい希望だ

◇同校五年一組石井啄爾、丸野一雄、粟津二郎、吉澤清、奈良安民の五君は文具、菓子の販賣利益金五圓十一錢也

同校女生徒　二名、男生徒三名は雪の降る日も風の日も本社の夕刊を賣つてゐたが、この利益金女生徒金五圓二十八錢、男生徒金三十圓十三錢

◇同校六年二組宮崎英二及弟弘二君は文具、タワシを販賣し利益金參圓七拾五錢

◇同校六年二組前原、淺野、鈴木、藤城、安藤、野口、小野寺、大塚、横峰の九君は文具、タワシの利益金貳圓六拾錢

◇同校六年二組西浦武、藤城吉の二君は文具、タワシの利益壹圓八十二錢

同校五年　一組正岡茂雄、上滿敏、中村吾郎、丸野一雄、加藤秀太郎の五君は文具やタワシの販賣利益金五圓三十四錢

◇同校五年一組山本初見、高崎の二君はマッチ、タワシの販賣利益金三圓二十四錢

◇長野縣上高井郡須坂尋常高等……

極貧、老病者に救濟金やお餅代

關東廳内恩賜財團慈善資金中から例に依つて歳末に際し正月を迎へることも出來ぬ管内の極貧者や老衰、病氣、孤兒等で各種の救護機關に收容されてゐる憐れな人々のために前者百四十一戸に對する救濟金として合計四百八十圓、後者被收容者七百九十三人に對する歳末餅代として五百八十四圓をそれぐ交附することに決し廿四日各民政署、警察署宛送附傳達することゝしたが、今回救助を受くる極貧者は大連九三戸、大石橋二戸、鞍山一戸、奉天二七戸、撫順一戸、開原二戸、長春七戸、安東八戸で餅代を交附さるゝ救濟施設及被收容者は左の通りである

△鎌倉保育園三八人二十六圓五十錢△大連聖愛醫院七三人七十一圓△大連宏濟善堂二一一人百五圓五十錢△大連醫院二人二圓△救世軍育兒婦人ホーム六七人四十圓五十錢△大慈園三九人二十三圓△滿洲託兒所一一人五圓五十錢△大連市社會館四五人四十五圓△智光院無料宿泊所一一〇人百六圓五十錢△爲仁會一六人十五圓五十錢△勞働保護會二七人二十二圓五十錢△大連力行會三四人三十四圓△赤十字社大連診療所三人三圓△遼陽滿鐵醫院三人二圓五十錢△滿洲醫大醫院四二人三十五圓△小谷育兒ホーム一四人七圓△奉天赤十字病院五一人三十二圓

柔道、擊劍の手で
上手な工專生徒の獻金餅搗

既報の如く南滿工業專門學校生一同の獻金となる賃餅搗きは總指揮監督、進行係、搗き手係といふやうな大掛りの組織で、申込みを受けた十石の餅搗きを二十五日の午後から始めた、同校炊事場と實驗室の兩所で搗いてゐるが景氣のよい杵の音が外まで流れて來る、湯氣がもうくと立ち上る間を右往左往し、この時とばかり汚いズボ……

遺書となり人々の涙を誘ふ
安達一等兵の置手紙

田庄臺の戰闘において最も勇敢な者として不幸賊彈に斃れ名譽の戰死を遂げたる第〇〇聯隊一等兵安達關政氏は最初錦州軍攻戰に參加し次で營口に參加の目的を以て實滿堂主池田清太氏宅に宿營を引揚げたが、同氏の宿營を引揚げる時安達氏は嚴封せる一氏に手交し「此書は私が死後で御開封下さい」と云つて田庄臺方面に出動した、然し手紙は未だ開封されないもなく安達一等兵が戰死の報が思ひがけない遺書となつたほどがしのばれ池田氏が置し香花を供へ供養をすの如く安達氏の人と爲り……

もてなしを受け、陣中にありし我等には沙漠の中に泉池を發見したるの感有之て、陣軍營へ移住後も御たづれする度に身に餘るお馳走にあづかり御親切父母にも及ばぬ御恩を受けたと難有感じました、此御厚情は死するとも忘れざる覺悟をして居ります、只今當地を去るについては在營二ケ年更に半生を通じてまだ嘗てない所の名殘り惜しさを……

年末消防警戒

大連消防署にありては年末警戒を兼ね廿四日より三十一日迄市内巡回隊を組織し火災防止に力める事となり午後五時より十二時迄二名或は三名を一組とした八組の巡回隊を市内各方面に巡邏せしむる事となつた尚廿四日夜は小火二件、市内明治町達昌油房、市内磐城町花月方より共に小火直に消止めた

辯護士に醫學博士

【東京二十四日發】法學士辯護士山崎佐氏は今回九大に日本疫病及び防疫史の二論文を出し博士となつたが法學士辯護士で醫學博士は面白くないとの反對論あり學位は醫學博士でも醫師の開業は差支へないと云つてゐる

早大野球部の河野氏辭任

【東京二十五日發】早大野球部の河野總務は今回一身上の都合で二十五日高杉部長に辭表を提出した尚同氏は我國野球界の權威者である

敷島町雜貨屋へゆふべ强盜押入
邦人らしく一物を强す逃ぐ

鮮人同胞へ同情金

市民射擊大會成績

好景氣來
三井岩崎兩邸へ押寄す

京華高女燒く

氷滑選手等愈よ出發

行方不明船客三十名

告別式行はる

關東學生射擊聯盟の慰問使

曙の鐘 (150)

倉田潮 作 河野想多 畫

山の夜 (三)

たえ子はあけみと話してゐる中に、相手が事件の眞相を總て知つてゐるのを悟つた。あけみの云ふことは、皆ちやんとたえ子の知つてゐることゝ符合した。時間まで一刻も違はず合つてゐた。たえ子はますますあけみが恐ろしくなつて、自分達二人の運命を握られてゐるやうにさへ感じた。

「あけみさん」とたえ子はしかし十分用心して口を開いた「私の推察は後で云ふことゝして、あなたの思つてゐることを先に云つて下さいな。あなたこそ心の底で春木が殺したのだと思つてゐるのぢやないの」

あけみは鳥渡考へたが、直ぐ決心したやうにうなづいて答へた。

「今はぐずぐずしてゐる場合でないから、打ちあけて本當のことを申しますわ。警察で考へてゐるやうな原因からではないかも知れませんが、正直に云ふと、私、とにかく剛太郎を殺したのは春木さんではないかと疑つてゐるのよ。持つてゐた短刀、あの時の足跡、それから指紋、總てがちやんと符合してゐるんですもの。たえ子さん、あなたもさう思はないではゐられないでせう」

たえ子は默つて苦しげに顏をしかめた。實は彼女も心の底で或は春木ではないかと、かすかに疑つてゐたのだつた。が、その豫感が不幸にも適中しようとは。春木が怖る可き罪を犯さうとは。が春木の氣性から考へると、水が油を嫌ふやうに汚らはしい剛太郎を極端に嫌厭することは自然であるまた剛太郎を社會の毒虫、蛆虫として社會そのものに代つて息の根をとめてしまふのが正義だと思はないとは云ひ切れない。さうだ、春木が殺したのかもしれない。あの時の怖ろしい顏や短刀……さうだ、春木が殺したのだ。たえ子自身に對する暴虐の敵をとる爲と、社會の爲とを思つて、春木が最後のとゞめをさしたのだ。あゝ、何と云ふ悲慘な悲劇だらう。限りない苦みと不幸と暴虐と困難と戰ひ勝つてやうやう幸福を得た春木は司直の手に無理にもぎ去られて、しかも怖る可き死の宣告の前に立たせられるとは……。これほど不幸な、薄命な戀がまたとあるだらうか。

たえ子は思はず熱いものが胸につきあげて來るのを感じた。あけみは相手の顏色から、心の中を見ぬいたやうに又一つ獨りでうなづいて、

「でも、たえ子さん、私、父を殺した人が春木さんにしても、その爲に春木さんを恨みに思ふやうなことは斷じてありあしないのだから、この點だけは承知して下さいね。剛太郎は今殺されなければ、何時か殺される業を持つた人間ですものね。いや、私、反對に春木さんを助けてあげ度いと思つてゐるのよ。その爲にこんな山の中へ夜中あなたを訪ねて來たのだわ」

「それは知つてゐますわ」

と、たえ子は呟いた。あけみは熱狂的に春木を戀してゐる。で、父剛太郎を死んで歸らぬものだと諦めをつけて、戀する男を救ひ出さうと思ふのは自然だつた。

「では」とあけみは言葉をついで「では、たえ子さん、今はつまらない感情に支配されて互に爭つてゐる場合でないから、二人心を一つにして春木さんを救ひ出さうではありませんか」

「その方法はあるのですか」

「その方法はあるのですわ」とあけみは急に勝ちほこつたやうに瞳を輝かした「私の考へる通りにすれば、春木さんはきつと無罪になると思ふのよ」

「ほんとですか」

と、たえ子は思はずあけみの手を握りしめた。すると、あけみも固く其の手を握りかへしながら、

「私、ほんとでないことは云はないわ」と膝をすゝめた「だが、ことに一つ難しい問題があるのよ」

新刊紹介

▲令女日記(昭和七年版) 布張りの綺麗なそして感じのよい表紙に先づ購買心をそゝりその表紙に「春來ればはれやかに、笑むかの君を、櫻少女と名づけてしかな」といふ吉井勇の詩を金字にしセンチメンタルな少女の日記に相應しいもの、月毎に嚴選された詩を挿入し欄の上部は日記を記すやうに下部はまた長詩を入れて美しいフレッシュな日記である、附錄には和歌、短歌を澤山載せ應急手當法は親切である(價八十錢、東京市日本橋區本銀町實文館)

▲その日〳〵(昭和七年版) 名の通りその日〳〵の事を處理するやうに便利に考案し一九三二年語辭典、主なる美術團體、知人名簿、金錢出納簿、スコアブツクなどの附錄がある、裝幀といひ內容といひ同じ所の出版にかゝるだけ令女日記と優劣はないがたゞ內容を見て貰つて好きな方をといふやうに造つたものらしい、どちらにしろ少女達にプレゼントとして贈つて必ず喜ばれるだらう(價八十錢、同實文館發行)

昭和七年滿蒙年鑑

(中日文化協會編纂)滿蒙年鑑昭和七年の分は例年の通り中日文化協會から出版された。六年には滿洲事變起り滿蒙の新建設が之れから始まるのだから年鑑の內容も殊に緊張充實を示して居る。最初の滿蒙概觀では滿蒙問題の意義、滿蒙の發達、日本の權益、軍閥の倒壞、滿洲事變と國際聯盟、世界の輿論と滿蒙等の題目下に、現在の滿蒙問題を概說してある、過去の滿蒙、滿蒙重要日誌も亦重寶である、次で例の通り地理、政治、經濟、交通、社會、教育、宗教、藝術スポーツの各項の下に滿蒙に關して吾々の知りたいと思ふ事はすべて詳細に渉つて網羅してある、或は解說に或は統計に、分り易く且つ必要に應じて索出し易く編纂してある、附錄として滿洲知名事業者名鑑、滿洲事變グラフ、滿蒙新選大地圖、滿洲主要市街地圖がある、要するに滿蒙の知識は此の一冊に具備されて居るから此れを座右に置く事によつて滿蒙に關する公私百般の事情は必要に應じて之れを袋に探ぐるが如く便利此上無し。滿蒙の知識が誰にも緊切な問題となつた今日此年鑑の持つ意義は殊に重要である(發行所大連市紀伊町九十一番地中日文化協會 定價金一圓五十錢)

けふの放送

大連 JQAK 十二月二十六日

▲廿六日午後四時五十八分(內地中繼)

▲理科學童劇(電氣)大阪科學童話劇協會

以下大連放送局より(六時)

▲ニユース

▲獨逸語講座「テキスト」第三十課(テキスト御入用の御方へは差上げます)大連語學校講師荻榮

以下內地中繼(七時)

▲放送舞臺劇 嗚呼明治二十七年(今西善男補撰)李鴻章(森操、)副艦長(金子彌太郎)遠藤修幾野武雄、日本赤十字社員春田繁(松永健太郎)日本新聞記者平田鐵彌(柴田善太郎)其の他、囃子(望月鉦之助社中)

▲落語劇 お米萬作「森曉紅作」(場景)一、村の名暮二、圓滿三、東京の砂煙四、日光見物五、電車の込み合六、やはり故鄕がなつかしい、萬作(蝶花樓馬樂)およね 吉野滿枝)役場の書記さん(柳家小三治)日光案內の口上(桂文治)見物人一(柳家小三太)同二(立川仙太)其の他

▲放送映畫劇(榮冠涙あり)「川口松太郎作」由利幸一(鈴木傳明)其の姉なほゑ(英百合子)南四郎(築田一郎)其の兄一郎(小村新一郎)宿屋の娘さし子(池上きよ子)選手河島(橫尾泥海男)同人見(吉谷久男)同島(關操)監督(山本東鄕)其の他、獨唱(遠山一郎)放送指揮(鈴木重吉)

以下大連放送局より

▲尺八(都山流本曲鶴翺松)一部森介山、二部濱岡球山

▲職業紹介事項

▲天氣豫報

▲ニユース

滿洲日報

（明治卅八年十二月十五日第三種郵便物認可）

溝帮子の支那正規軍 匪賊に增援して指導

田庄臺方面で猛烈に逆襲

關東軍當局の談によると錦州軍に屬する支那歩第十九旅は主力を以て大凌河以東に進出しその司令部は溝帮子にあるもの〻如く、匪賊中には敵の正規兵混入して居りこれを指導し居ることは確實で、二十三日わが田庄臺進入部隊に對し良民を裝ひて逆襲し來た、わが部隊は之に應戰し擊退せるも戰死者二名、負傷者八名を出した、なほ敗退せる兵匪は溝帮子附近より正規兵の一部の增援を受けたるもの〻如く田庄臺北側附近に集結し更に逆襲を準備中の如くである【奉天電話】

便衣隊を徹底的捜査

田庄臺で警戒中のわが軍

田庄臺における桂大隊は昨夕刻より旧に兵匪の逆襲に備へて徹宵嚴重なる警戒に任じ野砲の威嚇射擊をなして田庄臺の第二夜は事なく明けた、夜明と共に更に便衣隊の徹底的捜査を開始治安の恢復に當つて居るが、學良の密令を受けた便衣隊は各地に出沒して我軍を攪亂せんとして居るが廿四日夜は營口市街に現はれ軍用電話線を切斷したので憲兵隊では犯人を捜査すると共に嚴重な警戒網を張つて居る【營口電話】

天野旅團司令部は愈よ營口移動

けさ十一時遼陽出發

營口方面における匪賊討伐の狀勢は日を逐つて急迫してゐるが、遼陽駐劄天野〇〇旅團は關東軍司令部の命により二十五日午前十一時四十五分營口に旅團司令部を移動するため天野旅團長以下幕僚は特別軍用列車で一路營口方面に向つた、驛頭には遼陽の公私各機關代表を初め小學校生徒、遼陽駐劄軍將士の家族など多數見送りに出でたが天野旅團長は驛頭で「また行つて來るよ、お正月の餅も少し許り積込んだがサア何處でこれを食ふかな、何に、譯なしだ一週間もすれば歸るよ」と元氣一杯に語り萬歲裡に一路營口へ向つた【遼陽電話】

午後營口着

天野旅團長以下廿六名廿五日午後二時四十五分着にて來營、同じく三時の臨時列車にて騎兵〇〇名馬四〇〇〇頭到着の筈【營口電話】

〇〇聯隊兵も營口へ

遼陽に待機中の騎兵第〇聯隊〇〇〇名は馬〇〇〇頭と共に廿五日午後零時半營口に向け出發した【遼陽電話】

坪井聯隊長打合せ

坪井聯隊長は廿四日正午田庄臺に到り桂大隊長と重要打合をなし同

政府と重要事務打合に 内田滿鐵總裁東上

けふ出帆のはるびん丸で出發

内田滿鐵總裁は政子夫人同杉本秘書役と共に廿五日出帆はるびん丸に乘船出發した、滿鐵よりは江口副總裁をはじめ村上、首藤、伍中、山西各理事及び幹部總を始め各會社各社長、小泉市長等の見送りあつたが政子夫人も多數の見送人に圍まれ賑やかな彩りを見せた、總裁は定刻十五分前乘船特別室に入つたが簡單に政變後色々政府筋と打合せたい事もあるし滿洲問題に對しても了解を得ておく事が必要と思つたから行くのだ、別に急に行く事になつたんではなく、これは豫定の行動で奉天行き等で擲り少し遲れた位だ、歸連期？どうしても明春になるだらうが豫定は出來ないあとの事は江口副總裁に任せてある

と多くを語らず艦々甲板に立ち出で夫人と共に見送り人に會釋を交すところあつた【寫眞は内田總裁（右）と見送りの江口副總裁】

支那軍との衝突懸念 米國の對日注意喚起要旨

【ワシントン二十四日發】アメリカ國務省は錦州方面への日本軍進出問題に關し駐日大使フオーブス氏を通じ日本政府に對し新たな意思表示をなした旨本日公表した、聲明書の内容左の如し

國務省は十二月二十二日フオーブス大使に對し、滿洲駐屯の日本軍が錦州方面に進出を計畫し、その結果同地とその南方で**支那正規軍との武裝戰鬪行爲再發の恐れあり**との明瞭に根據ある最近の報道に徵し、アメリカ政府が抱く懸念を日本外務省に傳達すべしとの訓令を與へた、特に**アメリカ陸軍武官始め錦州における諸國陸軍武官オヴザーバーは支那軍が挑戰的軍事行動に從事し又は準備したる何等の證據をも見出さぬとの報道**をなしてゐるが、右に關し日本政府の注意を喚起するやう命じたものである

帝國政府はあす回答

英米佛三國警告に對し

【東京二十五日發】錦州問題に關し英、米、佛三國よりの警告に對し帝國政府は二十六日夫々正式回答を發する事となつたが、右回答の骨子次の如し

一、列國政府が錦州地方における日支兩國軍隊の間に不幸なる事態の發生せざらんやう配慮され居るは帝國政府も諒とする處である、然しながら同地方における日本軍は日本臣民の生命財産が現實において匪賊の跳梁により危險に暴露されつ〻あるため之が保護に必要なる範圍内においてこれら匪賊の討伐を實行しゐるものである、支那との間に進んで新に戰鬪に導き人命の損傷を來すが如き能動的措置を執るの意志に出るものでない事はいふ迄もない

一、新くの如き匪賊討伐の必要及び討伐の自由は過般の聯盟理事會においても各列國の諒承された處にして日本軍の討伐行爲が何等支那領土に對する領土的野心に基くものでない事は過般來の帝國政府屢次の聲明に依り各列國の齊しく諒承せる處である

一、列國の危惧する處は日本軍と支那正規兵の衝突であるべきも右の如き衝突は日本軍の能動的措置に依りてのみ惹起さる〻にあらず、抑々錦州地方における匪賊は多くは錦州政府當局の使嗾を受け暴虐を逞ふしつ〻あるものにして匪賊の背後に支那正規軍の存在する事は疑ふべからざる事實である、而して日本軍の討伐を受けたる匪賊が錦州城内に入り正規軍の庇護の下に再起跳梁を計畫するが如き事あらば同地方の治安は永遠に望むべからず、斯る逃亡匪賊を追擊して日本軍の錦州地方に進擊する

某國の駐露外交官が 廣田大使暗殺を計畫

日露國交を破壞する目的

【モスクワ二十四日發】勞農當局は今回**駐露日本大使廣田弘毅氏に對する暗殺計畫による日露國交破壞の陰謀を發見した、この計畫者は駐露某國外交官**で同人を本國へ送還方、同國主席使臣より承認を得た旨、本日公表センセイションを起してゐる【寫眞は廣田大使】

山西軍動員目的は學良追出し策

廣東派と策謀して

【南京二十五日發】第一次全體會議に出席した山西代表は本日會議に「山西軍十萬を動員し錦州に派遣して失地回復を援助させたし」と提議したが、右は山西派、廣東派馴れ合ひの**張學良追出し運動**と見られセンセイションを起してゐる

背後に某有力軍閥

【北平二十四日發】張學良驅逐を目的とする潛航運動最近北平市内に具體化した、即ち便衣隊を以て市中を攪亂せんため保安隊や張學良衛隊の買收に着手せる事判明、北平當局は本日より再び戒嚴令を布き嚴戒中であるが運動の黑幕には有力な某軍閥があると

四省主席重大會議

【北平二十四日發】明二十五日張學良、張作相、萬福麟及び韓復榘（代表）宋哲元、榮臻の河北、山西、綏遠、齊々哈爾四省政府主席等會合し重大會議を開く筈

榮臻對日戰の指令を求む

【北平二十四日發】錦州東北軍總指揮榮臻は日本軍の錦州總攻擊に對策指揮を求めるため本日來平した

支那側は榮は病氣のため來平協和醫院で診察を受け三、四日後錦州に歸るといつてゐる

敵裝甲車には砲二門

關東軍當局談

二十四日朝河北驛を出發せし我代用裝甲列車は午後三時過田庄臺南側に於て敵裝甲列車の襲擊をうけた、その裝甲列車には砲二門を有しその射擊は極めて正確なるも我逆襲により退却した、これを以て見ても敵正規兵が匪賊を援助操縱し居れることが察知せられる【奉天電話】

新民巨流河兩地の皇軍の陣營を訪ふ

休養の暇なき勇士達の緊張振

廿四日新民にて 島田一男特派員發

▼…巨流河のわが兵營が兵匪の襲擊を受けたと聞いて記者は二十三日午後十一時奉天發の軍用列車に同乘して巨流河へ向つた、月明下を列車は白銀の曠野を快走する驛頭三百メートルの巨流河の帶の如き鐵橋と日本軍は匪賊の橫行から完全に援護してゐるのだ、立哨中の歩哨の姿が點々と日光を浴びて嚴肅な氣持となる、巨流河驛に到着すると賊團に放火された背後のわが營舍に白煙が揚がり寒月に反映する火焔は凄慘な氣をたゞよはす、

▼…驛舍に小沼大尉を訪へば部隊幹部はいづれもつかれ切つた身體を薄暗いランプの下に漸く支へ善後策の協議中であつたが責任は充分に感じてゐる、戰死者負傷兵に對しては申譯ない強い責任感に慟哭する、一同はいたましくも戰死した一戸軍曹及び五名の負傷者を今更思ひ出して暗然たるものがある、慰めの言葉もなく記者は同じ想ひの胸に迫るのをどうする事も出來ない、

▼…兵營の燒跡には餘燼尙やまず灰燼の中で手榴彈の破裂する音が物凄い、黎明の太陽が紅くさす頃、燒跡では兵士の手で整理されてゐる賊團と奮戰して名譽の戰死を遂げた故一戸勝人軍曹の遺骸は燒殘つた木材の下から發見された尙特に各勇士を感激せしめたのは關東倉庫部の活動で、食糧、燃料が僅々八時間の後にはドシ／＼運ばれて匪賊擊退に力戰苦鬪した兵士の疲勞を癒やした事である、

▼…次に記者は新民府の〇〇大隊本部を訪ふと、〇〇命令を受けた同隊内は緊張し切つて彈藥兵器が山の如く積まれ、戰鬪準備に忙しい兵士等の顏色には一脈の活氣が溢れてゐる、しかして街頭には縣長、總務會長連名の日本軍歡迎の布告が貼り出され、一般商家も日本軍の保護のもとに扉を開いて數日前の暗澹たる樣子は少しもない、新民縣自治執行委員の發會式が二十三日午後開催され、會長に李延芳以下二名の委員が選出され自治の基礎確立した模樣である、

▼…轉じて領事分館に土屋書記生を訪へば語る

日本軍の力で兵匪の暴戾な仕打ちから解放され安全が保障された新民の支那人は、日本軍に待望するところ大きい、これは要するに滿蒙樂土建設への具體的實現であると思ふ

▼…更に〇〇大隊に嵯峨大隊長を訪へば同じく緊張した氣持に充りはなく元氣旺盛なところを見せる、記者は深く勞を謝し奉天に引返した

は軍の機宜の處置として已むを得ざるものである

一、從つて錦州地方における日支兩軍の不幸なる衝突を來さざらんが爲めには支那側において錦州政府當局の匪賊使嗾を嚴禁すると共に地方において對日不穩の姿勢を執りつつある支那正規軍の關内撤退を實行し、治安攪亂の根源を芟除すべき事こそその第一要件である

海軍首腦會議

【東京廿五日發】大角海相は廿四日午後官邸に岡田、財部、加藤、山本四參議官並に海軍首腦部の參集を求め錦州方面における情勢を中心に我艦船配備狀況、佐世保吳兩軍港に待機中の諸艦につき種々重要なる意見交換を遂げた

日本軍の上陸阻止

學良から命令

【天津二十四日發】張學良は青島の東北艦隊司令沈鴻烈に對し所屬軍艦を塘沽沖を中心に秦皇島、山海關一帶に派遣し日本軍の行動を監視し軍隊の上陸を阻止すべしと命令した

選擧第一主義の地方官異動

完全に政友系一色に

【東京廿五日發】政府は當然六十議會解散を見越し部長の異動詮衡にも選擧對策を第一として全國的に有機的な官憲網を布くべく人の配置に苦心したあとは明かである、異動範圍は本省十三名地方廳九十四名と全國各府縣に亘り休職二十五名復活、十二名の休職は何れも民政色濃厚と觀られるもののみ、之で地方官界は知事、内務警察、學務各部長に亘つて完全に政友の一色に塗りつぶされ政府の地方行政に對する統制は一糸亂れず保たれる事となつた

學務部長存置

【東京廿五日發】内務省首腦部及び地方長官更迭に伴ふ内務省ならびに地方部長級の大異動は地方長官詮衡同樣各地方面からの注文で俄然八選難に陷り詮衡開始以來前後六日間を要し漸く廿四日決定發表を見た、人の遣繰の都合がつかないので前内閣時代廢止される事になつて居た學務部長は結局存置される事となつた

地方部長更迭

百七名に達す

【東京二十五日發】政府は六十議會の解散を見越し選擧第一主義の立場から曩に地方長官の大異動を斷行したが之に伴ふ内務、警察、學務各部長の更迭を二十四日決定發表されたが總數百七名に達する大異動である

關東廳辭令（廿三日附）

關東廳海務局技手 山田誠 依願免本官

うらる丸 廿六日午前九時大連港外着の豫定

人事

▲内田康哉伯（滿鐵總裁）廿五日出帆はるびん丸で上京
▲同政子夫人 同上
▲杉本重道氏（同秘書役）同上
▲小住善藏氏（復州工業社長）同上
▲納賀雅友氏（山下汽船大連支店長）同上
▲江口親憲氏（普蘭店民政署長）同上
▲天羽壽郎氏（會社員）同上

蛇角

馬占山慰勞の寄附金、上海天津で陸續々集まる、天津益世報取扱ひだけでも最近五千元を歸替で送つたと廣告して居る。

◇

上海の學生、馬占山を援けに行くとて汽車の只乘りを拒絕され、徒歩で行くと頑張つた、さすがの支那新聞記者も、左樣な事は出來るものかと冷笑して居る。

◇

張發奎、馬占山を援けに行くと云ひ出し、廣東政府其義に及ばずと差止めた、發奎憤慨して辭表を出し、國民の資格で行くと威張る

◇

山西軍十萬、失地回復援助を提議、これは敵本主義で、學良追ひ出しの魂膽、學良が失地回復を主張して軍資引出しを謀するのと好一對。

◇

議會解散の準備へ、朝野兩黨共濃（以下不明）

軍縮會議延期に反對を回答

帝國政府、英政府に

【東京二十五日發】日本政府は十六日附英政府の軍縮會議延期方に關する日本の意向を求めた質問的通牒に對し二十四日駐日英大使を通じ英政府に、既に軍縮全權一行は出發し又右會議を延期せざる程の重大なる理由を發見せずとの下に之に反對の回答をなした

東亞の謎（159）

國枝史郎　挿畫 伊藤順三

戰ひ（十）

「南部さんは居ませんかな、え、南部正雄さんは」

三木本は部屋を見廻した。

武村を目付けると眼を据て了つた。

「武村さんぢやアありませんか、どうもこいつは、驚きましたな」

武村はヂロリと三木本を見たが

「三木本君か、この有樣だ」

「さては捕虜になつたんですね」

「仰せの如しさ、アッハハ」

「ふうん」

と三木本は腕を組んだ。

「也速該元帥の帷幕の將、眞の意味の賓客の貴郎が、縛られてゐるとは驚きましたな」

「有爲轉變も甚だしい哉さ」

「甚だしい訳です、驚きましたなあ」

「今迄のところはまだ可い方だ、これからもつと惡くなる」

要領の微笑をしたが、

「南部さんに其奴を云はうと思つて、實は探しに來たんですがね、つまり私といふ人間は、どつちの人間でもあるのですな、向ふの味方でもあれば、此方の同志でもある……」

「ふん、卑怯な野郎だな」

「ところが必要な存在なので」

「有害無益の人間だ」

「で、ありますかな、そんな筈は無いが……」

今度は三木本が武村の顏へ、意味ありさうな眼づかひをした。

「……」

武村は無言のまゝ少し考へたが、

「で、今はどつちの人間なんだい？」

「さあ何方の人間でせう？」

「オイ、俺の味方になれよ」

低いけれど重々しい聲で、かう武村はそ、のかすやうに云つた。

「……」

今度は三木本が沈默したま、で、考へ考へ武村を見た。

「オイ、この繩を解いてくれ」

「……」

「褒美なら何でも呉れてやる」

「……」

「どんな沖權にでも有つかせてやる」

「ナーニ利益なんか何うでもいゝので……謂はゞ趣味でやつてゐるんですな。あつちの同志でもあれば此方の味方でもある、かういふ人間だつて必要だといふ、さういふことを知つて貰ひ度い趣味で」

「その趣味性を發揮するさ。その趣味性で繩を解いてくれ」

「さうですな、解きませうか」

「縋む、お願ひだ、解いてくれ」

「さするとつまり、郎といふ人は私のやうなかういふ人間の、必要だといふことを認めたのですな」

「認めたとも、大いに認めたよ」

「では」と三木本は何か言つて行つた。

「さういふ意味はどういふので」

「殺されるだらうと、かういふのさ」

「殺される？面白くも無いです」

「あたりめえよ、面白いものか」

「私は殺されるのは、好みませんな」

「好まない以上だ、僕は嫌ひだ」

「お浄けになつたら可かりさうなもので……」

「縛られてゐて逃げられるかい」

「あ、成程、さうでしたな」

此處で武村は意味ありさうに笑ひ、一種の賑くばせを三木本へしたが、

「君はどつちの人間なんだい？」

「どつちの人間？どつちの人間とは？」

「也速該方の人間なのか、それとも伯方の人間なのか？」

「武村さん、そこですよ」

三木本は狡猾とも圖々敷いとも又間呆とも見られるやうな、不得要領の微笑をしたが、

聖上、多摩陵に行幸 御祭典を行ひ給ふ

大正天皇五年式年祭

【東京二十五日發】大正天皇神去りまして早くも滿五年、二十五日は其の御命日に當るので、宮中皇靈殿並に多摩陵において五年式年祭が嚴かに行はせられた、この日天皇陛下には陸軍樣式御正裝を召され、一木宮相、鈴木侍從長その他を隨へさせられて午前八時四十分宮城御出門、原宿驛に行幸、文武官の奉送裡に同九時同驛御發車多摩陵に向はせられた、これより先英靈靜かに眠らせ給ふ多摩陵は杉諸陵頭、河村陵墓監以下陵墓職員に依つて松の落葉一つとめず淸淨に裝飾、午前十時迄に皇族方をはじめ奉り、犬養首相、倉富樞密院議長、牧野内府並に國務大臣、前官禮遇陸海軍大將、樞密顧問官、親任官同待遇各一人、宮内各廳勅奏任總代など何れも大禮服又は正裝或は通常禮服に威儀を正して幄舍に參集、陵門外には儀仗兵が整列して陛下の御着を待ち參らする、聽て十時十五分官民有資格者の奉迎を受けさせられて東淺川驛に御着あらせられた、陛下には直に自動車に召されて陵所に御着、參集諸員の奉迎裡に御休所に入らせられた、かくて十時式部官の前導で諸員參集本位につけば奏樂裡に掌典神饌幣物を供し、三條掌典次長は恭しく祝詞を奏し終つて天皇陛下には林式部長官、一木宮相、前川侍從劍璽を奉じ、鈴木侍從長、奈良武官長以下御後に候し御陵前に進御、恭しく御禮拜御告文を奏させ給ひ、次いで皇后、皇太后兩陛下の御名代御拜禮、引續き皇族方の御拜禮があつて陛下には入御更に諸員の拜禮を終つて幣物神饌を撤し滯りなく御祭典を終へさせられ、陛下には十時五十五分陵所御發車、午後零時十分原宿驛御着宮城に還御遊ばされた(寫眞は式場)

大正天皇祭 遙拜式 けふ大連神社で

大連神社の大正天皇祭遙拜式は二十五日午前十時より同社々殿にて執行された、最初神官の修祓に次いで齋主の祝詞奏上あり、民政署長代理富田庶務課長、市長代理近藤收入役、滿鐵總裁代理有賀庶務課長の順序で玉串を奉獻し官民數十名の參拜もあつて同十時半閉式した

白軍大勝し 京城高商惜敗す

軍隊慰問資金募集 武道大會

大連講道館有段者會、並に滿洲鐵道會主催滿洲體育團體聯盟後援の軍隊慰問資金募集の武道大會は二十五日午前十時より大連道場に於て開催、伊佐有段者會副會長開會の辭を述べ、直に一中對實業聯合紅軍對二中育成聯合白軍との紅白柔道試合に移つたが、白軍品川(二中)三人、栗屋(二中)二人、横田(二中)河原(二中)岡藤(育成)野村(二中)それぞれ一人づゝ拔き結局白軍四將を殘して大勝、引續き京城高商對大連道場戰に移つたが、一進一退の後大將戰となり大連田中、京城佐野を輕く押へて大連に凱歌があがる

大連 先鋒　京城 先鋒

○一級下八(背負投)一級平山△
同　(引分け)同　中山
○一級大野(横四方)一級鄕△
同　(背負投)一級庄司○
一級北條(引分け)同
一級瀬井(引分け)一級川崎
一級毎熊(引分け)一級渡邊
△一級城戸(大外落)初段篠田○
○初段加藤(小外刈)同△
同　(引分け)初段今田
初段田村(引分け)副將初段宗
△副將初段山野(跳腰)大將二段田中○

田中しばしば大業で攻め立てるを山野よく頑張り田中先づ體落して業をとり第一呼鈴直後跳腰の業あり併せて一本となり田中勝つ

○大將二段(横四方)同　佐野疲れを見せ寢業に引き入れんとしかへつて横四方で押へられる

最高記錄出づ

好成績の大連射擊大會

大連市民射擊會及び本社共同主催の大連射擊大會は二十五日午前九時より春日池畔大連市民射擊場において開催、近來稀な暖かさに定刻すでに豫定人員百餘名あり直に射擊を開始し午前十一時終了役員射擊に移つたが前田春一氏は四十八點の大連に於ける最高記錄を出し一般の人々も續々好記錄を現はす標準點以上の射手左の如し

第一班　松野浙一(三五點)　岩本勝(一八點)
第二班　松原國隆(一九點)　緒方秀直(三五點)
第三班　淺川盛光(三四點)　大越實(三二點)

名譽の傷病勇士

百二名は廿七日着連

廿七日午前七時大連驛着、内地に送還さるゝ傷病兵百二名のうち沿線部隊關係者のみ到着、一先づ大連病院に收容の上廿九日午前八時到着の旅順部隊關係者と共に同日午前十一時出帆平仁丸にて内地へ

あす大連に到着の勇士達の上陸順序

正午までに全部入港

滿洲軍補充部隊を乘せた運送船は廿六日午前五時入港の吳淞丸(姫路部隊乘船)を先登に左の如き順序で大連着、上陸をなす豫定である

▲吳淞丸廿六日午前五時入港八時上陸開始▲東泰丸(小倉部隊搭載)同日午前九時入港十時上陸開始▲平仁丸(松江其他の部隊)廿八日午前八時入港九時上陸開始

因に第十一平榮丸(岡山、小倉久留米部隊搭載)のみは時化のため二十七日午前八時、遲延入港の豫定である

『在滿婦人の努力に敬意を表します』

林、久布白兩女史離連

老齡を提げ而も婦人の身をもつて長驅ハルビンまで駐滿軍隊慰問のため來滿中であつた矯風會副會長林歌子女史並に會務理事久布白落實女史は打連れて二十五日出帆奉天丸で夫人連多數の見送りを受け上海に向つたが林女史は語る

自分達はこちらに來て非常によかつたと思ひました、實に寒い目を見實に苦しんで居られる軍隊の人達の身になつて涙がこぼれましたわ、二人は奉天で別れ私はハルビンへ久布白女史は安東に行つたんです、ハルビンでは特に張景惠夫人と晩餐を共にして色々語り合つたんでしたが支那側夫人も非常に今度滿洲で正義の爲戰つた日本の軍隊に感謝をしてゐるやうでした、女學校や小學校で七回許り講演しました、何れにしても在滿夫人連のしんみの御努力に對しては敬意を表します上海に行つてあちらの樣子を見た上來春一月六七日頃歸ります

民政黨代表が海軍を慰問

【東京二十五日發】民政黨總務添田敬一郎、高橋代議士兩氏は黨を代表して在支帝國海軍慰問使として來る二十八日神戸出發の長崎丸で渡支約二週間に亘り上海南京漢口地方にある帝國海軍を慰問し併せて政治經濟狀態を視察する

大連商業の警備演習

大連商業では廿五日午前六時半全校生徒の非常召集を行ひ三年以下は同八時半忠靈塔、大連神社に參拜、國運の隆昌と皇軍の武運長久を祈り四、五年生は譲家屯において警備演習をなし同十一時終了後校庭において分列式を行ひ解散した

兒玉吞象氏講演會

廿六日ヤマトホテルにて

時局發生以來前後一ケ月に亘り南滿各地を遊歷、日支の要人を訪問してその蘊蓄を啓示して來た易學の大家兒玉吞象氏は廿五日朝來連ヤマトホテルに投宿したが氏の來連を機とし小林和介、佐藤至誠、津久井誠一郎氏等發起となり廿六日午後七時よりヤマトホテルにおいて「易から觀た滿蒙の將來」の題下に一場の講演を行ふことゝなつたが一般有志の多數來聽を希望すると

感動される小國民の思遣り

慰問金續々集まる

日本橋小學校六年生森紀子、同四年生森英子、同一年生森シゲヒラの三姉弟は二十四日午後現金五圓八錢に左記手紙を添へ軍隊慰問金として屆けて來た

もうお正月も近くなつて來ました、兵隊さん達はお正月も寒い所で働かなくてはならないのですから何にか兵隊さんの喜ぶ物を買つて差し上げて下さい、このお金は私達姉妹がお屠蘇を賣つて得たお金に父から戴いたのを蓄めてゐたお金を合せたものです

◇また常盤小學校五年生奥山正三、同宅島德幸、同二年生奥山金一の三君は

兵隊さん零下何十度の寒い所でお働きになるのは大變だらうと思ひます、僕等もつたいなくてお部屋の中でジツとしてゐる事は出來ません、其處で友達やと相談しこの前の日曜日に割箸を三人で賣つて得たお金です何かのたしにして下さい

と手紙を添へ金二圓二十錢を軍隊慰問金に寄贈かた依賴し

◇常盤小學校六年生坂下秀子、尾崎泰子、山内ツユヨの三女生徒は

お家の走り小使をして貰つたお金や毎日のおやつを節約して蓄めて置いたお金です、陣中にお正月を迎へる兵隊さんの爲めに御用立てゝ下さい

と現金一圓七十三錢を軍隊慰問金として市役所に屆け出で

◇金光教大連女子部年會では酷寒の街頭に進出し食料雜貨品を賣り歩きその純益百五十五圓九十六錢也を傷病兵および戰歿者遺族へ慰問金として交附かた市役所へ依賴した

雜誌 富士 偉い評判

讀物が無類面白い、六大附錄が素晴しい、口繪畫報の豐富等々何から何まで空前の出來榮えで『富士』新年號は何處でも引つ張り凧です、直ぐお求め下さい。

霸權を目ざして工專鞍中の兩軍

けふラグビー大會へ

明年一月初め大阪花園球場で擧行の全國高等專門學校ラグビー大會に出場の滿洲代表南滿工專ラグビー部選手一行廿一名および同じく甲子園球場で擧行の全國中等學校ラグビー大會に出場の滿洲代表鞍山中學ラグビー部選手一行十七名は共に二十五日大連出帆のはるびん丸で内地遠征の途に就いたが、埠頭は自校の選手を送る兩校應援團の高らかな校歌の合唱に賑はつた

全力を盡す 鞍中軍引率者談

鞍中軍を引率の渡邊三宅兩教諭は語る

試合數は少ないが練習だけは本當に眞劍につゞけました、昨年安東での戰に京城師範に敗れたことはあらゆる意味で貴い經驗になりました、それから一年間の練習は全く涙ぐましいものでした、幸ひ選手のコンデションは絶好ですし滿洲代表としても名譽のために全力を盡して戰ひます、いづれ向ふに着いてから一流選手のコーチを仰ぎ最後の猛練習を行ふ筈です

勝算はある 安藤工專監督談

皆はちきれるやうな元氣です、今度は内地代表チームの實力が全く未知數であるため全然豫想の立てやうがありせんが恐ろしいのは矢張り關東代表チームだらうと思ひます、勿論勝算は持つてゐますが兎に角フオワードさへしつかり球を出してくれゝば充分に優勝出來ると信じてゐます、今度こそあの優勝旗を滿洲に飾りたいものです(寫眞は大連埠頭にて、工專(上)鞍中兩選手)

大連神社より慰問代表出發

遼西の野に兵匪と戰ふ關東軍將兵に對し石本鏆太郎氏、大連神社社司原本執の兩氏が代表としてお守り三千枚淸酒一樽をもつて二十五日午後十時大連發の列車で奉天に行くと

『北滿の落花』撮影隊一行

東活の在滿將兵慰問並に「北滿の落花」撮影隊一行は廿九日入港はるびん丸にて來連するが一行の顏ぶれは若木總務以下左の通りで、元旦より大日活において「出征夜話」の實演をなし各地の撮影にとりかゝる筈であると

井手錦之助、武村新、南光明、東龍久義、岡田靜江、大内純子、宮城直枝

大阪慰問使團離連

駐滿軍隊慰問のため來滿中であつた大阪市の青年聯合團、婦人聯合團、聯合處女會三團體主催の慰問使團は大阪市主事赤塚長次郎氏に引率され二十五日出帆はるびん丸で歸阪の途についた

刑務所に逆戻り

原籍東京市京橋區日比谷町三富時住所不定無職窃盜前科二犯石川春雄(三一)はこの十九日旅順刑務所を出所した者だが、更に改悛の情なく二十一日は薩摩町關東館で靴一足、二十三日は遞信局二階洗面所でクリーム石鹸および手拭、二十四日は三越便所で婦人オペラバックを各窃取し大連署刑事に取押へられた

飾窓を壊し毛皮を盜む

大連伊勢町三四パレー商會では二十四日午後十一時より二十五日午前九時半に至る迄の間に浪速町一〇四大連百貨店の飾窓に陳列して置いた獺毛皮二枚、狐毛皮二枚、時價四百圓を硝子破壞の上窃取されたのでその筋に屆け出た

紙入を掏らる

大連美濃町一五漬物商岡山初次郎は二十四日午後四時三十分ごろ常盤橋電車停留場から七號系統電車に乘らんとした際、ズボンのポケットに入れておいた百四十五圓在中の紙入れを何者かに掏り取られ青くなつてその筋へ屆け出た

松平直德子逝去

【東京二十五日發】故播州明石藩主正三位勳三等子爵松平直德氏は豫て病氣中のところ二十四日午後一時半逝去した享年六十三歳

天氣豫報

二十六日 南西の風 晴一時曇

	廿五日午前十一時	廿四日最低
大連	零下八、〇	六、四
奉天	同 七、一	一九、四
長春	同 七、六	二二、三

ラグビーと氷滑

今年の運動界を回顧して(下)

ラ グビーを語らざるものは近代人にあらずといふほど現代のラグビーは大衆化され民衆化されたウインター、スポーツの王座は今完全にラグビーが占めるところとなつた、今シーズン關東側の霸權は慶大より明大に移り、關西側は京大が占むるところとなり、來春早々東都において關東ペナントチーム明大に次ぐ慶大、早大と關西の京大、同大が相爭ひ又カナダチームが來轄して全日本チーム及び關東、關西のペナントチームと相爭ふ、野球時代に次ぐラグビー狂時代を現出せんとして居る、滿洲のラグビーも内地の如く益々盛んとなりゲーム毎に約五千のファンが押し寄せる時代となつた。

今 シーズンに入り工大對工專、醫大對工專等の好ゲームあり、實業團唯一のゲームたる大連滿鐵對大連クラブ戰は八對五の大接戰で四年越しに大連實業が霸權を掌握した、斯くの如く盛んになりつゝ現代、專用球場をもたざることは實に遺憾である、内地には花園に東洋第一の專用球場あり又明夏明治神宮外苑にこれに劣らざるの球場完成することゝなつた、滿洲にも專用球場の急設を痛切に感ずるのである、大連、旅順、奉天國際の四運動場は陸上專用のものであり十二月に入れば完全にゲームの出來ない滿洲は九月よりラグビーシーズンに入るため陸上と略同シーズンとなり兩者とも不便を感ずるのである

一 昨年滿洲ラグビー協會前理事渡邊讓、滿鐵岡部平太、高橋俊夫及び滿鐵アマ式部飯澤重一の諸氏に依り大連運動場南側に專門球場新設の運動起り關東廳にも了解なつたが經費の問題で行きつまり今日に及んで居る。

日 本スポーツ界を左右するものに滿洲のスケートがある、今冬日本スケート界の最初の歐洲否世界進出として石原、河村、木谷の三選手を北歐に送つた、來るレークプラシッドの世界氷上オリンピック大會に再び以上の三選手を送ることゝなりすでに遠征の途に就いた、世界の强豪に伍して必ずや好成績を收めるであらう、その他軟球、排球、籠球とそれぞれ斯界のため貢するところあり、とり分け現代大衆スポーツとして見逃せないものは、大連スポンヂ野球の發達である、大連においてすら七十餘チームあり、全滿に數ふればその數驚くべきものとなるであらう、よろしく小學校々庭などを解放して民衆體育に資せられんことを。

最 後に本年度滿洲運動界を飾つたものに福岡柔道軍の來襲がある、木原、栃田、古川、久永、西と日本柔道界を背負ひ立つ福岡軍と和田、吉原、吉田、猿丸、佐々木、小谷、逸見の一騎當千の滿洲軍との對戰は完全に日本柔道界の視聽を集め、兩者讓らずつゞけて戰つた結果未曾有の大接戰を續け遂に引分けとなつた、その白熱戰たるや今なほ吾々の記憶をよび起すものである。

日 支衝突事件に刺戟され全滿の三十有餘の體育團體は提携蹶起して滿洲體育團體聯盟を組織し軍隊慰問、獻金の方法を講じ着々その歩を進めて居る、力强い團體として今後の活躍が期待されて居る、かくの如く昭和六年は日本スポーツ界に、滿洲スポーツ界に絢爛なる光彩を放たしめるとともに多事多端な年であつた、今暮れなんとするとき靜かに思ひを馳せて過去を認識するとともに來るべき昭和七年度はより以上の光輝ある年たらんことを翼んで止まない。

神明、彌生高女生が毛皮縫附けに懸命

クリスマスも正月も忘れて兵隊さんのために

今日からいよいよ冬休みを迎へた大連神明、彌生兩高女の生徒さん達も例年なら久しぶりの休みにやれクリスマス、お正月とはしやぎ廻るところだが、今年は時局柄、どの生徒もたゞ御國のため、兵隊さんのためといぢらしいほどの緊張ぶり、生徒達でも「冬休みを利用して何か御手傳ひすることでもありましたら」と關東倉庫に申込んだので關東倉庫でもその赤誠に打たれて奥地へ行く兵隊さん達の外套一萬三千枚の袷に防寒毛皮をつけてもらはうと廿五日神明兩高女に對しそれぞれ縫附方を依託して毛皮のつけ方を練習したが三年生以上同窓生まで加はつて夕方まで熱心に作業をつゞけた、何分多數であり相當手間どれるので當分毎日午前九時より作業を開始して年内には是非仕上げて兵隊さんたちに着せたいと皆大變な意氣ごみである

武門血笑記（7）

下村悅夫作　工藤義正挿畫

深夜の刺客（一）

池田藩の劍道指南役、鵜飼太郎左衛門は、二三年前、永年連れ添つてゐた妻を失つてから此方は、一層その酒量が殖えたやうであつた。もともと、若い時から大酒の方ではあつたが、此頃は相手さへあれば、夕方始めた晩酌が、眞夜中時になるのが、殆どお極りになつてゐた。

今宵も、門弟達が歸ると、入れ違ひに飄然と訪れた旅の劍客、辻川幸作と名乗る中年の武士を相手に、宵の中から飲み續けてゐるのであつた。

「……お話の樣子では、江戸も京も却々物騷ぢや喃、打續く太平の治世に地を掃つた武道が、今時再び役に立つやうになつたとはいやはや不思議なものぢや、ぢやが、何んにしても貴公方、若い者の世の中ぢやて。拙者などは、もう早く隱居でも御願ひして、此奴を—」

と銚子を取上げて

「相手にでもして暮すより仕方があるまい、はつはつはつ」

太郎左衛門は、何時になく上機嫌。でつぷりと肥え太つた、熟柿のやうな赤い顏の、相好を崩して笑ふ。話をしてゐる中に、心の中で、ふと、今夕、獄門首を寫生にやつた三人の高弟、露木、陣野、白井——のいづれ劣らぬ、それぞれの賴もしい樣子を思ひ浮べたのであつた。

「いや、いや、先生の御高名は兼々承つて居りましたが、先日、飛龍の黑兵衛召捕の節の御手の中は老ても、山陰の麒麟だと專ら噂で御座います」

幸作は武辨者らしく、面擦れのした淺黑い顏を、薄赤く染めて、口の邊りに笑ひを浮べてゐたが、その一癖ありげな鋭い眼だけは、きつと太郎左衛門の赭顏に注がれてゐた。

「何の、あれは怪我の功名、會々通り合はせて、役人共が手に餘るのを見兼ねて、持合せた白緞を目潰しに投げた迄の事。ぢやが、黑兵衛と云ふ男、流石名うての惡だけあつて、惡はそれ惡とも思はれぬが、恐ろしい腕の冴つた劍であつた。つまり、竹刀で鍛錬した劍法でなく、人斬劍術の堂に達してゐる、恐るべき奴ぢやつた。互格に劍を拔いて立つたら、當藩でも太刀打の出來る人間は數へる程しか居るまい」

太郎左衛門は、その日の物凄い光景を思ひ出したらしく、醉眼を二三度、ぢつと、瞬かしたが、ふと、相手の默つて聞入つてゐる樣子に氣附いて、

「ほう、これは、話に實が入つてとんだ失禮。貴公、一向やらぬやうぢやが、熱い處を今一獻、どうぢや」

と盃を取上げる。

幸作は輕く頭を下げて、

「手前、もう、すつかり酩酊致しました。此上は、御厚意に甘えてこれにて、中座、御先に、御無禮させて頂きたう存じます」

と、その逞しい兩腕を、きちんと、兩膝の上に置いて、改めて、慇懃に會釋をした。

幸作が、與へられた自分の部屋へ歸つて行くと、太郎左衛門は、女中を呼んで、後片附をさせながら、

「お梨花には、此方に構はないで休むやうに云ふがいゝ、それから夜中に、露木と、陣野と白井が參るかも知れないが、構はないから奥に通すがいゝ」

妻を失つてからこの方、身の廻り一切の世話をしてゐる娘にさへも、醉つた時には世話をかけまいとする親の慈悲、こう命じて置くと、太郎左衛門は、六尺近い、その大兵肥滿の身體をぐつと起して平常のやうな確かな足取で、奥の居間に入つて行つた。

と、間もなく、其處から聞こえて來た、大きな鼾聲——。

今年は映樂館主吉田眞上三氏の祟り年だと專ら評判され出した▲映樂館も最後の五分間に檢査未了で豫定通り開館出來ず▲その上に屋根の一部に違反があるらしく今のところ開館日が豫定されないものこと▲一方實館從業員の解雇手當問題が未解決のまゝ爭議狀態を持續しこゝもと内憂外患交々到る有樣である▲この難關を切り拔けるか、問題の解決は誠意の二字にあると敢て苦言を呈したい

落成した映樂館 廿五日開館式の豫定が變更されたが、近日中に洋畫全發聲興行で幕を開ける、設備としては大連映畫館唯一のＷＥ式發聲裝置を誇つてゐる

本社特選 新棋戰（其二）

平香交 香落番　四段△建部和歌夫　三段▲加藤富久

【圖は四二玉迄の局面】

▲加藤氏「持駒」ナシ

△建部氏「持駒」ナシ

△三八玉 ▲三二玉
△一六歩 ▲一四歩
△二八玉 ▲六四歩
△三八銀 ▲五四歩
△五六銀 ▲九六歩
△同歩 ▲同香

【土居八段講評】▲加藤君の五四歩は持久戰模樣となり勢ひ香落の弱味を攻むるも比較的効果が薄くなるから拙策である。六五歩、七六銀、九六歩、同歩、同香と早く攻撃を執る方優る△建部君の五六銀は輕る過ぎた指し方で、爲に九筋に破綻を生じる惧れあれば此處は七六銀と固く指す處である。

滿洲日報

錦州政府解消と支那軍の撤退を要求

滿洲の治安を紊るとの理由で 奉天省政府で協議中

支那側情報によれば奉天省政府では錦州政府がその省内の一角に今尚蟠居し匪兵を使嗾、良民を苦しめつゝあるに對し、近く警告を發し東北政府は和平と民衆保護の名において同政府の解消を要求、これと同時に張學良に對しその正規兵別働隊等一切の軍隊を灤州以西に撤退せしめん事を求むるの議が進められてゐる【奉天電話】

匪賊討伐權行使通告

日本代表部理事會に通告

【ジュネーヴ二十四日發】國際聯盟理事會日本代表部は二十四日理事會に通牒を送り、滿鐵線西方にて匪賊の跳梁愈々増大しつゝある事を指摘し、日本軍は理事會にて宣言せられた匪賊討伐權を行使するの已むなきに至つた旨通告した

わが政府の回答要旨

【東京二十四日發】錦州方面の日本軍の行動に關し我政府の深甚なる注意を喚起した英、米、佛三國の警告的覺書に對する帝國政府の回答は外相陸相協議の上外務省で起草し遲くも二十六日中には英、米、佛三國に個別的に發送される筈だが日本政府が右回答中で特に強調せんとする點は大體左の如くである

一、支那の行政權は機能全く失ひつゝある今日滿洲の治安維持は帝國政府の責任なり

一、匪賊討伐權は十二月十日の理事會決議で容認され居り區別明瞭ならざる匪賊が錦州方面に後退し正規兵と合するに於ては錦州の占據も亦やむを得ず

一、匪賊の跳梁は支那正規兵の使嗾に基く事多く匪賊と正規兵とは事實上擇ぶところなし

一、錦州方面で我軍と正規兵との衝突を避けんとするならば奉天軍を關内に撤退さすより外なし

一、列國の友誼的警告は諒とするが同方面の事態よりして我軍の行動は自衞的措置である

警告は認識不足

わが軍部の意嚮

【東京二十四日發】英米佛三國政府の警告につき軍部方面の意嚮を綜合すれば關東軍現在の行動は去る十日聯盟理事會の正式に承認した匪賊討伐に過ぎぬ錦州攻撃の如きは何等企圖されてゐない、然し現に關東軍の討伐しつゝある匪賊馬賊は悉く錦州政府並びに其の要人の命令派遣せるもの又は其の指導下にあるものでこれ等は全滿蒙の治安を攪亂せんとしてゐる、然も錦州正規軍と云へ時に兵匪馬賊便衣隊となつて活動してゐる有樣で錦州政府及び錦州軍が今日の態度を改めず且つ錦州を撤退せぬ限り我軍が實力を以てこれと相對することもあるべきは遺憾ながら絶無とは斷じ得ない、然もさる行動に出たとして自衞行動を出てないから第三國の干渉は許されない今三國が正當に行動する我れに警告を發するは認識不足妥當を缺いでゐる

張學良に最後的勸告

【東京二十四日發】帝國政府が英、米、佛三國の注意喚起にも拘らず錦州方面の匪賊討伐は理事會決議で容認されてゐるところだから飽迄之を敢行せんとする意志を枉げざるものだが事端の釀成は帝國政府の本意でないので張學良が曩に矢野參事官に公約せる如く錦州の奉天軍が關内に撤退せば支那正規兵との衝突を避け得るものと信じ政府は今一度矢野參事官をして學良に錦州奉天軍の關内撤退を即刻實行すべしとの最後的勸告を爲さしむるに決定之が訓令を外務省より矢野參事官に發する事となつた

わが勇士が樹上にて偵察（田庄臺方面にて）（藤井特派員撮影）

奉天に着いた南大將（左南大將、右本庄軍司令官）

日本が惡いならば首でも取りに來い

荒木陸相、警告に憤慨

【東京二十五日發】英米佛三國から錦州問題に關し我政府に對し注意喚起を爲して來た事に就いて我軍部では之を一種の三國干渉なりとし甚だしく感情を害し斯くの如き自衞權の發動に基く日本軍の行動を掣肘する行動に就いては斷然排撃すべしとの見解を持してゐるが、荒木陸相は語る

左樣な事は未だ何も聞いて居ないが、事實として我國は何等警告されるやうな事はして居ないから、どうしやうもあるまい、ただし何の返事もせずにうつちやつて置くといふ事も出來まい何うしても日本が惡いからぬといふなら首でも取りに來て貰ひたいものだ

我軍指揮官の布告

田庄臺治安維持に關し

田庄臺駐屯の桂大隊長は日本軍指揮官の名を以て廿五日左の布告を發表した

一、今回の入城目的は治安の維持にあり

二、軍規嚴肅なる日本軍は匪賊討伐するに當り良民は徹底的に保護す

三、日本軍入城するも毫も恐るゝ必要なし、省民は安心して業に服すべし

四、以上の各項に背き又は流言蜚語を放ち或は排日行爲敵對行爲に出る者は嚴罰に處す【營口電話】

田庄臺附近匪賊の徹底的掃蕩を期す

わが部隊行動を開始

【田庄臺二十四日藤井特派員發】緊張裡に日を過ごした田庄臺に入城の我○○大隊は二十四日午前十時から同部落一帶の賊を掃蕩するに決し、敵の設けた銃眼、掩護物など一切撤去した、記者は一部隊と共に部落を廻りたるに敵便衣隊の死骸はところ〴〵に轉がつてゐるが、正午ころから部落の便衣隊は殆ど逃亡したらしく敵の放てる銃聲は少くなつた

敵の裝甲車と交戰

砲聲遼河氷上を蔽ふ

【田庄臺二十四日藤井特派員發】廿三日未明我部隊の別働隊となつて同時に營口を出發○○丸にて遼河を渡り、裝甲列車一輛と共に田庄臺に進擊した○○大隊第二中隊は同日午後零時半孫家窩棚附近にいたるや敵の裝甲列車が前進し來るを發見し勇敢なる高橋少尉の率ゐる徒步の先發部隊は僅か步兵砲二門、輕機關銃二挺、步兵十一名の少數を以て敵の裝甲列車が六十メートルの近距離にいたる迄待伏せ突然步兵砲を以て奇襲を試みたが我砲彈は敵の裝甲列車に見事三彈命中して敵を驚かした、敵の裝甲列車は八輛の車を連結し野砲二門重機關銃三挺を有し頗る優勢なもので我部隊苦戰に陷り漸く到着せる中隊主力の應援によつて遂に擊退、敵の裝甲列車は後退した、この時櫻井一等兵は三發の敵彈を受け負傷した、かくて一旦擊破された支那側裝甲列車が廿四日午前十時再び南下し來り盛んに我軍に向つて砲擊したのでわが部隊は掩護のため飛來の飛行機と共に水源地に駐屯する野砲隊から砲擊し目下盛に交戰中であるが敵の砲彈は二發水源地事務所内に落下したるも幸ひに被害なし敵の着彈は比較的正確にして彼我の交ゆる砲擊は殷々として物凄く凍結せる遼河上を蔽ふてゐる

決戰の覺悟

錦州軍續々と南下

【田庄臺二十四日藤井特派員發】田庄臺驛を根據とする匪賊は約二千名の大部隊である、錦州、溝帮子方面より約二萬の兵南下し野砲二十門を田庄臺に輸送し來り續々田庄臺に集結し我軍に對抗の準備をなし敵は田庄臺において決戰をなす覺悟あるものゝ如し

錦州軍の計畫的襲擊

【田庄臺二十四日藤井特派員發】廿四日早朝田庄臺部落において怪しき支那人三名を逮捕し大隊本部に連行し取調べの結果一名は田庄臺公安分局長鄒某なるものにして彼の自白によれば十六日田庄臺公安局長の命により錦州に赴き同政府の命をうけて歸つたもので今回田庄臺における敵便衣隊の襲擊は錦州政府の命をうけたる計畫によるものである事が判明した【營口電話】

鐵道線路破壞

河北より進擊した○○大隊別働中隊は裝甲車一輛を以て田庄臺に向つたが孫家窩棚附近に於て約二百メートルばかり線路が敵のために破壞され居るを發見した【營口電話】

小原中尉負傷

田庄臺占領の際水源地に於て敵狀偵察中の野砲大隊小原中尉は敵彈にあたり顎部を負傷した【營口電話】

營口方面出動

若松中佐の率ゆる○○第○聯隊の一部隊は二十四日午後四時遼陽通過營口方面に又鐵嶺○○隊の一部隊も同午後八時四十五分營口方面に移動した【遼陽電話】

錦州一帶の支那軍配置

【北平二十四日發】確實なる調査に依れば戰機切迫せる錦州一帶における支那軍の配置左の如し

▲錦州附近、第十二旅、二十旅、砲兵第十三團及び新編第九十七師

▲打虎山、溝帮子一帶、第十九旅及び鐵甲車

▲山海關から連山に至る鐵道沿線第五旅第三旅騎兵數約三萬七千而して溝帮子以東の防備は大したものではないが根城たる錦州城外の防禦設備は入念に施され一般内外人は勿論軍人と雖も其の附近に接近する事を嚴禁してゐると

毒瓦斯使用

支那軍が對日決戰に

當地に達した情報によれば錦州軍は飽まで日本軍と戰ふ決心を有し併せて支那軍は毒瓦斯の使用を準備中であると【奉天電話】

べく上司より命ぜられたるものゝ如くである、卽ち少部隊の日本軍來るときはこれを擊破し大部隊にして敵し難き時は良民を裝び四散潛伏し日本軍若しこれを討てば國際聯盟その他外國に對し日本軍の暴狀を捏造し宣傳すべし而して日本軍通過し去りたる時は更に集結して日本軍の後方を襲擊擾亂すべしといふのである彼等敗殘の間には特殊の合言葉を使用してゐると【奉天電話】

南京から飛行機北上

【天津廿四日發】某方面の消息によれば南京航空隊所屬偵察機戰鬪機各二臺は今明日中に南京發北平に飛來する筈で其の目的は錦州戰參加のためと言はる、右計畫實現せば遼西の空中戰で我軍と支那軍の最初の衝突となるものである

野砲遼河渡河

廿四日午前十一時水源地に駐屯せる野砲大隊の野砲一門は無事遼河氷上を渡り田庄臺に入つた【營口電話】

學良に送った蔣の密書

學良側近者の語るところによれば蔣介石は學良に對し左の如き密書を送つた

新中央委員間には私見頗る多くして意見一致せず、前途甚だ憂慮さる、余と貴下とに對しては軍權を放棄するに非ざれば時局の收拾不可能なりと述べてゐる【奉天電話】

錦州軍の戰法

義勇軍、別働隊、匪賊等は日本軍の討伐に際し次の如き戰法を執る

對日戰を口實に中央に軍費要求

張學良の勢力確保策

【北平二十四日發】張學良、蔣介石兩者間には今後の勢力保持に關して何等かの鞏固な默契あるもの、如くまた胡漢民、汪精衞の驚派的確執は漸次表面化しつゝあるに鑑み蔣が鄕里奉化に歸つたのは、胡、汪の分裂を促進せんとする一手段であるとさへいはれてゐる、聞くところに依ると學良は日本の錦州支那軍撤退に關する最後通牒を寧ろ一日も早く接受せんと心待ちに待つてゐるらしい氣配がある、その事で、その理由はこれを接受すると同時に學良は中央にこれが對策を講ずる爲め莫大な軍費支出の要求をなし、表面的には一應日本軍と矛を交へ小競合の上その兵力を關内に引き中央から支給された軍費を以て北方各軍を結成し今後の中央政府に對し有力な發言權を擁まんとするものだと

閻馮の提案

【北平廿四日發】閻錫山、馮玉祥は太原近郊にて二ケ年振りの會見を遂げ南京に開會中の全體會議に左の提案をなした

錦州を絕對に固守し更に進んで失地を恢復すべし

商議、聯共南京にはいかぬ事に意見の一致を見た

廣東代表八氏南京へ向ふ

【上海二十五日發】殘りの廣東代表李濟琛、黃紹雄、張發奎氏等一行八名は今朝零時半プレシデントウイルソン號で吳淞着一時四十五分上陸佛租界の李邸に入つた、本日汪精衞、李宗仁氏等と會見の上南京に向ふ筈

錦州軍の決死隊朝鮮に潛入

上海反日團の密偵とゝもに

【京城特電二十五日發】朝鮮に重大使命を帶びた錦州軍の決死隊が潛入せんとの情報は、其後張學良部下の腕きゝ數十名を以て組織し新義州方面より夫々鮮内に潛入しその一部は平壤府内に潛入せるものと判明した、又上海反日救國會からも密偵四、五名鮮内に潛入し平壤に本據を置き或種の計畫をなしつゝありとの情報あり鮮内當局は事態を極度に重大視し俄に警戒を嚴にしてゐる

賠償金の再猶豫

顧問委員會の勸告

【バーゼル二十三日發】ドイツ賠償金に關する國際決濟銀行特別諮問委員會は本日最終會議を開きその報告書に署名を了した、報告書はドイツ賠償金のモラトリアム延長を勸告したもので主なる二點左の如し

一、賠償金債務は世界經濟の眞事情に適合するやう調印されねばならぬ

二、ドイツはフーヴァー大統領の提言によるアメリカモラトリアム終了後の條件附支拂案に應ずることは不可能である

北平の邦人保護を要求

【北平二十四日發】錦州地方の形勢逼迫につれ北平支那街居住の一千餘の在留民は又も重大なる不安に襲はるに至つた公使館側は事態を憂慮し公安局長鮑毓麟に保護方を要求したところ鮑局長は日本人の生命財產は絕對安全なりと明言すると共に最近日本人住宅に巡警を派し注意して居る一般の空氣惡化せり

軍艦出雲出動

【佐世保二十四日發】去る二十二日待機命令に接し出動準備中の出雲は今日正午いよ〳〵出動命令に接し艦長松野大佐以下幹部は直に鎭守府に赴り諸般の打合をなし午後三時拔錨一路○○方面に向け出動した

胡支那秘書官

【パリ二十三日發】本日支那公使館秘書官胡世澤氏はブリアン氏を訪問したが去る十日の理事會で可決された決議第二項に違反すと認むる如き行動を日本側が執つた場合には支那は決議第六項に依つて再び理事會に訴へるものと觀られてゐる

文部省の行政整理

千三百二十名

【東京二十五日發】文部省では前内閣以來の本省並に大學直轄學校に於ける行政整理に關し大藏當局と折衝を重ねた結果此程整理案が決定し來年一月中旬頃から三月中旬頃までに全部の整理を完了する筈であるが整理人員は一千三百二十名之に要する節約額總額は八十五萬圓に達する見込みである

支那一帶警備狀況報告

【東京二十四日發】大角海相は二十四日午後一時官邸に財部、岡田加藤、山本の各軍事參議官の參集を求め支那一帶に亘る其後の警備狀況並に時局に鑑み佐世保に待機中だつた巡洋艦出雲及び特務艦能登呂を第二遣外艦隊に編入し本日旅順に向け發航せしめる經過を報告諒解を求めたが、大角海相は東郷元帥及犬養首相を歴訪し同樣の報告をなした

上海標金市場休會

來る二十五六の兩日はクリスマスにつき標金市場並に上海各銀行は休業すると

關東軍の憲兵隊を憲兵司令部に改む
擴張して機能を發揮

二宮少將の率ゐる關東軍憲兵隊は事變發生以來奉天にその本據を移し東北四省の混亂せる時に當り時局收拾のため支那側公安隊、巡警、自警團などの指揮下に置き三千萬民衆の治安維持に當つてゐたが關東軍憲兵隊の從來の組織では完全なる統制、指揮の不能なため參謀本部では目下關東軍憲兵隊をして組織を變更し朝鮮と同樣關東軍憲兵司令部を組織すべく然して要所の憲兵分隊を憲兵隊に擴張して大佐級を据え憲兵隊は全滿に少くとも五隊を新設しその下に分隊を置き最も緊密な連絡をなし治安維持統制に當るべくこれが組織の計畫中で御裁可を仰ぎ明春を期して該制度を實行するやう目下その組織編成に務めてゐる由で、これが司令官として從來通り二宮少將がこれに當り各隊長は内地より配屬される模樣である【奉天電話】

奉天地方指導部 縣自治大會
けふ午前開催に決定

去る十五日開催の筈であつた奉天地方維持指導部縣自治大會は廿六日午前十一時より縣政府通りの新事務所にて開催した、同日は支那側は臧省長、袁最高顧問、各機關首腦者、來賓として日本軍部、總領事館、滿鐵の各代表列席、于冲漢部長より挨拶に代へて自治指導進行方法と兵匪討伐に關する意見を開陳、總つて各縣自治調査に行ける部員を集めロシアの支那赤化政策よりロシア自體の共產政治の失敗を論じ自治の根本方針は支那自體の自治制によるべきで當の臧在を除き一般民衆の福利を平等にするにある旨を訓話する筈【奉天電話】

臧奉天省長 全省に布告

臧式毅氏は就任以來省政務の刷新につき種々考慮を拂ひつゝあるが二十四日各縣に對し左の意味の布告を發し地方長官を激勵した

奉天省政府成立し本省長就任の件は既報の通りである、さて數月以來地方の秩序紊れ人民痛苦の折柄、地方官として種々盡力されたる件については大いに多とするところである、今や正式政府成り秩序漸く整ひ政務緒につかんとす、地方政務に關與するものはその地の治安を維持し民衆の痛苦を除去し匪賊の驅逐に努むべきである、本省長もこの難局を背負ふて出發せる以上一身を賭して事に當るべきにつき諸公も奮闘努力、若しこの際民政擾亂のものあらば嚴罰に處すべく以つて功罪を明らかにせんと欲す【奉天電話】

奉天省政府 諮問機關

臧式毅氏は政務諮問機關として今回省政府内に顧問會なるものを設け袁金鎧氏外一名を最高顧問とし外に顧問諮議若干を招聘し重要政務を諮問するに決し不日これが職制出來上り次第發表の筈である【奉天電話】

全省稅務會議

新任財政廳長翁鳳第氏は奉天全省の稅務革新の爲め所管各縣の稅捐局長各部を召集廿五日廳内に於て全省稅務會議を開催した、又趙廳長は目下所管内の各縣にして直接稅金送附し來るもの二十數縣なるも種々の稅目廢止の爲め現在の人員不用となれるより再び大淘汰を決行する事となり全職員傭員共試驗の結果現在員を半數に減ずると【奉天電話】

東北電信局 副局長任命

さきに東北電信電話局長就任の吉長吉敦鐵路局長金璧東氏は本務多忙の爲め現吉林公署員白純濬氏を副局長に任命白氏は二十四日より執務を開始した、尚白氏は現に吉長電信局長をも兼務してたるこの道の人である【奉天電話】

事茲にいたれば對滿方針は一つ
滯京期間は豫定出來ない
上京を前に内田總裁談

二十五日出帆のはるびん丸で東上する内田滿鐵總裁は連日重要社務の整理に寸暇の無い繁忙振りであつたが廿四日夕記者團を引見して左の如く語る

米國政府が日本軍の行動に關して日本に通牒を發したさいふことは新聞電報で見たが英佛兩國も同樣の通牒を爲したさいふのか？、さうするさ三國が相談してやつたことかも知れないが通牒の内容を見なければ何とも批評は出來ないが今までの米國の態度とは一寸變つたやりかたのやうに思はれるネ、今度上京するのは議會に出席するためで會社關係としては港灣問題などがあるがそのほかの問題は政府として大體決めて呉れてゐることゝ思ふ、滯京期間は豫定出來ないが若し議會が解散にでもなれば議會關係は無くなる譯だ、江口副總裁は年内には上京しない筈だ滿洲問題は事こゝに至れば何人の意見にもさう相違があるべき筈のものではなからうから新内閣の對滿方針は前内閣と左程相違するとは考へられない諸君とも暫らく會へないが時局が時局だからしつかりやつて呉れ給へ

（何もビクつくことはない）

各派交涉會

【東京二十四日發】衆議院各派交涉會は二十四日本會議散會後交涉室に開會左記事項を決定零時半散會した

一、二十七日本會議開會劈頭在滿軍隊慰問に關する決議を爲す在滿軍隊警官及び同胞の爲め議員各自から金十圓づゝ醵金する事
一、從來の交涉會には政民兩派から十名の交涉委員を出したが第一控室からも交涉會に出席する關係上各派七名以内づゝとする
一、二十日まで休會廿一日から本會議を開く事

田庄臺へ進擊の我軍

(上)○○步兵大隊(下)○○野砲兵大隊 ＝藤井特派員撮影＝

地方官の大異動
二十四日發令さる

【東京二十四日發】二十四日午後八時二十分地方官大異動左の如く發令された

秋田縣書記官 八田 三郎
任奈良縣學務部長(四等)
栃木縣警視 內藤 三郎
任秋田縣警察部長(五等)
內務省書記官 三樹 樹三
任滋賀縣內務部長(三等)
前田 愼吾
任岐阜縣內務部長(三等)
稻葉春太郎
任愛知縣內務部長(三等)
群馬縣書記官 天谷虎之助
任福井縣內務部長(三等)
神奈川縣書記官 九鬼 三郎
任群馬縣內務部長(三等)
兵庫縣書記官 田島 義士
任神奈川縣學務部長(三等)
長崎縣書記官 安原 舜一
任兵庫縣學務部長(三等)
山口縣書記官 本間 精
任長崎縣警察部長(三等)
鳥取縣書記官 安井 章一
任山口縣警察部長(三等)
宮城縣事務官 橋本 清吉
任鳥取縣警察部長(三等)
山形縣書記官 松島 源造
任島根縣內務部長(三等)
山梨縣書記官 土岐銀次郎
任山形縣內務部長(三等)
埼玉縣書記官 佐藤 正俊
任山梨縣內務部長(三等)
橫尾惣三郎
任埼玉縣內務部長(三等)
齋藤 俊平
任和歌山縣內務部長(三等)
靜岡縣書記官 加賀谷朝藏
任德島縣內務部長(三等)
內務事務官兼內務書記官 鐵道書記官 清水 良策
任靜岡縣內務部長(三等)
新潟縣書記官 福邑 正樹
任福岡縣內務部長(三等)
北海道廳部長 關屋延之助
任新潟縣內務部長(三等)
東京府書記官 羽生 雅則
任北海道拓殖部長(三等)
內務書記官 安藤狂四郎
任東京府學務部長(三等)
高知縣書記官 田口 易之
任愛媛縣內務部長(三等)
秋田縣書記官 中村安次郎
任高知縣內務部長(三等)
警視廳書記官 近藤 駿介
任青森縣內務部長(三等)
青森縣書記官 林 信夫
任警視廳保安部長(三等)
岡山縣事務官 山內 穰
任青森縣警察部長(四等)
廣島縣書記官 田中 修
任佐賀縣內務部長(三等)
茨城縣書記官 吉永 時次
任廣島縣警察部長(三等)
岩手縣書記官 佐々木芳遠
任茨城縣警察部長(三等)
和歌山縣書記官 今吉 敏雄
任岩手縣警察部長(四等)
佐賀縣書記官 連 修
任和歌山縣學務部長(四等)
廣島縣事務官 郡山 義夫
任佐賀縣警察部長(四等)
兵庫縣書記官 歌川 貞忠
任宮崎縣內務部長(三等)
新潟縣書記官 中井 光次
任兵庫縣警察部長(三等)
双川 喜一
任新潟縣警察部長(三等)
長野縣書記官 階川 良一
任沖繩縣內務部長(三等)
福島縣書記官 池田 繁治
任長野縣學務部長(三等)
愛媛縣書記官 赤土 正強
任福島縣內務部長(三等)
內務書記官 三島 誠也
任鹿兒島縣內務部長(三等)
馬場 義也
任北海道警察部長(三等)
奈良縣書記官 二見 直三
任京都府警察部長(三等)
大阪府事務官 岩上夫美雄
任奈良縣警察部長(四等)
岡山縣書記官 萱場 軍藏
任愛知縣警察部長(三等)
高知縣書記官 鈴木 登
任岡山縣警察部長(三等)
神奈川縣事務官 中村 四郎
任高知縣警察部長(四等)
內務事務官 數藤 鐵臣
任德島縣警察部長(三等)
三重縣書記官 麻生 亮藏
任熊本縣警察部長(三等)
靜岡縣書記官 纐纈 彌三
任三重縣警察部長(四等)
鹿兒島縣書記官 藤岡 長敏
任靜岡縣警察部長(四等)
滋賀縣書記官 山口 尙章
任鹿兒島縣警察部長(三等)
栃木縣書記官 足立 達夫
任栃木縣內務部長(三等)
福井縣書記官 小西竹次郎
任愛媛縣警察部長(三等)
新潟縣書記官 松枝 角二
任福井縣警察部長(三等)
內務事務官 雪澤千代治
任新潟縣學務部長(三等)
沖繩縣書記官 島川 直英
任宮崎縣警察部長(三等)
和歌山縣事務官 井田 實次
任沖繩縣警察部長(五等)
神奈川縣書記官 足立 收
任北海道學務部長(三等) 中山 重次
任神奈川縣警察部長(三等)
和歌山縣書記官 渡 正監
任靜岡縣學務部長(四等) 山口繩之進
任和歌山縣警察部長(四等)
內務事務官 富田 健治
任福井縣學務部長(四等)
香川縣書記官 郡 茂德
任福岡縣學務部長(三等)
鳥取縣書記官 鹿野 三郎
任香川縣內務部長(三等)
香川縣書記官 留岡 幸男
任千葉縣學務部長(三等)
群馬縣書記官 近藤壤太郎
任香川縣警察部長(三等)
宮城縣書記官 久保田 畯
任岐阜縣學務部長(三等) 三井 饒
任宮城縣警察部長(三等)
長野縣書記官 金森 太郎
任大阪府警察部長(三等)
岡山縣書記官 上田莊太郎
任長野縣內務部長(三等)
內務書記官兼警察教習所教授 土屋 正三
任岡山縣內務部長(三等)
千葉縣書記官 平 敏孝
任奈良縣內務部長(三等)
長崎縣書記官 安岡 正光
任千葉縣警察部長(三等)
福岡縣書記官 尾池 秀雄
任長崎縣學務部長(三等)
內務事務官 大津 敏男
任福岡縣警察部長(四等)
福島縣書記官 內田 隆藏
任岡山縣學務部長(三等)
長野縣書記官 中里 喜一
任福島縣警察部長(四等)
石川縣書記官 田中 藏六
任長野縣警察部長(三等)
島根縣書記官 辻野 三郎
任石川縣警察部長(三等)
埼玉縣事務官 山內 逸造
任島根縣警察部長(四等)
千葉縣書記官 竹田 武男
任鳥取縣內務部長(三等)
富山縣書記官 崎山 省吾
任島根縣學務部長(三等)
島根縣書記官 中野與吉郎
任群馬縣警察部長(三等)
愛知縣書記官 品川 主計
任宮城縣內務部長(三等)
青森縣書記官 福島 繁三
任秋田縣內務部長(三等)
鹿兒島縣書記官 畑山四男美
任大分縣內務部長(三等)
久保田金四郎
任兵庫縣內務部長(三等)
大分縣書記官 戶塚九一郎
任東京府內務部長(三等)
滋賀縣書記官 關 壯二
任大分縣警察部長(三等)
警視廳警視 高野 源進
任滋賀縣警察部長(四等)
鈴木 茂
任千葉縣內務部長(四等)
奈良縣書記官 中野 善敦
任栃木縣警察部長(四等)
休職富山縣書記官 瀨谷 濟
命復職補警察部長
北海道廳部長 稻垣潤太郎
同 岩本 俊郷
京都府書記官 林田 正治
兵庫縣書記官 藤岡 長和
千葉縣書記官 橫山 正
栃木縣書記官 藤田傊治郎
愛知縣書記官 粟屋 仙吉
靜岡縣書記官 濱田 嘉一
岐阜縣書記官 大竹 信治
宮城縣書記官 坂本 暢
福井縣書記官 田中 英
同 水原 信一
島根縣書記官 松崎謙二郎
和歌山縣書記官 中山恒三郎
德島縣書記官 毛助 文治
同 林 茂
愛媛縣書記官 柳井 義男
福岡縣書記官 小林 光政
同 猪俣 喜藤
大分縣書記官 伴 東
佐賀縣書記官 萬 富次郎
熊本縣書記官 青木 善祐
宮崎縣書記官 岡田喜久治
同 廣田增太郎
沖繩縣書記官 川口南海雄

文官分限令第十一條第一項第四號に依り休職を命ず

福井縣書記官 天谷虎之助
德島縣書記官 加賀谷朝藏
愛媛縣書記官 田口 易之
長野縣書記官 池田 繁治
福島縣書記官 赤土 正強

勅任官を以つて待遇せらる

山梨縣書記官 佐藤 正俊
山形縣書記官 土岐銀次郎
香川縣書記官 鹿野 三郎

兼補學務部長

閑院宮殿下廿四日御登廳

【東京二十四日發】全陸軍感激の中に廿三日參謀總長に御就任遊ばされた閑院元帥宮殿下には廿四日午前九時半御登廳を前に和田御附武官を伴はせられ九時平河町の宮邸にて御先祖の御靈殿に御就任の旨を親く御報告直に參謀本部に向はせられた此日參謀本部では本部附賀陽宮殿下を始め二宮次長以下すべて威儀を正し玄關前に整列奉迎申上げる中を九時三十五分殿下には懇なる擧手の禮を賜りつゝ自動車にて御到着金谷前參謀總長の御先導で總長室に入らせられ新舊參謀總長の事務引繼を濟ませられ廳内を御巡覽大玄關で全職員と記念撮影更に陸地測量部を御巡覽午後三時陸軍大學に成らせられた

海關稅の換算不統一で安東では徵收高率
上海同樣の算出方法によれと
安東商議から交涉中

支那海關が關稅徵收に採用してゐる海關稅の金換算々出方法は上海にては米支爲替と同地金換算に依つてこれを定めてゐるが、安東は上海及大連の米支爲替及び銀價を參照し更に金と換算する等の煩雜なる方法に依つてゐるので上海の孫の金算出に於て八十錢三、四厘の時安東は八十二、三錢となり、最近の政變に依る金價の暴落の際の如きは上海九十錢三厘に對し安東海關は一圓十四錢を徵收するといつた有樣で、安東で關稅を納入する者は一孫に對して十四錢以上の高率を支拂ふ事となるので安東商工會議所は支那海關に對しこの不統一を指摘して上海同樣の算出方法交涉中で、若しこれに應ぜぬ時は强硬なる方法を採るべく種々研究中である【安東電話】

熱河湯玉麟氏獨立
錦州軍が熱河省内に遁入したら
遠慮なく武裝を解除

【北平二十三日發】張學良は湯玉麟に對し再三錦州增援方を嚴命したが湯玉麟はこれを拒絶せるのみか却て凌源及び朝陽方面の部下に對し「錦州軍が熱河省内に逃走し來る場合は遠慮なく武裝を解除し拒むものは擊滅して省内に闖入せしむべからず」との命令を發し獨立の態度を表明した

インザネーム議長
晴れの就任挨拶
日比谷座の二日目

◆【東京特電二十四日發】日比谷座二日目の幕明きで先は中村インザネーム議長晴れの就任演說で滿場の拍手喝采 なあびる「やあ滿艦」など、いふ彌次が飛ぶかと思へば「三日議長氣取るな」など政友議員が喚く副議長增田義一氏は實業の日本、修養講話式に挨拶をする

◆就任演說を承つたのが大分縣の神軸で出た綱崎豐彥氏、七十九の老軀を提げて「正、副議長共に老巧練達の士で……」とぎこちない聽讀演說をやつて政友から「もつと確かりした者を出せ、不山しろ」と彌次が出る、不山前議長の辭任挨拶があり、二度目の挨拶には綱崎老、大に意氣込んで味方の拍手を浴びる

◆後は理事の推薦、部長理事の互選で幕となる、今日は大臣の顏は一人も見えず、議場の甌に座れた政友側では出席者も疎らであつた

滿鐵首腦部の不更迭進言
六日會の幹部から

【東京二十三日發】滿鐵恒久性懇談會「六日會」の幹部門野重九郎、坂西利八郎、矢野恒太、內田嘉一、倉知鐵吉、白岩龍平、佐藤安之助、星野佳吉氏外九氏はこの程丸の內六日會事務所に會合新內閣成立と滿蒙關係につき意見の交換を行ひ主として滿洲に高等機關設置に關する件、滿洲增兵の件、中央國策評議機關設置の件、滿洲中央政權樹立の趺態、滿洲の經濟資源等我國今後の施設大綱等につき協議したが、以上の問題は追つて決定することゝし先決問題として

本會は飽くまで滿蒙政策の一貫を期望し從つて本年度滿洲首腦の恒久性問題を提唱したる有志の結合に出發せる會合たるを以て今回政府の更迭ありたりと雖も滿蒙政策上重大なる理由なくしてその首腦を更迭するが如きは本會として贊成し難し

との趣意を政府要部に進言することを申し合せて散會したが、同會の有志代表阪谷芳郎男は右の趣旨を文書に認め今日犬養首相、その他各大臣、內閣書記官長、本庄關東軍司令官等に宛て滿鐵首腦者更迭反對の意思表示を爲した、尙六日會にては今後も滿鐵社員會と連絡をとり飽くまで祉志の貫徹を期する覺悟であると

年內の議會

【東京廿四日發】廿五日は大正天皇祭で貴衆兩院共休み廿六日午前十一時より貴院に於て開院式擧行、衆議院は式後同十一時十分開會動議委員を決定、廿七日午前九時より貴族院では會議全院委員長、常任委員長選擧を行ひ十時開會全院一致の滿洲軍隊慰問を決議する、衆議院は午前十時開會全院一致の滿洲駐屯軍竝びに滿洲同胞慰問の決議を決定後休會をなし兩院共年內の議事を終り廿八日より一月二十日まで休會に入る筈である、年內の議會はこれを以て打切りとするものである

二千萬圓現送

【東京二十四日發】正金では問題の所謂ドル買資金決濟資金として廿四日午後横濱出帆の郵船氷川丸で二千萬圓をアメリカに向け現送したがこれは五千萬圓の一部である

本年最終閣議

【東京二十四日發】政府は廿七日午後一時より本年最終の閣議を開く事となつた

葉煙草鹽樟腦 賠償額決定

【東京二十四日發】大藏省は最近物價下落生產能率增進を考慮し政府の收納する葉煙草、鹽、樟腦の明年度賠償額を審議中の處金再禁止の影響をも考慮して價格を決定二十六日官報を以て告示する事となつた、新價格は昭和七年一月一日から實施され各種何れも引き下げられてゐる

家事經濟の豫算

もうお組みですか(下)

豫算生活を實行するためには斷んな點に注意を

第四 には費目を少くして戴きたいと思ひます衣服費、食物費、住居費の外に費目を多くして細かく分けますと記帳がなかく面倒になつて遂々終りまでつけられなかつたなどといふ破目になります、これについて思ひ出すのはたゞ學校の家事教科書などで教へられる家計簿記ですがこれは正しい簿記法だと叱られればそれまでとしてこれはまた實に厄介で面倒なものに出來て居ります、理屈に於いて正しくてもそれを毎日記帳する爲に多くの時間と勞力を費すことは忙しい家庭婦人には耐へられぬことです子供の四人も五人も抱へて雇人なしに家庭をきりまはす主婦は休養の時さへ與へられずに働き通さなくてはならないのですから單調な家計簿の形式は實行出來ません、新婚時代や有閑婦人に向くやうな從來の家計簿記の形式は豫算生活も現金生活もする必要がないやうに出來てゐます、あの形式をもすこし科學化してもつと整理や記帳に

能率 の上るものに改善したいと思ひます、今日家庭婦人が豫算生活はおろか使つた金の行方さへも明らかにしないで其日其月暮しの經濟をやつて居る人の多いのはこの女學校の家計簿記が大分禍をして居るのでないかと思ひます、私は從來の形式に拘泥せずに自分で勝手に考案したものを生徒にも敎へ、自分でも實行して居りますが家庭と學校に仕事をもつて兩刀を使ふものにもらくくとやつてゆけます、費目は普通の家庭ならば衣服費、住居費、食物費、教育費(修養)交際費、運用費、豫備費(貯金)の七費目位で充分だと思ひます忙しい人には衣、食、住の三つでもよい位だと思ひます

第五 には記帳についてですが從來のやうに毎日の買物を記帳して其金額を累計してゆくのでなくて毎月初めに豫算額を明記して物品を購入する度に其豫算額から引去つて殘金を現すのがよろしいと思ひますそして剩餘のあつた時には次月にまはすし不足した時には次の月は豫算額から不足した分だけ差引いたものを以て豫算として超過しないやうによく緊張して次月の終りには使ひすぎを取りかへすやうに努力いたします、かくして毎月緊張して居りますと年末に豫想外のつかひ過ぎがない筈です、副食物費などは一日の豫算額を定めて毎日これを越えないやうに努力するのがよいと思ひます私は次のやうな形式でいたして居りますが毎日野菜を買ふにも魚を買ふにも其日の使つてよいお金高がはつきり

意識 いたして居りますから使ひ過ぎることは御座いません一日一圓で月三十圓と定めれば大抵三十圓の豫算で濟みます

副食物費(豫算一日一圓)

月日	品目	代價(+)(-)
二、一	豆腐半丁	圓、豆
	白玉粉一袋	、五
	豚肉百匁	、三〇
	野菜	、三三
	澤庵一本	、一〇(-)、一〇
二、二	鮪五十匁	、二〇
	葱三百匁	、〇八
	燒豆腐四ツ	、一三
	豆一升	、二三
	烏賊	、四〇(-)、三三
二、三	ハム百匁	、二〇
	上板一本	、二五
	野菜	、三三(-)、二三
	昆布二枚	、〇八
	挽肉百匁	、二五
	野菜	、一五(+)、二五

豫算生活を壞すものは何といつても虛榮心です今日一般の經濟生活をみて、もすこし私共婦人が一家の經濟のみに立籠らないで社會の經濟國家の經濟なども考へて金錢を生産的に合理的に費消する爲にものを頭を働かさなければならぬと思ひます、經濟生活に少し餘裕があれば衣服費に使つたり着物とゆかないまでも半襟や履物のよいのを買つたり不必要な家具を飾つたりするやうな外面的な經濟生活から私共は

早く 足を洗つて時節柄今一度家の内部を詳細に見渡して簞笥や行李の中に徒らに貯へられて居るものがないかよく調べてこの際新しく金を出すことは控へて手持品の活用利用に努力したいと思ひます、豫算をお立になりましたら主婦は強い自覺を以て確實な豫算生活を送つて頂きたいと思ひます。

勅題に因んだ新春の束髪

勅題「曉雞聲」に因んで新春の曉の晴かな氣分を現はした一九三二年の束髪です、寫眞の右(上)と(中)は東京美容院德永千代子さん結上、その下はすゞらん美容院内田秀子さん結上、左の上中下は共に遼東美容院樋口いつ子さんの結上げです

時局と教育(下)

大貫正

國家の多事多難に際しては國民は休戚を共にし體驗に訴へまして其赤誠を捧げ擧國一致の實をあげることが吾々の責務であります、護國獻金の眞意義も、眞精神もこれに要約されるのであります、然るに動もするとこの根本精神を忘れて獻金の多額を望むあまりに芳しからぬ方法によつて集めんとする者もないではないのであります、

戰線に もとも獻金の趣意は ある軍隊の勞苦を察して自分もこの苦みを共にしようとする純情より出發するのでありますから苟くも享樂を獻金の名に於て購はしめんと欲するが如きは其の根本に於て甚だ矛盾してゐるものであります、特に獻金の資源に關する方法等について奇を衒ひ金額の多少でも競爭する樣なことが萬々一にもありましたならば其の結果に於ては觸りはないかも知れませんが其の方法手段の醜惡なことに戰慄せざるを得ないのであります、而して

美しい 教育的の仕事に一抹の暗影がさすのであります、こんな事は現在に於ては微塵もないのでありますが鹿を逐ふ者は山を見ずといふ譬へのやうに獻金の多額といふ事にのみ眩惑してその根本の精神を忘れないやうにとの杞憂から申上げるのであります、そしてこれは社會一般の獻金運動の眞意義にも共通する問題でありまして、どこまでも美しい愛國、護國の純情の迸りでなくてはなりません唯この心ばかりが人を動かし世を動かすのであります、一死以て君國に奉ずる

軍人の 精神もこの國民が背後に於ける至誠の叫びがあつてこそ力あるのであります、去る十四日我が大連市内の女子中等學校が聯合して旅順衛戍病院に傷病者を慰問致しました、こうした美しい心のあらはれが如何に勇士の意氣を鼓舞するか、次の手紙によつて明かなる事と思ふのであります

皆樣昨日はありがたう御座いました、皆樣の御心籠めての唱歌舞踊、慰問品總てのものがどの位無聊に苦しむ自分等の心を明るくして呉れたか知れません、殊に溫い御便りを拜見致しましては只

感涙に むせんで居ります自分等はこの御禮に代へまして一日も早く退院して再び戰線に立つて自分の めく劍尖に敵を刺したいと思つて居ります、皆樣は新聞や先生にお聞きになりまして御存じでせう、昂々溪、チ、ハルの戰鬪に參加しました、勿論再び還る事は欲して居りませんでした、十一月十八日三間房の戰鬪に戰友は戰死し負傷して野戰病院に送られましたのに自分は微傷だになく逃亡する敵を追擊し夜を通して十三里、酷寒と飢と敵とに奮戰しつゝチチハル迄前進しました、此の間に殘念ながら極度の

凍傷に 冒されて居りました、支那兵營に入城して自分の責務は遂行したと安心した時もう歩行困難になつて仕舞ひました、一時チチハル領事館の假病院に後送されたのです、戰死した戰友を想起した瞬間、自分の身の不運を泣かずには居られませんでした、赤き夕陽荒野の果てに落つる頃、宿營せる支那部落の端で誓つた戰友の言葉、今尚自分の涙を誘ひます、でも御陰樣で自分の足も餘程快方に向つて居ります、どうぞ御安神下さい、今度はもう命なんか眼中に置きません、先輩の

血と骨 とで築き上げた此の地はやはり自分等の血と骨とで保持して行きます、一歩たりとも敵の侵入は斷じて許しません、昨日皆樣の歌に「わたしの兄さん滿洲で死んだ、わたしの父さんも滿洲で死んだ」あゝそうそう守れよ滿洲でしたれ、あの歌が自分の腦裡から離れません、自分の叔父樣は日露の役に此の滿洲で戰死しました、自分もまた此の地に死ぬ事を希ふて居ります、そして遠い故鄕の幼い弟や妹達に守れよ滿洲を唄はせたいのです、次に昨日皆樣に連れられて來たキユーピーさんは自分が夜半に傷の痛みに目を醒ましても朝になつても目をパツチリさせて微笑んで居ります ほんそうに

大元氣 です、今度戰線に行く時は雜囊の中に入れて連れて行く約束を今日しました、さぞ敵の機關銃や砲の音響に驚いて大きな目を白黒させるかも知れません、それとも少しも恐れず笑ひを續けて居りますかしら、二人のキユピーさんの中一人は看護婦さんです、胸の邊に赤十字が附いて居ります、自分が負傷した時種々慰めて呉れるでせう、何れまた暇を見て書きませう、もう繃帶交換の時間ですから先は亂筆にて御禮申上げますと共に皆樣方の御奮鬪を御祈りして筆を擱きますさらば

畏多くも明治天皇の御製に

國思ふ道に二つはなかりけり、戰のにはに立つも立たぬも

時局に處する國民のとるべき道はこれであります、殊に教育者は飽くまでも至誠至純報國盡忠の一念に燃えこの時局に當りまして國民觀念の養成と國民精神の涵養に努むることが急務中の急務と思ふのであります

一 ヒトモウマモアリノヤウ ヒロイノハラハドコマデモツヅイテキモチノイイコト

二 タイチャンハヒコウキニノッタツモリデヨロコンデキタライツカオホキナイシノソバ

三 オトウサンタチノキルイシダッタガドコヲミテモイシノホカハナニモナイ

四 イシハオホキクテウゴカナイノデコマッテヰルトニワカニモリノナカカラヒトノアシオト

滿日各地版

穆純昌歸順
熙長官に嘆願の上 軍部に指示を乞ふ

【長春】長春、南嶺の激戰で敗退した砲兵營團長（大佐）穆純昌は十九日手兵二百名を率ゐ南嶺を逃走後二十日双陽縣城に入り數日滯在中に敗殘兵一千名餘を集め驛馬河に沿ひて北進吉長線下九臺附近を横斷東支沿線老少溝兵營に遁入し吉林省新政府に反抗的態度を示すに至つた、然るに一方東支南部線一帶に於て反國治軍の色彩も最も濃厚にしてゐた双城縣駐屯第三十二旅團々長蘇德臣が最近に至り歸順を表したゝめ穆團長も此處にその不利を悟り歸順運動を開始し本月十一日夜寛城子次驛一間堡驛に下車徒歩吉長線東站（長春驛次驛）より乘車十二日吉林に赴き極秘裡の間に熙長官と會見歸順につき嘆願するところあつた、熙長官は軍部關係に運動了解を乞ひその結果二十三日午後八時三十五分着列車で來長同夜金壁東中將を訪問同中將の斡旋で松野憲兵分隊長と會見二十四日午前十一時三十分板野少佐の盡力で旅團司令部に長谷部少將と會見謝罪その指示を乞ふに至つた譯であるが穆團長は近く老少溝兵營に部下を糾合の上家族を纏め吉林の砲兵營團長として拔擢就任することゝなつた

女學生の歸省に 教諭附添ふ
時節柄、萬一を懸念し

【旅順】旅順高等女學校在學中の生徒にて二十四日終業式と共にそれぐ父兄の膝下に樂しき新春を迎へる爲め歸省する者は總計二百十二名にて、時局柄州外の者に對しては學校から伊藤教論附添ひ各驛頭に於て兩親へ引渡す事となり歸途伊藤教諭は各方面を歴訪慰問を爲す由である、因に沿線各地から來てゐる生徒は左の如くである
▲二十四日午後八時二十分出發立山、煙臺、郭家店、長春、鷄冠山（各一名宛）蘇家屯、公主嶺（各三名宛）四平街（四名）撫順（五名）奉天（六名）開原（十二名）
▲二十五日午前九時三十五分出發松樹、九寨（各一名宛）周永子、南臺（各二名宛）熊岳城、海城（各三名宛）沙河口（六名）金州（九名）普蘭店、瓦房店（各十名）遼陽（十三名）大石橋（十七名）營口（二十一名）大房身（二十六名）大連（二十八名）安東（三十二名）

托鉢金を献金

【鞍山】鞍山佛教團の高野山、淨土宗、東本願寺、不動尊、臨濟宗、曹洞宗の六派合同托鉢は本月上旬より行はれて居たが六派代表二十四日地方事務所社會係に出頭し托鉢金五十圓を献金した

公主嶺警察署員の警備
界前線に零下三十度の酷寒を衝き警備の光景

匪賊來襲の情報に公主嶺警察署員が附屬地境

鮮農三百餘名 慰問金を贈る

【奉天】瀋陽縣吳家荒居住鮮農代表三名は三百餘名よりの慰問金七十六圓を持參し廿四日軍司令部副官部に出頭し戰傷將士に渡され度き旨申出た

北海ハーモニ 會沿線を慰問

【旅順】旭川全市高等女學校及び同小學校女生徒を主體とし校外情操教育目的の下に組織された北海ハーモニ會協會では今回旭川高女生田代美代子（四年生）友田辰子（三年生）笠井豐子（二年生）同北部高女生坂内千惠子花輪千枝子（四年生）金谷松江（二年生）の六名が代表し久慈、小野、佐々木三教諭、佐藤會長、大原道議書記と共に一月二日來旅、旅順衛戍病院を振出しに沿線各地の各方面に慰問行脚を爲すと

桐野装甲列車 匪賊を掃蕩す

【連山關】二十一日午後六時二十分連山關出發の桐野特務曹長の指揮する装甲列車は逐次敵情を偵察しつゝ湯山城驛に到り更に引返して午前八時三十分林家臺を通過、黄家堡子舊傷場に到り三時其東方高地に敵匪約百名あるを知り直に下車之れを攻め、歩兵砲の威力と相俟ちて徹底的打撃を與へ敵の數

名を射殺負傷者多數を作り撤退に引上げた

匪賊四百餘名 鮮農を襲ふ

【長春】二十二日東支沿線米沙子驛南方三十支里蔣家店に現れた伸平の率ゆる匪賊四百名餘は通行中の鮮人を襲撃輸送の途にあつた糧十二石、大豆百七十八麻袋、馬車十七輛、馬七十頭を掠奪した上馬車夫の支那人十九名を人質として拉致一隊二百名餘は吉長沿線卡倫驛東方十八支里の地點に現はれたゝめ吉林護路軍六十五名及機關銃連（五十名）は此の討伐に出動せしが賊は逃走した

鞍山農商聯合會 着々内容を充實

【鞍山】曩に鞍山附近は匪賊猖獗を極め住民は戰々兢々として何れも生業に安んずることを得ざりしかば地方の治安を維持し併せて經濟上の融和發展を計る目的の下に去月十四日鞍山附屬地を中心とする二十一ケ村の商務會及び農務會を以て鞍山農商聯合會の組織せられたることは既報の如くなるが、其の後日本側各機關の援助を受けて順調に發展し他の各地より參加するもの續々増加し、現在に於ては鞍山を中心とする遼陽縣第六區第十一區劉二堡（鞍山西北方三邦里人口一萬五千）を中心とする第七區唐馬寨（鞍山の西方五邦里人口一萬）を中心とする第八區以上四個區管内の全村を網羅し、尚最近海城縣騰鰲堡（鞍山の南方三邦里人口一萬五千）の參加を得て頗る廣大なる地域に亘り、名稱も遂に陽縣南部農商聯合會と改め新に規則を制定し近日總會を開き役員を決定する筈である、而して今後の警備方面は別に機關を設けて之を切離し專ら鞍山を中心とせる產業交通其他經濟的公共事業を起し以て地方開發に貢獻し公利民福を計るを目的として着々之が計畫の歩を進めつゝある

小學生の慰問

【撫順】撫順永安小學生代表の傷病兵慰問二十日午前九時半發列車にて永安小學自治會代表尋五六年二十名は瀧野校長に引率され赴奉日支事變の第一線に起つて皇國の爲に盡せる在奉各軍隊及び衛戍病院を訪ひ傷病兵を具に慰問する處あつた

包圍の鳳凰城 防備工事施行

【鳳凰城】兵匪團の包圍状態にある當鳳凰城は何時匪賊の襲來するやも計り難きを以て、二十四日朝來駐在の警察官は多數の内鮮支人を指揮して附屬地の周圍に防備工事を施しつゝあり

大堡にて邦人 一名射殺さる

【鳳凰城】本月二十日西川中尉が一小隊を率ゐる大堡附近の匪賊討伐に出動の際連行せる日本人某は同隊引揚後單身居殘り達子堡の状況内偵に赴き三日の後大堡に歸り止宿中、匪賊の使嗾を受けたる住民に包圍されて射殺された、その際同宿の朝鮮人鄭光鍋も大腿部に貫通銃創を受けたが生命に別條はない模様であると

警官慰問會理 事長北行

【奉天】在滿警察官慰問會理事長佐藤榮志氏は二十二日來奉同日北行したが、同氏は酷寒滿洲の曠野に於て第一線の警備に當つてゐる警官を慰問する傍ら警官の努力を

凶作に悩む 青森縣に送金す
公主嶺在住者一同が 出動將士の留守宅に

【公主嶺】東北各地に於ける凶作に苛まれた農村の疲弊はその極に達し悲慘の状態にありて滿洲事變に際し青森縣附近より滿洲に出動せる多數の將士は硝煙彈雨下に激寒と戰ひ兵士の如きは零碎の給與金を郷里に送りつゝありと洵に同情に堪へず出動將士留守宅の窮乏援助の微意を表せんがため僅少であるが公主嶺在住者一同より金百圓を地方事務所長森脇樹氏より青森守屋縣知事に宛送金した

年賀郵便 例年に倍加
奉天の取扱數

【奉天】年賀郵便の特別取扱ひを開始した奉天郵便につきその取扱ひ數を調いて見ると本年は軍隊の出動してゐる關係上年賀郵便その他郵便物とも昨年の倍加してゐる、即ち廿日は五萬三千七百通で昨年の同日は二萬六千五百通、廿一日十萬六千六百通で昨年同日は五萬五千五百通を示し既に係員は繁忙手古舞の有樣である又一般郵便物の受付も廿日は四萬九千五百通で昨年同日は二萬四千通、廿一日は五萬四千通、昨年同日は二萬二百通である同局では廿三日から大連講習所から十五人の應援を得て大々的に仕事を開始することになつた

中國官吏の 增俸を計畫
蓋平縣で

【大石橋】從來中國官吏の俸給は至つて薄給にして判任官以下は滿足なる官吏として其の體面を保ち能はざる現狀に鑑み、蓋平縣指導委員等は各公務員增俸を必要なりとし昨廿一年度は本年豫算の二割增さし（公安局公安隊に限り三割增し）目下豫算編成中にて奉天新政府當局の認可あり次第之が實施すべしと云ふが、一度び此の報傳へらるゝや一般官吏は勿論市民及部落民に至る迄何れも自治制度の善政を謳歌し居れりと云ふ

長春

警官の辛勞を 極力慰安接待
警察婦人會が

長春昨今の夜間は零下二十五度から三十度を示してゐるがこの凍りつく寒夜を徹宵、匪賊潜入防止及び歳末警戒のため、動務してゐる警察官のため、長春警察婦人會ではこの辛苦を慰勞するため去る二十一日より警察署裏獨身宿舍に警察式に半數づゝ交代で出動大いにその接待振りを發揮しゐるが、二十一、二十二の兩日はそば、うどんデー、二十三日は市中側村田寺田兩氏の寄附としてそば、うどんデー、二十四、二十五の兩日は警察婦人會の甘酒デーとしてサービス百パーセントである、但し毎夜八時と十時の二回だが防寒靴さへカチ／＼に凍りついてゐる街頭を拔身の拳銃で數時間を廻つて來る警察官の足は無感覺になり顏も手も同様でこの辛苦を熱いうどんや甘酒で接待するのだからトテモ嬉しいらしい、尚婦人團は引續き接待デーを催す筈だがその間には各方面からの慰問デーもある模様である

航空隊出動す

獨立長春飛行第○中隊○機は市民多數の見送裡に二十四日午前十時七分飛頭機離陸、南下某方面に出動したが陸上勤務の殘留部隊（先發は二十三日夜八時三十分發）は二十四日夜十時發にて航空隊の跡を追ひ出動した

夜間電報取扱開始

長春城内電報局は最近匪賊の横行が頻繁であるため、從來取扱はなかつた夜間電報事務も特にその取扱ひを許可することゝなり既に開始した

奉天

興禪寺婦人會も 聯合會を脱退

聯合婦人會より佛教五派の婦人會が連袂し脱退した事は既報したが興禪寺婦人會でも廿三日全幹事會を開き聯合婦人會脱退を決議した

教育委員任命

奉天市政公署では今回市教育委員會を組織し左の八氏を委員に任命來春より開校の管下小學十九校の準備研究をなさしむることゝなつた（地方名士）細毅裕、杭常瑞（校長）林耀山、于瀛、劉宗基、傅文猷（教育專門家）周福金、李存甫

林大使送別會

今回ブラジル大使に榮轉した林奉天總領事に對する奉天官民の送別會は二十四日夜ヤマトホテルに於て催された參會者百五十名、席定まるや野口居留民會長一同を代表して此際滿蒙の事情に精通せる林總領事を失ふを惜み送別の辭を述ぶるや林氏は悲痛なる面容にて過去二十年來夢寐だも念頭より去らざりし滿蒙問題將に建設期に入らんとする秋、官命とは言へ此地を去るは殘念に堪へない然し將來必ずや一度ならず二度三度否四度五度この地に來り朝鮮諸公の驥尾に附し微力を致したい、本日は時節柄この種の催した御斷りしたのであるけれ共是非との事で一言御禮旁々お詫びに來たのだと約三十分に亘る謝辭あり宴席近來稀なる緊張味を帶び八時散會した

遼陽

中間驛慰問
婦人會が

遼陽倶樂部婦人會の奉仕部役員と當番幹事は野村主事が帶同の上左記日割に依り中間驛在勤社員並に家族を慰問の上煙草やキャラメルを慰問の印に贈呈すと
▲首山、張臺子（廿四日）山本、飯田、古賀、中村（地方係長）各夫人
▲十里河、沙河（廿六日）若林、山中、寺澤、中島各夫人
▲煙臺採炭所、太子河、煙臺驛（廿八日）杵淵、泉、佐瀬、寺澤各夫人

公主嶺

兒童自治會員 慰問金を贈る

公主嶺小學校の兒童自治會員は時局の現狀に鑑み兵匪と凜烈なる寒威と奮鬪しつゝある公主嶺守備隊騎兵聯隊の兩將士と警察官、衛戍病院に加療中の傷病兵士に對し二十四日慰問金を贈つたのであるが各會員は校内に募金箱を造り學業の傍ら家庭にあつて種々なる働きにより調達した金が二十一圓廿六錢となり役員の男女生協議の結果守備隊に八日を騎兵隊に五圓を警察署に五圓を衛戍病院に三圓二十六錢（菓子）を贈つた外高等二年の女生は昨今の酷寒を衝き滿鐵の行商による收益金二十三圓を守備隊に贈つた優しい女生の心に愛國心の熱血と自發的全校生徒の小さい願にも強く響き献金しやうと決心した健氣な行爲に感激措く能はざるものがある

憲兵隊に献金

公主嶺警察署勤務祭田驛派出巡査齋藤眞吉同驛員長谷川盛一の兩氏は二十三日駒井憲兵隊長に宛て金十圓に書狀を添へ送附してきた

鐵嶺

强盜三十名と 自警團交戰す

【奉天】廿四日午前零時頃奉天鐵西警外攬軍屯支那雜貨商劉德東方に長銃所持の卅名組賊現れ蒲團五枚、衣類十枚、防寒靴一足を强奪し逃走せんとした時、急報により駈つけた自警團員十五名と衝突し大交戰をなし自警團員一名の右足部に盲貫銃創を負はしめ西方に向け逃走した目下犯人嚴探中である

大石橋

鮮銀支店長招待

大串朝鮮銀行支店長は廿三日午後五時半から新聞記者團を中日飯店に招待懇親の宴を催した

バザー益金を 慰問献金す

大石橋小學校及家政女學校に於ては昨二十二日午前十一時より同校講堂に於て生徒の製作品展覽會を兼ねバザーを開催し、手藝品手工製品の陳列販賣並に實習品の卸賣を爲したが、四百四十餘圓の賣上げにて純益金八十餘圓を得たるを以て本日谷口校長は生徒總代四名を隨へ守備隊憲兵隊及び警察を夫れぐ訪問該純益金を按分慰問の意を表した

沿線往來

▲多門第二師團長 廿三日夜過奉遼陽へ
▲首藤滿鐵理事 同日歸連
▲村上滿鐵鐵道部長 廿四日來奉
▲宇佐美奉天事務所長 二十四日午後歸奉
▲入江滿電專務 二十三日來奉
▲大藏男 廿三日赴連
▲關屋遼陽地方事務所長 二十三日歸連
▲多門第二師團長 廿三日夜行で北方から歸遼

鞍山

實業協會協議

鞍山實業協會では廿三日午後四時より協會事務室に於て役員會を開き協議したが結果左の如し

一、消費組合撤癈に關するの件に就ては委員附託とし委員には加藤政人、三浦源七、田中末松

二、昭和製鋼所問題に關するの件は文章を以つて政府要路首相、陸相、拓相、政友會其他に請願す

三、南大將來滿に關するの件に就ては南大將に會見し鞍山の現狀を陳情することに決定

四、歳末決濟日に關するの件に就ては昨年の通り三十日に決定

五、特別評議員推薦に關するの件は小野寺所長を推薦す

六、奉天商議よりの通牒、滿蒙の經濟發展に對する障害排除方に關するの件に就ては各要路に請願す細目は加藤會長一任に決す

農商聯合會自動車を運轉

遼陽縣南部農商聯合會は區域内の交通機關の完備を計る爲め先づ第一歩として鞍山劉二堡間及び鞍山騰鰲堡間に乘合自動車並に貨物運搬自動車營業を開始することゝなり既に遼陽縣政府の認可を得目下南滿電氣會社との合辦經營とし鋭意計畫を進めつゝあり而して最初は客自動車二臺と貨物自動車四臺を運轉し將來順次營業を擴張して鞍山を中心として背後地一帶に自動車交通網を張らんとする豫定である

味岡中隊歸鞍 北滿方面に出動中の鞍山守備の第三大隊第三中隊味岡中隊は部下百二十名を引率し二十四日午後八時鞍山驛着列車にて歸鞍した、驛頭には官民多數の出迎へがあり盛況であつたが同中隊の將士は皆元氣旺盛で守備隊に入つた

瓦房店

兒童の慰問金　署長感激す

瓦房店小學校にては今回の時局に關し軍隊及び警察官を慰問すべく各家庭と連絡を取り慰問金を取纏め慰問狀と共に松尾、高尾の兩兒童が代表となりて二十四日警察署に出頭贈呈方申出でた右に付佐藤署長は語る

兎に角此の純情溢れた慰問狀を見て呉れ各兒童の腦裡に今回の事變卽ち帝國の興亡に關する擧國一致の大事件が如何に深刻に響き如何に熱心に考へて居るかが判る、生徒の赤心の發露は勿論であるが此樣に仕立て教育しつゝある教師及父兄の人格も偲ばれて涙なくては此文が讀めぬ我々の努力はまだく足らぬ一層感激奮起を促された

入營兵出發す 當地在住者にして今回入營する者左記は二十三日午前九時發列車にて出發したが多數官民の見送りを受け萬歲裡に出發した

甲斐虎彦氏野戰重砲兵第二聯隊へ△岩淵政行氏熊本工兵第六大隊へ

旅順

貯金通帳を拾得届出づ　二千四百圓

元寶町齋藤アイさんは二十二日午後二時過ぎ鮫島町で二千四百圓の貯金通帳を紛失したが新市場の瀧田濤と云ふ婦人が拾得感心にも届出たので、二十四日御禮に金二圓を贈られたので「阿呀!!謝々々」

兎耳鷲目

旅順警察[illegible]村上部、[illegible]

名和谷利雄、佐々木一三、三原半三の五巡査は今回奉天署へ轉任

◇廿三日朝出發した警察官練習生中安東班は廿四日無事着安したので市長宛

一同無事着いた、御厚意を謝す市民へよろしく

との入電があつた

◇旅順衛戍病院入院中の戰傷兵九名は二十四日午後八時二十分發列車にて原隊へ歸還した

◇黃花魚風網漁業奬勵會通常總會は廿四日午後一時から旅順民政署に於て開催昭和五年度決算同七年度豫算に就て附議する處があつた

◇旅順第一中、第一小、同二小、高等女學校では二十四日それぐ終業式を行ひ校長よりの訓話ありて一月七日迄休業となつた

第二の反抗 (113)

三宅やす子　阿部金剛畫

東京へ（一）

翌朝、お靜は、父が隣家に行つて居る隙を見て、うちを忍び出た。父には眼につくやうに置手紙をしておいた。手紙には、金のしまひどころが書いてある。

「……今日のうちに、すぐあとのお金を送ります。くはしいことは落ちついてから、手紙にかきます。このお金の出どころは心配しなくてもいゝのです。わたしは藝者になるのはどうしてもいやですこらへて下さいね」

そのあとのことが、どうならうと、それまでを考へて居られるお靜ではなかつた。自分が此土地に居たら、いつまでもけりがつかないのだ。東京へ

東京へ

またこの身體は、當分、誰にも知られずに働くことが出來る——

汽車に乘りこんでしまふと、お靜はホッとした。

此儘、東京についたら——どこに行かうか。

昨日奥さんの渡してくれた名刺を、がま口から出して見た。

これは奥さんのお實家だらうか奥さんの兄さんなら、きつと優しいいゝ方なんだらうか。

優しい、と考へると、すぐにお靜は、亡つた彼女の愛人のことが思ひ出されるのだ。

まだどうしても死んだとは思はれない。どこからか、ひよいと出て來て「俺も一緒に東京に逃げやう」と云つてくれさうな氣がする

でも、もうあの人には此世では逢ふことが出來ない。自分の不幸は——何と云つても、これ以上の不幸はないのだと思つた。

汽車に乘りなれないお靜に、汽車は無しやうに退屈だつた。

隣の四十男がしきりに何か話しかけた。お靜はかたくなつていよく退屈だつた。

驛で辨當を賣る聲がきこえても彼女は何も食べたくない。默つて、飲まず、食はずで、彼女は上野の驛に着いてしまつた。

賑やかな東京の街、どつちに行つていゝかわからない人ごみの中を、よその人はさつささ、さも急用があるやうな顔つきで歩いてゐた。お靜は、行先の電車をたづねるために、まづ交番に寄つて、おそるく彼女の行先を書いた名刺を出して見せた。

ねむさうに立つて居た警官が、ひげを一寸ひねつてから云つた。

「ハアン」

「これや、なかく遠いよ」

「……」

「省線で行つた方が可え」

省線で、と云はれても、お靜には見當もつかなかつた。

「地理が不案內らしいな」

と當然なことを云つて

「そら、あすこに行つて切符を買ふんぢや、高田馬場の驛で降りてそこで聞いた方が可え」

お靜は云はれた通りに省線に乘つた。空腹が、急に感じられて、めまはりさうだつた。

東京へ

お化粧の座談會　第一回

（ミツワ文庫）

寫眞は右上から下へ（いろは順）

市村羽左衛門丈
坂東三津五郎丈
坂東彦三郎丈
高砂屋福助丈
尾上梅幸丈
尾上菊五郎丈
中村吉右衛門丈
松本幸四郎丈
澤村宗十郎丈
守田勘彌丈

菊五郎・私が四十餘年の舞臺生活の中で、眞の化粧料として、サーワ白粉程滿足致した品はありません。右サーワ白粉は、チタニウム研究所長三木元子女史の創製に成る物で、二酸化チタニウムを主劑とし、或る特殊の成分を配合して作られた、絶對無鉛製の白粉です。元來チタニウムと云ふ物が、鉛とは共存しない性質を持つて居るものださうで、此白粉が確實に無鉛である事は既に權威ある學界の諸博士が證明されて居るのですから、確實に完全である事が保證されます。私は三木元子女史から此サーワ白粉の試用を依頼されて實際一年有餘の研究を續けましたが、其間三木女史はよく私の言ふ事を聞入れて呉れて、ほんの些細な缺點までを殘る方なく改善して、爰に始めて本邦唯一の眞の化粧料が完成された譯です。

梅幸・私は菊五郎から勸められて、サーワ白粉を使用する事になつたのですが、全く在來私共が使つてゐたもの、缺點であつた附着と伸びの惡い事が斷然なく、昔の鉛白粉同樣に附着がよく伸びがよく、其上に水刷毛を遣へば遣ふ程、生々とした白さの艶が冴えて、然も乾きが早く一度仕上げた化粧振りは、長時間を保つて化粧崩れのしないのは、事實驚歎に價するものがあります。在來の化粧は、一時間位の長丁場の舞臺を勤いて、部屋へ戻つて鏡を見ますと、半襟ずれの爲に襟白粉が剝げて居たり、又は汗の爲に顔の化粧が崩れて居る事が度々でしたが、サーワ化粧をするやうになつて以來は、一時間以上の舞臺を勤めて入いつて來ても、少しも化粧崩れのしないのは勿論、全體の白粉面が白粉を附けた時よりも却つて美しく冴えた白さを現はして居ます。斯う云ふ事は斷じて今迄には見られない、尤も偉大な效果です。

幸四郎・全くサーワ白粉の化粧榮えは、附けた時よりも程經てから、艶の冴えた白さを現はす事です。それにサーワ白粉は在來の半量以下で、以上の白さを作る事が出來ます。先般歌舞伎座の「忠臣藏」で、私が定九郎を勤めた時の如きも、いつもの例で手足から胸へ掛けサーワ白粉を塗つて出ました所、時の經つほど白さが濃く冴えて來て、あまりに美し過ぎるので、追々に手加減をして調子を取りましたものゝ、始めのうちは是までの習慣上、白粉を多く附けて、言はゞ皮膚の上へ白粉を一皮冠せて化粧をしたものでしたが、サーワ白粉は半量以下の薄さで、尚且それを水刷毛で刷伸して、同じ結果を得られる計りでなく、白粉が薄く伸びる爲に、皮膚を透して生きた化粧の出來るのが特色です。

福助・私なども其點に就いて、いつでも白さが濃くなり過ぎます。此頃は大分手加減を覺えて來ましたが、在來の固煉白粉が一興行二十五日間の厚化粧に三箇位を使用しましたものが、サーワ固煉白粉を專用するやうになつて、只の一箇で間に合ひます。

彦三郎・誰しもサーワ白粉の遣ひ始めには、さう云ふ經驗を持つて居ます。現在菊五郎などでもサーワ白粉の賣出し一ケ年も前から、サーワ白粉の試用者であり乍ら、矢張最初の間は濃く附け勝でしたが、此頃漸く調子が分つて半量で充分の白さを作るやうになりました。然もサーワ白粉は純國産のチタニウムを主劑とした品ですから、サーワ白粉の專用は一面に國産の奬勵にもなり、併せて經濟上にも頗る徳用でありますし、且皆さんの賞讃された如く、眞の化粧料として完全無缺な品ですから、大日本俳優協會では、東京衛生試驗所の檢査を經て、一般の俳優界へサーワ白粉を推奬しましたのと同時に、日本俳優學校でも、學生一同の化粧料に、サーワ白粉を專用させる事を發表しました。

吉右衛門・取分けて私のやうに汗性の者は、技藝に熱しますと、寒中でも瀧のやうに汗が流れて顔や襟の化粧が崩れて來ます。しかし役柄に依つては、途中で顔直しをするのは、大に感興を減じますから、無據幕切まで辛抱もしましたけれど、サーワ白粉を專用するやうに成つてから、此心配が無くなりました。サーワ白粉の效果は、しみ〴〵有難いと思つて居ります。

三津五郎・私も亦吉右衛門に負けない汗性で、在來の化粧では、踊つて居る中に汗の流れで、どうしても化粧崩れがしましたので、踊の間に粉白粉で急がしく顔直しをしたものでしたが、サーワ白粉專用以來、汗を押へる事はありましても、化粧崩れのした事を覺えません。

羽左衛門・それにもう一つ、サーワ白粉の化粧振が美しく仕上がる證據としては普通の化粧で寫した寫眞と、サーワ化粧で寫した時の寫眞とを見比べると、サーワ化粧で寫した寫眞は、際立つて目鼻立がクッキリ鮮に寫るのです。是等は一寸人の氣の付かない事で、實際の化粧榮えの上に、どれだけの相違があると云ふ事が、誰の目にも瞭然と見分けが付きます。

宗十郎・殊に俳優の舞臺化粧は、一般御婦人方のお化粧よりも、舞臺の關係上からしまして常に厚化粧濃化粧を多く作ります。從つて今までは、厚化粧を續けて居る者の顔には、必ず白粉燒と稱して、黒い斑點が殘つたものでしたが、サーワ白粉に限つては、年中厚化粧を仕續けて居ても、決して白粉燒が出來ないのですから、私は悴たちにも申付けて、サーワ白粉の專用をさせて居りますが、尚一つ私の經驗から得ましたサーワ白粉の特長を申しますと、在來の化粧が兎角附着がよからず、中には粘り氣で白粉を保たせるやうに出來て居る品もありまして、物をして居る感じで、うつかりと手も付けられないやうに思はれたものですが、サーワ白粉は分子が極めて細かく、肌障りがサラ〳〵として、最も乾きが早く、且白粉を塗つて水刷毛の化粧法で刷伸して仕上げた跡を、サーワ化粧水で停めて置けば、障つても擦つても化粧崩れのする事がなく、安心して快感を持つて居られますし、舞臺の上で顔直しをする事も無くて濟みます。つまり煎じ詰めて申せば、ピッタリと皮膚に合つて、殊更に白粉を濃く塗つて居る氣分でなく、眞から美しくなつた心持で居られるやうに思はれますのです。

勘彌・俳優の舞臺化粧の中で一般の御婦人方のお化粧と相違する點は、舞臺化粧は顔の化粧に釣合はして必ず手先へも化粧を施します。又或場合には足の化粧を施します。但し足の化粧は特に足を出して見せる場合だけですが、手の化粧は恐らく缺かした事はありません。さうして厚化粧濃化粧の時には、手の甲から二の腕へ掛けて、煉白粉を薄めたものを、塗刷毛で刷伸しまして、更に手先へ水を付けて撫伸して行く方法を取りますが、それは舞臺化粧に限られた事と申してもよろしいので、敢てお勸めはいたしませんけれど、一般の普通化粧をなさる方々が、顔のお化粧の白さとは反對に手の赤いのは、つまり顔だけへ白粉を塗つて居る事を證明するやうに見えますから、顔のお化粧よりは勿論薄く、サーワ粉白粉を刷附けて、それを掌で擦込んで置くだけで、充分釣合の取れる美しい化粧が出來ますから、此義は是非御實行を希望いたす所であります。

菊五郎・化粧はすべて行屆かなければならないでせう。如何に顔の白粉が美しく附いて居ても、耳裏に白粉が固まつて居るとか生際の白粉が濃過ぎるとか云ふ事は、要するに自然に背いた事になる譯で、昔の名優は耳の白粉を拭いて、耳朶へ一寸薄く紅を刷附けて置くとか、鼻の穴へも薄く白粉を刷いて、其中へ薄く紅をさして置くとか、又は手先の化粧をするにしても、手のひらだけは白粉を拭取つて、赤味を持たせて置くのが色氣があるとか、いろ〳〵苦心の研究が譯り殘されてありますし、又私たちにしてもそれを學んでも居ます。幸ひにサーワ白粉のやうな完全な化粧料が出來て、私たちの多年の理想が實現されたのですから、佳き化粧品に依つていよ〳〵佳き化粧法を研究して行きたいと思つて居ます。

梅幸・それにはサーワ化粧品の種類として、サーワ白色固煉白粉、同肌色固煉白粉、同白色煉白粉、同肌色煉白粉、同純白水白粉、同肌色水白粉、同濃肌色水白粉、同純白粉白粉、同肌色粉白粉、同濃肌色粉白粉、サーワ化粧水、サーワ白粉下、サーワコールドクリーム、サーワヷアニシングクリーム、サーワクリーム白粉、サーワ頬紅、サーワ口紅等が完成されて居ますから、夜の化粧には肌色を用ひ、年増の化粧には濃肌色が適當と云ふやうに、殆んど思ひの儘の化粧が出來る譯です。

羽左衛門・前にも幸四郎から話が出て居たが、昔は手足へ白粉を塗ると、其白粉が衣裳を汚して衣裳屋が困つたもので、白粉を溶いて附けるのが、衣裳を汚さない方法として、我々もそれを實行して居たものですが、サーワ白粉は煉白粉を極薄く溶いて塗つて、仕上げると白く冴えて乾くので、衣裳を汚す事がない。萬一誤つて濃化粧を垂らすやうな事が、イヤ我々は手慣れて居るからそんな事はないけれど、もしあるにしてから乾いた跡を叩けば、粉になつて飛散つて仕舞ふのであるし、又煉白粉でなくとも、サーワ粉白粉を刷附けて、パフで撫伸して行くだけでも、サーワ白粉ならば手足の化粧は充分に出來る。然も敢て白粉下のクリームを用ひないでも、實に綺麗によく附きます。

幸四郎・昔は俳優の濃化粧には、白粉下として堅油を擦込んだものであるが、私は唯今サーワ白粉下のクリームを專用して居ますが、極めて少量を擦込んで充分に效果があつて、入浴をしても、ミツワ石鹸で洗ひ落さなければ決して化粧は崩れない位によく保ちます。

宗十郎・私は又厚化粧を拭取るのに、在來は水油を布に濕して拭落して居たのを、此頃ではサーワコールドクリームを、柔かい布に附けて、それで拭いて落して居ます。此方法はコールドクリームの作用に依つて、次の化粧をする時に、改めて白粉下を遣はずとも柔かい布で一度顔をほてる位に擦つて置けば、肌理に吸收されて居るクリームの働きで、濃化粧薄化粧ともに、思ひの儘に美しく附くと云ふ方法を行つて居ります。

福助・濃化粧をして出る役から次の幕に薄化粧をして出る役のある時、今までは一々化粧を仕直しましたが、私は此頃サーワヷアニシングクリームで濃化粧を拭取つた跡へ、サーワ肌色粉白粉を刷附けてそれを仕上げたゞけで、簡單に且美しい化粧榮えを作つた事がありましたが、舞臺化粧としてはと兎もかくとして斯う云ふ事は一般の化粧法に應用が出來ると思ひました。

吉右衛門・それとは反對に、私は薄化粧の役を勤めた顔の上へ、濃化粧のそれを洗ひ落さずに、上塗りをした事があります。尤も幕間の短い急がしい場合の時で、實は自分では多少の不安を感じて居ましたが、扱塗上げて仕上げて見ると、その二重塗が少しも際立たずに、新規に念を入れて作つた化粧と同じ結果を得たので、サーワ白粉は二重塗りにも成績の極めて良好である事を知り得ました。

三津五郎・サーワ白粉の化粧が艶よく白く冴えるのは、誰しもが齊しく認める特長ですが、私は少量のサーワ白粉下を擦込んだ跡でサーワ頬紅を指先へ附けて兩眼の周圍を薄くぼかして置いて、其上からサーワ固煉白粉を役柄に依る適當の薄さに薄めて、それを均らしてから化粧をして居ります。

勘彌・サーワ化粧に生々とした艶の冴え出る事は、全く外の化粧に見る事の出來ない、化粧料としての第一條件に適つた特長です。さうしてサーワ白粉は、固煉、普通煉、水白粉いづれも先づ入用の分量、在來の白粉の時に遣つた半量でよろしい、それを別の器に取分けて置いて、夫々適度に水を含ました塗刷毛で右の白粉を數回撫均らすのがよろしい。撫で均らすだけ、白粉の特長がいよ〳〵現はれて來て、ますます白さの艶が冴えて實に美しい化粧振りが作られます。是は私の實地經驗ですから是非サーワ化粧に親しまれる方は、是非〳〵お試し下さいまし。

彦三郎・化粧品にはすべて其使用法があります。例へばサーワコールドクリームの如きでも、之をお化粧下としては、多量に遣へばいゝと云ふ物ではなく、多量に遣ふ時には却つてサーワ白粉は滑つたり、寄つたりする事になります。少量を兩の掌でよく擦つて、それを額から、襟から、頬と云ふ順に、力強く皮膚のほてる位に、逆に肌理の中へ擦込んで行く心持にするのがよろしい。それで一度柔かい布で拭取つて仕舞つて、つまり肌理へ吸收されて居るだけで、充分に白粉の附着と保ちをよくする效果が舉るのです。

菊五郎　サーワ白粉及びサーワ化粧品の一式に就ては、私は發賣以前からの試驗者として、各其特長は知り拔いて居るのだが、同じサーワ化粧に親しんで居る人たちの中で、何かサーワ化粧の缺點を見出した人があつたら是非それを教へて貰ひたいと思ひます。

梅幸・サア強て缺點を言へば、サーワ白粉はあまりに綺麗になり過ぎる事だらう、特長の方ならばまだ〳〵細かに話せば幾らでもある。

幸四郎・化粧が綺麗に仕上がるのが眞の化粧料の値打であるのだから、それは缺點とは言はれない。それより分量の方が問題でせう。とにかく在來の白粉の半量以下で、以上の美しさが作られる、此半量以下が一寸むづかしい。ツイ今までの手加減で分量を極めるので、狂言の役柄によつてはどうしてもツイ綺麗になり過ぎる。一般の化粧としては綺麗に過ぎると云ふ事は無いが舞臺では役によつては困るわけです。

羽左衛門・其時にはサーワ樂屋用に朱胴色もあれば砥の粉色も出來て居るのだから、それを加減して交ぜればいゝさ、つまり一般なら肌色や濃肌色さ、白粉の話で綺麗になり過ぎるのに小言を言つたら、もうお終ひだ。

三津五郎・それでは芝居へ出勤の時間が近附きましたから座談會もお終ひにいたしませう

（M・M生速記）

？誰れが何れでせうか？（座談會出席諸丈の舞臺顔）

約七百名の別働隊がまた安奉線に襲來す
昨曉二個所で我軍と交戰

我軍の後方を攪亂せんとする匪賊別働隊の安奉線切斷計畫は最近頻々と行はれてゐるが、二十五日午前零時頃、殆んど同時刻に二個所襲はれ、高麗門驛附近では約七百の別働隊が鐵道線約百米附近迄迫り一時危險に瀕したが我守備隊は敵と交戰約一時間半で漸く撃退した【安東電話】

牛心台に五百餘名
わが警官隊討伐に出動

二十五日正午頃牛心臺にまたく五百餘名の兵匪現はれ同驛襲撃の模樣があるので上田本溪湖署長以下四十名はこれが討伐に出動した【奉天電話】

敗走した兵匪團が湯崗子近くに逃ぐ
同方面は危險に曝さる

田庄臺附近でわが軍のため掃蕩された賊軍の大部隊は二十四日午後になつて湯崗子の附屬地間近に現れた、このため湯崗子附屬地は危險に曝されてゐる【奉天電話】

高給を支拂つて馬賊を募る
前警務處長が委員を派遣
頭目五十餘名と協議

關東軍當局の談によれば黄顯聲の部下某の語るところを聞くに最近前遼寧警務處長黄顯聲は清帥總指揮に、また黄部下程拓松を收編主任に任命し、且つ黄の部下十餘名を視察委員として多額の現金を攜行せしめ遼西地方の各縣に派し從來東北軍に招撫せられたる馬賊の頭目五十餘名と打合せをなし更に部下の募集方を督勵せしめたがその馬賊團募集の條件は左の通りである

一、自ら拳銃を所持するものは日給現大洋三十元を給す
二、百名以上（武裝せる馬賊以下同じ）を率ゐる者は大尉として待遇す
三、騎兵二百五十名又は歩兵五百名を率ゐるものは少校營長に任ず
四、騎兵五百名又は歩共一千名を率ゐる者は上校團長に任ず
五、百名に滿たざる部隊は他の少部隊と合し定員に達したる後委員において檢閲の上編成費を支給す
六、當分は一地方に潜伏して良民を裝ふ
七、戰爭勃發せば專ら日本軍の行動妨害に努めること【奉天電話】

沿線各地の兵匪跳梁

最近兵匪の跳梁を擧げれば左の如し

一、沙河西方黒林臺集結せる兵匪は十九日以來再び勢力を挽回したが機關銃を有する約三百餘名の有力團となり沙河西方十二籽孟大達堡を横行してゐるが、二十二日その西方約四籽の王岡堡を包圍し同地公安隊に武器の提供方を強要しつゝあり、同地農民は日本軍に討伐方を請願し來つた

二、鄧鐵梅の兵匪約二百名は目下大孤山東北方約四十五支里の中央廟附近にあつて歩兵銃で威嚇し莊河、岫巖方面を襲撃すべく計畫中なりとの情報あつたので目下警戒中

三、二十五日午後零時半頃板橋子北方二里の四臺子附近長岡子、馬家子に八百名の兵匪漸次南下同地附近部落を襲撃する模樣あり、奉天警察署に對し至急應援方を依頼して來た【奉天電話】

各宮家より東北へ御下賜金

【東京二十四日發】北海道及び青森縣下の凶作御救恤の思召しを以て二十四日各宮家より内務省社會局を通じ金一封を御下賜あらせられた

飢饉地方の爲義捐金を募集
關東廳が

關東廳では今般の青森、北海道地方の飢饉に對し義捐金を醵出すべく目下地方課より本廳以下各隷屬各官署所に紹介募集中であると

『お馬に人參を喰べさせたい』
本社に寄託された心からの獻金數々

各地にて寒氣と缺乏に惱まされながら或は匪賊討伐に或は一般警備に身命を賭して奉公してゐる將兵や警官に對する一般市民の同情感謝は擧報の如く日を追ふて熾烈を加へ慰問獻金ともなつて現はれてゐるが、左に掲ぐるものもその一例であつて、すべて寄贈方を本社に依頼してきたものである

◇大連朝日 小學校六年四組の全女生徒は生徒の貯金や石鹸等を賣つて利益を得た金を同組に据附けの愛國貯金箱に投じ、たまつた二十圓四十四錢を持參したが、この内五分の一のお金はこの寒いのにお馬さんも可哀想だから人參を買つて喰べさせて下さいと女生徒らしい希望だ

◇同校五年一組石井琢磨、丸野一雄、粟津二郎、吉澤清、奈良安民の五君は文具、菓子の販賣利益金五圓十一錢也を持參した

◇同校女生徒 二名、男生徒三名は雪の降る日も風の日も本社の夕刊を賣つてゐたが、この利益金女生徒金五圓二十八錢、男生徒金三十圓十三錢を本社に持參した

◇同校六年二組宮崎英二及弟弘の二君は文具、タワシを販賣した利益金參圓七拾五錢を持參した

◇同校六年二組前原、淺野、鈴木、藤城、安藤、野口、小野寺、大塚、横峰の九君は文具、タワシの利益金武圓六拾錢を持參した

◇同校六年二組西浦寛、藤城吉一の二君は文具、タワシの利益金壹圓八十二錢を持參した

◇同校五年 一組正岡茂雄、村上滿蔵、中村善郎、丸野一雄、加藤秀太郎の五君は文具やタワシの販賣利益金五圓三十四錢を持參した

◇同校五年一組山本初見、高崎勉の二君はマッチ、タワシの販賣利益金三圓二十四錢を持參した

◇長野縣上高井郡須坂尋常高等小學校四年一組より同校一組受持の柴草先生より滿洲事變の話を聞いて大いに出動の兵士に同情し新聞で見るとちり紙が最も不足を告げてゐる事實を發見したとて小爲替金二圓を同封しこれでちり紙を買つて綴り方のとき に書いた手紙一通と共に送つてきた

◇遼東ホテル 喫茶部員五名は先日から本社の夕刊を賣つてゐたがこの利益金二十六圓十四錢を兵隊さんに獻金するとて寄託した

◇煙台採炭所昭和寮一同より金三十圓也を同封しこれを出動將士の慰問金に心許りの金額ではあるが御送り願ひたいと寄託してきた

◇滿鐵總務部文書課中村寅六氏は廿四日キヨ子夫人の忌明に際し出動軍人、警官、滿鐵社員慰問金の内へ金百圓を寄贈すべく本社に寄託された

遺書となり人々の涙を誘ふ
安達一等兵の置手紙

田庄臺の戰鬪において最初の犧牲者として不幸賊彈に斃れ名譽の戰死を遂げたる第○○聯隊附歩兵砲隊一等兵安達關政氏は昂々溪の激戰に參加し次で錦州軍攻撃部隊に參加の目的を以て營口に移つた際は寶満堂主池田清太氏宅に宿泊したが、同氏の宿營を引揚ぐるに際し、安達氏は嚴封せる一書を池田氏に手交し「此書は私が出動した後で御開封下さい」と云ひ殘し田庄臺方面に出動した、然るに右の手紙は未だ開封されないうちに間もなく安達一等兵が戰死したので思ひがけない遺書となつたが、左の如く安達氏の人と爲りと覺悟のほどがしのばれ池田氏が寫眞を安置し香花を供へ供養をするにつけ今更の如く人々の涙を誘つた

謹んで一書を啓上致します、陣れば去る十一月三十日奥地より當地に下車したる時には思ひもかけぬ多數の人々が御出迎へ下されて三日間熱誠をこめたる御もてなしを受け、陣中にありし我等には沙漠の中に泉池を發見したるの感有之て、陣軍營へ移住後も御たづれする度に身に餘るお馳走にあづかり御親切父母にも及ばぬ御恩を受けたと難有感じました、此御厚情は死するとも忘れざる覺悟をなして居ります、只今當地を去るについては在營二ケ年更に半生を通じてまだ嘗てない所の名殘り惜しさを感じます、今や第二の故郷とも思はるゝ營口を元氣よく出發し出動致します、我等の良き砲長石川中尉殿の慈愛の萬分の一にも酬ゆべく必死の覺悟を以て暴虐無道の錦州軍を討滅すべく戰線に立ちます、終りに臨み寶満堂の大發展を祝して御別れの辭と致します、皆樣御氣嫌宜しくさようなら

廣田大使暗殺陰謀の内幕
某國外交官に依頼された
勞農一市民が告發

【モスクワ二十四日發】勞農當局が發表した廣田大使暗殺陰謀計畫なるもの、輪廓左の如し

十二月二十二日聯邦交通人民委員會從業員でソウエート市民たるゲー某は合同國家保安局拳事會に對し次の如き事實を告發した

三年半以前より自分はモスクワ駐劄某國外交團の一員と交際を續けて來た、この十二月初め以來同人は會談毎に專ら滿洲事變を持ち出し若し「モスクワで勞農聯邦駐劄日本大使の生命に危害を加へるならばこれが勞農聯邦と日本との間の戰爭の原因となるらう」と仄かし、其後會ふ度にこの仕事の心要を力說し執拗に日本大使狙撃を說くので自分はこれが自分に奇怪なる戰爭挑發者の役目を割當てる事を確信するに至つた、自分の未熟から祖國に對する斯くの如き忌はしい屈辱的活動に引込まれた重大な過失の償ひをしたいと思ふ

右の告訴中の各種の資料を調査した結果、外務人民委員會は確證を得たので上述外交官主席使臣に對し速かに該陰謀外交官を國外に送還すべき事を要求し承認を得たものである

明日朝から正午にかけて補充部隊大連に入港
これらの部隊を迎へる準備で多忙を極める運輸部

懷しき故山を後に赤い夕陽の滿洲に補充された姫路、小倉、岡山、久留米、松江その他の各部隊○○○名は萬歳禁裡陸軍御用船吳淞丸東泰丸第十一平榮丸、平仁丸に分乘

滿洲に

向つたがこれより先陸軍運輸部大連出張所では本部よりの臨時應援部員を得日夜この補充部隊を迎へる爲め運輸事務並にこれが諸準備に多忙を極めてゐる廿四日午後同出張所の正式發表によると

吳淞丸（姫路部隊○○○名搭載）は廿六日午前五時入港甲埠頭九番バースに繋留を見同じく午前八時上陸を開始つゞいて東泰丸（小倉部隊○○○名搭載）は廿六日午前九時入港同じく甲埠頭八番バースに繋留午前十時より上陸開始、そして次に第十一平榮丸（岡山、小倉、久留米各部隊○○○名搭載）は廿六日正午入港

乙埠頭

第廿一番バースに横付けられ午後一時上陸の筈、尚更に廿九日午前八時には平仁丸（松江其他部隊○○名搭載）が入港甲埠頭九番バースに繋留午前九時上陸を開始の筈であると

歡迎諸打合せ

陸軍運輸部大連支部は滿洲派遣部隊の來滿を控へ火のついた樣な多忙ぶりを見せてゐるが、廿四日午後同所は滿鐵埠頭、憲兵隊、水上署、大連署、並に民政署、市役所等各關係者參集派遣部隊の來滿に對する各種の打合協議を行つた、殊に北滿一帶に匪賊討伐並に我が滿蒙振興の爲め一身を御國に捧げた諸勇士の來滿に對しては一般市民は心から盛大な歡迎をなすべく期待されてゐる尚上陸當日は市民を代表し小川市長から歡迎の挨拶をなす筈だと

特に當日は市民多數の熱狂的な殺到を見るであらうと、水上署、憲兵隊、埠頭監視係、市役所等よりこれが整理に當る事となり特に廿五日各學校その他に對しこれが注意を促す事となつた

派遣兵を歡迎
繪葉書を贈る

今回の滿洲派遣兵に對し大連市では埠頭溜の南詰に歡迎門を建て各人毎に滿洲名所繪葉書五枚一組を贈呈し大いに歡迎する事にした

極貧、老病者に救濟金やお餅代
關東廳の慈惠資金から義捐

關東廳内恩賜財團慈惠資金中から恒例に依つて歳末に際し正月を迎へることも出來ぬ管内の極貧者や老衰、病氣、孤兒等で各種の救護機關に收容されてゐる憐れな人々のために前者百四十二戶に對する救濟金として合計四百八十圓、後者被收容者七百九十三人に對する歳末餅代として五百八十四圓をそれ〴〵交附することに決し廿四日各民政署、警察署宛送附傳達することゝしたが、今回救助を受くる極貧者は大連九三戶、大石橋二戶、鞍山一戶、奉天二七戶、撫順一戶、開原二戶、長春七戶、安東八戶で餅代を交附さるゝ救濟施設及被收容者は左の通りである

△鎌倉保育園三八人二十六圓五十錢△大連聖愛醫院七三人七十一圓△大連宏濟善堂二一一人百五圓五十錢△大連醫院二八人二十一圓△救世軍育兒婦人ホーム六七人四十圓五十錢△大連市社會館四五人二十三圓△滿洲託兒所一一人五圓五十錢△智光院無料宿泊所一四十五圓△爲仁會一〇人百六圓五十錢△勞働保護會六八人十五圓五十錢△大連力行會三四人二十二圓五十錢△赤十字社大連診療所二人二十四圓△遼陽滿鐵醫院三人三圓△滿洲醫大醫院四二人二圓五十錢△小谷育兒ホーム一四人三十五圓△奉天赤十字病院五一人七圓△[illegible]三十二圓

大連市參事會
新參事會員初の召集

大連市役所では二十四日午後二時より新參事會員初めての市參事會を召集

一、臨時出納檢査立會人互選の件
一、市參事會第二十一號議案昭和六年度市稅戶別割第四次臨時賦課額決定の件
一、市參事會第二十二號議案不動產處分の件
一、市債償還方法變更の件
一、市參事會第二十三號議案和解の件
一、市參事會第二十四號議案和解の件
一、昭和六年度大連市歳入歳出豫算更正の件
一、大連市立實業學校學則制定の件

を附議したが臨時出納檢査立會人は市長の指名推薦により佐多、野本、芦刈三議員に決定、戶別割第四次臨時賦課額は本年十月より十一月迄の間に市內へ轉入した者およびを營業所を設置したキーストンタバコ、コンパニークミテット外五百九十二人の法人に對し戶別割を賦課せんとするもので一部修正の上可決し不動產處分の件は山縣通市場燒跡の假店舖を買却するもので原案通り可決した、また市債償還方法變更の件は市營住宅市債六十五萬圓也、從來の住宅賣却に依る償還案を變更し繼續家賃取立に依り償還せんとするもので原案の同意を得、二十三號議案和解の件は屎尿代未拂、二十四號議案和解の件は市營住宅家賃不拂の各請求訴訟に對する和解で原案可決、大連市歳入歳出豫算の更正は中央卸賣市場の下半期取引高激減に基く八千八十餘圓の歳入減少に對する更正で原案同意となり大連市立實業學校學則制定の件は小川市長より原案の說明あつたのみ審議を次回に廻し同五時散會した、因に次回市參事會は七年度に入つてから召集の豫定であると

辯護士に醫學博士

【東京二十四日發】法學士辯護士山崎佐氏は今回九大に日本疫史及び防疫史の二論文を出し博士となつたが法學士辯護士で醫學博士は面白くないとの反對論あり學校側は醫學博士でも醫師の開業は別だから差支へないと云つてゐる

鮮人同胞へ同情金

關東廳內恩賜財團慈惠團では目下沿線各地に避難中の朝鮮同胞救濟の資として歳末に當り今回在奉天全滿朝鮮人民會聯合會に對し金一千圓を寄附した、尚現在の避難鮮人は左の通り五千五百十六人に及んでゐる

金州二三人、大石橋三八人、營口五五六九人、鞍山五六、奉天四四八、撫順六五五、本溪湖二三鐵嶺七〇三、開原七三三、四平街七一四、公主嶺七七四、長春四八〇、安東三〇一

鳳凰城襲撃の計畫

鳳凰城附近を横行しつゝある賊團の頭目徐分海の指揮する別働隊は最近安奉線破壞を計畫し通遠堡の主力を以て鳳凰城附近を襲ふべく作戰中なりと【奉天電話】

重爆撃機廿五日飛來

耐寒演習の目的で濱松大連間長距離飛行は廿四日濱松飛行第七聯隊によつて既報の如く決行されたが重爆撃機四機は午前太刀洗を出發平壤に到着の上豫定を變更し廿五日周水子に飛來する事となつたと

行方不明船客三十名

【大阪二十五日發】二十四日朝瀨戶內海來島海峽龍神沖で關西丸と衝突沈沒した八重山丸の乘客船員のその後の調査によれば乘客生存十四名、行方不明三十名（內婦人二十七名、男子三名）船員生存三十六名、行方不明四名である

好景氣來

『講談倶樂部』新年號は好景氣で飛ぶ樣に賣れる何しろ附錄の『芝居と映畫寫眞大觀』『全國代表美人畫報』『文藝家名鑑』の三大附錄がトテモ素晴しい人氣です。

關東學生射撃聯盟の慰問使

【東京廿五日發】關東學生射撃聯盟は酷寒の滿蒙に活躍する皇軍の慰問と實情視察を兼ね、滿洲における學生射撃團體との連絡を圖るため二十六日正午神戶出帆の香港丸で左の諸氏を派遣に決定した

理事　志保源藏（明大講師）
幹事長　熊谷雅文（明大法學部）
副幹事長　楠見規矩（早大法學部）
幹事　小林正雄（東大工學部）

安樂椅子

三井、三菱と言へばわが代表的二大財閥であり當地支店の首腦も大連財界に於て重きをなしてゐるわけだがそれでも相當の惱みはあるものとみえる。

◇

先づ寺田三菱支店長——三菱、三菱と大袈裟にいふが三菱商事は資本僅か千五百萬圓だ、三菱の名で取引は大規模にやるようなもの、資本から言へば滿電小さいじやないか、それをオール三菱の考へから名刺廣告などやたらに强要されるには參るこれも稅金と思へばよいようなもの、法外に高過ぎるんだ、野暮なことはいひたかないが東京大阪邊の分は斷らざるを得ない、正直にしてゐると俸給の半分はとられてしまふからね。

◇

次ぎは津久井三井支店長——三井は弗買で儲けたからと盛に言はれるが弗買をやつたのは何も三井だけじやなし、また三井銀行は儲かつたかも知れぬが三井物產とは何も關係ないじやないか三井、三井と簡單にいはれるには閉口するね。支店長たる者また辛いかなである。

曙の鐘 (150)

倉田潮　河野想多畫

山の夜（三）

たえ子はあけみと話してゐる中に、相手が事件の眞相を總て知つてゐるのを悟つた。あけみの云ふことは、皆ちやんとたえ子の知つてゐることと符合した。時間まで一寸も違はず合つてゐた。たえ子はます〳〵あけみが恐ろしくなつて、自分達二人の運命を握られてゐるやうにさへ感じた。

「あけみさん」とたえ子はしかし十分用心して口を開いた「私の推察は後で云ふことゝして、あなたの思つてゐることを先に云つて下さいな。あなたこそ心の底で春木が殺したのだと思つてゐるのぢやないの」

あけみは鳥渡考へたが、直ぐ決心したやうにうなづいて答へた。

「今はぐず〳〵してゐる場合でないから、打ちあけて本當のことを申しますわ。警察で考へてゐるやうな原因からではないかも知れませんが、正直に云ふと、私、とにかく剛太郎を殺したのは春木さんではないかと疑つてゐるのよ。持つてゐた短刀、あの時の足跡、それから指紋、總てがちやんと符合してゐるんですもの。たえ子さん、あなたもさう思はないではゐられないでせう」

たえ子は默つて苦げに顔をしかめた。實は彼女も心の底で或は春木ではないかと、かすかに疑つてゐたのだつた。が、その豫感が不幸にも適中しようとは春木が怖る可き罪を犯さうとは。が春木の氣性から考へると、水が油を嫌ふやうに汚らはしい剛太郎を極端に嫌厭することは自然であるまた剛太郎を社會の毒虫、蛆虫として社會そのものに代つて息の根をとめてしまふのが正義だと思はないとは云ひ切れない。さうだ、春木が殺したのかもしれない。あの時の怖ろしい顔や短刀……さうだ、春木が殺したのだ。たえ子自身に對する暴虐の數をさる爲と、社會の爲とを思つて、春木が最後のとゞめをさしたのだ。あゝ、何と云ふ悲慘な悲劇だらう。限りない苦みと不幸と暴虐と困難と戰ひ勝つてやう〳〵幸福を得た春木は司直の手に無理にらつし去られて、しかも怖る可き死の宣告の前に立たせられるとは……。これほど不幸な、薄命な戀がまたとあるだらうか。

たえ子は思はず熱いものが胸につきあげて來るのを感じた。あけみは相手の顔色から、心の中を見ぬいたやうに又一つ獨りでうなづいて、

「でも、たえ子さん、私、父を殺した人が春木さんにしても、その爲に春木さんを恨みに思ふやうなことは斷じてありあしないのだから、この點だけは承知して下さいね。剛太郎は今殺されなければ、何時か殺される業を持つた人間ですもの。いや、私、反對に春木さんを助けてあげ度いと思つてゐるのよ。その爲にこんな山の中へ夜中あなたを訪れて來たのだわ」

「それは知つてゐますわ」

と、たえ子は呟いた。あけみは熱狂的に春木を戀してゐる。で、父剛太郎を死んで惜らぬものだと諦めをつけて、戀する男を救ひ出さうと思ふのは自然だつた。

「では」とあけみは言葉をついで

「では、たえ子さん、今はつまらない感情に支配されて互に爭つてゐる場合でないから、二人心を一つにして春木さんを救ひ出さうではありませんか」

「その方法はあるのですか」

「その方法はあるのですわ」とあけみは急に勝ちほこつたやうに瞳を輝かした「私の考へる通りにすれば、春木さんはきつと無罪になると思ふのよ」

「ほんとですか」

と、たえ子は思はずあけみの手を握りしめた。すると、あけみも固くその手を握りかへしながら、

「私、ほんとでないことは云はないわ」と膝をすゝめた「だが、こゝに一つ難しい問題があるのよ」

新刊紹介

▲令女日記（昭和七年版）布張りの綺麗なそして感じのよい表紙に先づ購買心をそゝりその表紙に「春來ればはれやかに、笑むかの君を、櫻少女と名づけてしかな」といふ吉井勇の詩を金字にしセンチメンタルな少女の日記に相應しいもの、月毎に厳選された詩を挿入し欄の上部は日記を記すやうに下部はまた長詩を入れて美しいフレッシュな日記である、附録には和歌、短歌を澤山載せ應急手當法は親切である（價八十錢、東京市日本橋區本銀町實文館

▲その日〳〵（昭和七年版）名の通りその日〳〵の事を處理するやうに便利に考案し一九三二年、知人名簿、主なる美術團體、スコアブックなどの附録がある、裝幀といひ内容といひ同じ所の出版にかゝるだけ令女日記と優劣はないがたゞ内容を見て貰つて好きな方をといふやうに造つたものらしい、どちらにしろ少女達にプレゼントとして贈つて必ず喜ばれるだらう（價八十錢、同實文館發行）

昭和七年滿蒙年鑑

（中日文化協會編纂）滿蒙年鑑昭和七年の分は例年の通り中日文化協會から出版された。六年には滿洲事變起り滿蒙の新建設がこれから始まるのだから年鑑の内容も殊に緊張充實を示して居る。最初の滿蒙概觀では滿蒙問題の意義、滿蒙の發達、日本の權益、軍閥の倒壞、滿洲事變と國際聯盟、世界の輿論と滿蒙等の題目下に、現在の滿蒙問題を概説してある、過去の滿蒙、滿蒙重要日誌も亦重寶である、次で例の通り地理、政治、經濟、交通、社會、教育、宗教、藝術スポーツの各項の下に滿蒙に關して吾々の知りたいと思ふ事はすべて詳細に渉つて網羅してある、或は解説に或は統計に、分り易く且つ必要に應じて索出し易く編纂してある、附録としては滿洲知名事業者名鑑、滿洲事變グラフ、滿蒙新選大地圖、滿洲主要市街地圖がある、要するに滿蒙の知識は此の一册に具備されて居るから此れを座右に罷く事によつて滿蒙に關する公私百般の事情は必要に應じてこれを袋に探ぐるが如く便利此上無し。滿蒙の知識が誰にも緊切な問題となつた今日此年鑑の持つ意義は殊に重要である（發行所大連市紀伊町九十一番地中日文化協會定價金一圓五十錢）

けふの放送

大連 JQAK　十二月二十六日

▲廿六日午後四時五十八分（内地中繼）

▲理科學童劇（電氣）大阪科學童話劇協會

以下大連放送局より（六時）

▲ニユース

▲獨逸語講座「テキスト」第三十課（テキスト御入用の御方へは差上げます）大連語學校講師荻榮

以下内地中繼（七時）

▲放送舞臺劇　嗚呼明治二十七年（今西善男補塡）李鴻章（森探）副總長（金子彌太郎）遠藤修（幾野武雄）日本赤十字社員春田繁（松永健太郎）日本新聞記者平田鐵彌（柴田善太郎）其の他、雛子（雪川鉦之助社中）

▲落語劇「お米萬作」「森暁紅作」（場景）一、村の名暮二、圓滿三、東京の砂煙四、日光見物五、電車の込み合六、やはり故郷がなつかしい、萬作（蝶花樓馬樂）およね（吉野滿枝）役場の書記さん（柳家小三治）日光案内の口上（桂文治）見物人一（柳家小三太）同二（立川仙太）其の他

▲放送映畫劇（榮冠涙あり）「川口松太郎作」由利幸一（鈴木傳明）其の姉なほゑ（英百合子）南四郎（築田一郎）其の兄一郎（小村新一郎）宿屋の娘とし子（池上きよ子）選手河島（横尾泥海男）同人見（吉谷久男）同島（關操）監督（山本東郷）其の他、獨唱（瀧山一郎）放送指揮（鈴木重吉）

以下大連放送局より

▲尺八（都山流本曲磯馴松）一部森介山、二部濱岡球山

▲職業紹介事項

▲天氣豫報

▲ニユース

滿洲日報
（昭和六年十二月十五日第三種郵便物認可）

溝幇子の支那正規軍　匪賊に增援して指導
田庄臺方面で猛烈に逆襲

關東軍當局の談によると錦州軍憲に屬する支那步第十九旅は主力を以て大凌河以東に進出しその司令部は溝幇子にあるもの、如し、匪賊中には敵の正規兵混入して居りこれを指導し居ることは確實で、二十三日わが田庄臺進入部隊に對し良民を裝ひて逆襲し來た、わが部隊は之に應戰し擊退せるも戰死者二名、負傷者八名を出した、なほ敗退せる兵匪は溝幇子附近より正規兵の一部の增援を受けたるもの、如く田庄臺北側附近に集結し更に逆襲を準備中の如くである【奉天電話】

便衣隊を徹底的搜査
田庄臺で警戒中のわが軍

田庄臺における桂大隊は昨夕刻より再び兵匪の逆襲に備へて徹宵嚴重なる警戒に任じ野砲の威嚇射擊をなして田庄臺の第二夜は事なく明けた、夜明と共に更に便衣隊の徹底的搜査を開始治安の恢復に當つて居るが、匪良の命令を受けた便衣隊は各地に出沒して我軍を攪亂せんとして居るが廿四日夜は營口舊市街に現はれ軍用電話線を切斷したので憲兵隊では犯人を搜査すると共に嚴重な警戒網を張つて居る【營口電話】

天野旅團司令部は愈よ營口移動
けさ十一時遼陽出發

營口方面における匪賊討伐の狀勢は日を逐つて急迫してゐるが、遼陽駐劄天野○○旅團は關東軍司令部の命により二十五日午前十一時四十五分營口に旅團司令部を移動するため天野旅團長以下幕僚は特別軍用列車で一路營口方面に向つた、驛頭には遼陽の公私各機關代表を初め小學校生徒、遼陽駐劄軍將士の家族など多數見送りに出でたが天野旅團長は驛頭で「また行つて來るよ、お正月の餅も少し許り積込んだがサア何處でこれを食ふかな、何に、譯なしだ一週間もすれば歸るよ」と元氣一杯に語り萬歲裡一路營口へ向つた【遼陽電話】

午後營口着

天野旅團長以下廿六名廿五日午後二時四十五分着にて來營、同じく三時の臨時列車にて騎兵○○名馬匹○○○頭到着の筈【營口電話】

○○聯隊兵も營口へ

遼陽に待機中の騎兵第○聯隊○○○名は馬○○○頭と共に廿五日午後零時半營口に向け出發した【遼陽電話】

坪井聯隊長打合せ

坪井聯隊長は廿四日正午田庄臺に來り桂大隊長と軍要打合をなし同日直に營口の聯隊本部に歸つた【營口電話】

政府と重要事務打合に　内田滿鐵總裁東上
けふ出帆のはるびん丸で出發

内田滿鐵總裁は政子夫人帶同杉本秘書役と共に廿五日出帆はるびん丸に乘船出發した、滿鐵よりは江口副總裁をはじめ村上、首藤、竹中、山西各理事及び幹部級を始めとし協和會財團各社長、市中側より多數の官民政務長、小川市長等の見送りあつたが政子夫人も花束を贈られ多數社員夫人に圍まれ賑やかな彩りを見せた、總裁は定刻十五分前乘船特別室に入つたが簡單に

政變後色々政府筋と打合せたい事もあるし滿洲問題に對しても了解を得ておく事が必要と思つたから行くのだ、別に急に行く事になつたんではなく、これは豫定の行動で奉天行き等で寧ろ少し遲れた位だ、歸連期？さうしても明春になるだらうが豫定は出來ないあとの事は江口副總裁に任せてある

と多くを語らず悠々甲板に立ち出で夫人と共に見送り人に會釋を交すところあった【寫眞は内田總裁（右）と見送りの江口副總裁】

支那軍との衝突懸念
米國の對日注意喚起要旨

【ワシントン二十四日發】アメリカ國務省は錦州方面への日本軍進出問題に關し駐日大使フオーブス氏を通じ日本政府に對し新なる意思表示をなした旨本日公表した、聲明書の內容左の如し

國務省は十二月二十二日フオーブス大使に對し、滿洲駐屯の日本軍が錦州方面に進出を計畫し、その結果同地とその南方で**支那正規軍との武裝戰鬪行爲再發の恐れあり**との明瞭に根據ある最近の報道に徵し、アメリカ政府が抱く懸念を日本外務省に傳達すべしとの訓令を與へた、特に**アメリカ陸軍武官始め錦州における諸國陸軍武官オヴザーバーは支那軍が挑戰的軍事行動に從事し又は準備したる何等の證據をも見出さぬとの報道**をなしてゐるが、右に關し日本政府の注意を喚起するやう命じたものである

帝國政府はあす回答
英米佛三國警告に對し

【東京二十五日發】錦州問題に關し英、米、佛三國よりの警告に對し帝國政府は二十六日夫々正式回答を發する事となつたが、右回答骨子次の如し

一、列國政府が錦州地方における日支兩國軍隊の間に不幸なる事態の發生せざらんやう配慮され居るは帝國政府も諒とする處である、然しながら同地方における日本軍は日本臣民の生命財産が現實において匪賊の跳梁により危險に暴露されつ、あるため之が保護に必要なる範圍內においてこれら匪賊の討伐を實行しゐるものである、支那との間に進んで新に戰鬪に導き人命の損傷を來すが如き能動的措置を執るの意思に出るものでない事はいふ迄もない

一、斯くの如き匪賊討伐の必要及び右討伐の自由は過般の聯盟理事會においても各列國の諒承された處にして日本軍の討伐行爲が何等支那領土に對する領土的野心に基くものでない事は過般來の帝國政府屢次の聲明に依り各列國の齊しく諒承せる處である

一、列國の危惧する處は日本軍と支那正規兵の衝突であるべきも右の如き衝突は日本軍の能動的措置に依りてのみ惹起さるゝにあらず、抑々錦州地方における匪賊は多くは錦州政府當局の使嗾を受け暴虐を逞ふしつゝあるものにして匪賊の背後に支那正規軍の存在する事は疑ふべからざる事實である、而して日本軍の討伐を受けたる匪賊が錦州城內に入り正規軍の庇護の下に再起跳梁を計畫するが如き事あらば同地方の治安は永遠に望むべからず、斯る逃亡匪賊を追擊して日本軍の錦州地方に進擊する

某國の駐露外交官が　廣田大使暗殺を計畫
日露國交を破壞する目的

【モスクワ二十四日發】勞農當局は今回駐露日本大使廣田弘毅氏に對する暗殺計畫による日露國交破壞の陰謀を發見した、この計畫者は駐露某國外交官で同人を本國へ送還方、同國主席使臣より承認を得た旨、本日公表センセイションを起してゐる【寫眞は廣田大使】

新民巨流河兩地の　皇軍の陣營を訪ふ
休養の暇なき勇士達の緊張振
廿四日新民にて　島田一男特派員發

▼…巨流河のわが兵營が兵匪の襲擊を受けたと聞いて記者は二十三日午後十一時奉天發の軍用列車に同乘して巨流河へ向つた、月明下を列車は白銀の曠野を快走する蜿蜒三百メートルの巨流河の帶の如き鐵橋を日本軍は匪賊の橫行から完全に援護してゐるのだ、立哨中の步哨の姿が點々と日光を浴びて嚴肅な氣持となる、巨流河驛に到着すると賊團に放火された背後のわが營舍に白煙が揚がり寒月に反映する火焰は凄慘な氣をたゞよはす、

▼…驛舍に小沼大尉を訪へば部隊幹部はいづれもつかれ切つた身體を薄暗いランプの下に漸く支へ善後策の協議中であつたが責任は充分に感じてゐる、戰死者負傷兵に對しては申譯ない

强い責任感に慚愧する、一同はいたましくも戰死した一戶軍曹及び五名の負傷者を今更思ひ出して暗然たるものがある、慰めの言葉もなく記者は同じ想ひの胸に迫るのをどうする事も出來ない、

▼…兵營の燒跡には餘燼尙やまず灰燼の中で手榴彈の破裂する音が物凄い、黎明の太陽が紅くさす頃、燒跡では兵士の手で[illegible]理されてゐる賊團と奮戰して名譽の戰死を遂げた故一戶勝人軍曹の遺骸は燒殘つた木材の下から發見された時特に各勇士を感激せしめたのは關東倉庫部の活動で、食糧、燃料が僅々八時間の後にはドシ／＼運ばれて匪賊擊退に力戰苦鬪した兵士の疲勞を癒やした事である、

▼…次に記者は新民府の○○大隊本部を訪ふと、○○命令を受けた同隊內は緊張し切つて彈藥兵器が山の如く積まれ、戰鬪準備に忙しい兵士等の顏色には一瞬の活氣が溢れてゐる、しかして街頭には縣長、總務會長連名の日本軍歡迎の布告が貼り出され、一般商家も日本軍の保護のもとに扉を開いて

數日前の暗澹たる樣子は少しもない、新民縣自治執行委員の發會式が二十三日午後開催され、會長に李延芳以下二名の委員が選出され自治の基礎確立した模樣である、

▼…轉じて領事分館に土屋書記生を訪へば語る

日本軍の力で兵匪の暴戾な仕打ちから解放され安全が保障された新民の支那人は、日本軍に待望するところ大きい、これは要するに滿蒙樂土建設への具體的實現であると思ふ

▼…更に○○大隊に嵯峨大隊長を訪へば同じく緊張した氣持に鍵りはなく元氣旺盛なところを見せる、記者は深く勞を謝し奉天に引返した

山西軍動員目的は　學良追出し策
廣東派と策謀して

【南京二十五日發】第一次全體會議に出席した山西代表は本日會議に「山西軍十萬を動員し錦州に派遣して失地回復を援助させたし」と提議したが、右は**山西派、廣東派馴れ合ひの張學良追出し運動**と見られセンセーションを起してゐる

背後に某有力軍閥

【北平二十四日發】張學良驅逐を目的とする潛航運動最近北平市內に具體化した、即ち便衣隊を以て市中を攪亂せんため保安隊や張學良衞隊の買收に着手せる事判明、北平當局は本日より再び戒嚴令を布き嚴戒中であるが運動の黑幕には有力な某軍閥があると

四省主席重大會議

【北平二十四日發】明二十五日張學良、張作相、萬福麟及び韓復榘（代表）宋哲元、榮臻の河北、山西、綏遠、齊々哈爾四省政府主席等會合し重大會議を開く筈

榮臻對日戰の指令を求む

【北平二十四日發】錦州東北軍總指揮榮臻は日本軍の錦州總攻擊對策指揮を求めるため本日來平した

支那側は榮は病氣のため來平協和醫院で診察を受け三、四日後錦州に歸るといつてゐる

敵裝甲車には砲二門
關東軍當局談

二十四日朝河北驛を出發せし我代用裝甲列車は午後三時過田庄臺南側に於て敵裝甲列車の襲擊をうけた、その裝甲列車には砲二門を有しその射擊は極めて正確なるも我逆襲により退却した、これを以て見ても敵正規兵が匪賊を援助操縱し居れることが察知せられる【奉天電話】

海軍首腦會議

【東京廿五日發】大角海相は廿四日午後官邸に岡田、財部、加藤、山本四參議官並に海軍首腦部の參集を求め錦州方面における情勢を中心に我艦船配備狀況、佐世保與那軍港に待機中の諸艦につき種々重要なる意見交換を遂げた

日本軍の上陸阻止
學良から命令

【天津二十四日發】張學良は靑島の東北艦隊司令沈鴻烈に對し所屬軍艦を塘沽沖を中心に秦皇島、山海關一帶に派遣し日本軍の行動を監視し軍隊の上陸を阻止すべしと命令した

選擧第一主義の地方官異動
完全に政友系一色に

【東京廿五日發】政府は當然六十議會解散を見越し部長の異動詮衡にも選擧對策を第一として全國的に有機的な官憲網を布くべく人の配置に苦心したあとは明らかである、異動範圍は本省十三名地方廳九十四名殆ど全國各府縣に亘り休職二十五名復活、十二名の休職は何れも民政色濃厚と觀られるもののみ、之で地方官界は知事、內務、警察、學務各部長に亘つて完全に政友の一色に塗りつぶされ政府の地方行政に對する統制は一糸亂れず保たれる事となつた

學務部長存置

【東京廿五日發】內務省首腦部及び地方長官更迭に伴ふ內務省ならびに地方部長級の大異動は地方長官銓衡同樣各地方面からの注文で俄然人選難に陷り詮衡開始以來前後六日間を要し漸く廿四日決定發表を見た、人の遣繰の都合がつかないので前內閣時代に廢止される事になつて居た學務部長は結局存置される事となつた

地方部長更迭　百七名に達す

【東京二十五日發】政府は六十議會の解散を見越し選擧第一主義の立場から曩に地方長官の大異動を斷行したが之に伴ふ內務、警察、學務各部長の更迭を二十四日決定發表されたが總數百七名に達する大異動である

關東廳辭令（廿三日附）

關東廳海務局技手　山田誠　依願免本官

うらる丸　廿六日午前九時大連港外着の豫定

人事

▲內田康哉伯（滿鐵總裁）廿五日出帆はるびん丸で上京
▲同政子夫人　同上
▲杉本重道氏（同秘書役）同上
▲小住義藏氏（復州工業社長）同上
▲納賀雅友氏（山下汽船大連支店長）同上
▲江口親憲氏（普蘭店民政署長）同上
▲天羽壽郎氏（會社員）同上

蛇角

馬占山慰勞の寄附金、上海天津で個々集まる、天津益世報取扱ひだけでも最近五千元を爲替で送つたと廣告して居る。

◇

上海の學生、馬占山を援けに行くとて汽車の只乘りを拒絕され、徒步で行くと頑張つた、さすがの支那新聞記者も、左樣な事は出來るものかと冷笑して居る。

◇

張發奎、馬占山を援けに行くと云ひ出し、廣東政府其議に及ばずと差止めた、發奎憤慨して辭表を出し、國民の資格で行くと威張る

◇

山西軍十萬、失地回復援助を提議、これは敵本主義で、學良追ひ出しの魂膽、學良が失地回復を主張して軍費を引出した議するのと好一對。

◇

議會解散氣構へ、朝野兩黨共濃厚、

東亞の謎
國枝史郎
挿畫　伊藤順三

戰　ひ（十）

「南部さんは居ませんかな、え、南部正雄さんは」

三木本は部屋を見廻した。

武村を目付けると眼を据て了つた。

「武村さんぢやアありませんか、どうもこいつは、驚きましたな」

武村はヂロリと三木本を見たが

「三木本君か、この有樣だ」

「さては捕虜になつたんですね」

「仰せの如しさ、アッハヽ」

「ふうん」

と三木本は腕を組んだ。

「也速該元帥の帷幕の將、眞の意味の賓客の貴郎が、縛られてゐるとは驚きましたな」

「有爲轉變も甚だしい哉さ」

「甚だしい哉です、驚きましたなあ」

「今迄のところはまだ可い方だ、これからもつと惡くなる」

要領の微笑をしたが、

「南部さんに其奴を云つて、實は探しに來たんで、つまり私といふ人間は、人間でもあるのですな方でもあれば、此方の方でもある……」

「ふん、卑怯な野郎だ」

「こゝろが必要な存在」

「有害無益の人間だ」

「で、ありますかな、無いが……」

今度は三木本が武村味ありさうな眼づかひ

「………」武村は無言考へたが、

「で、今はどつちの人間？」

「さあ何方の人間でせ」

「オイ、俺の味方にな低いけれど重々しい」

武村はそゝのかすやう

「………」今度は三木

軍縮會議延期に反對を回答
帝國政府、英政府に

【東京二十五日發】日本政府は十六日附英政府の軍縮會議延期方に關する日本の意向を求めた質問的通牒に對し二十四日駐日英大使を通じ英政府に既に軍縮全權一行は會議を延期せざる程の理由を發見せずその下に之に反對の回答をなした

聖上、多摩陵に行幸 御祭典を行ひ給ふ 大正天皇五年式年祭

【東京二十五日發】大正天皇祭は畏くも滿五年、二十五日は其の御命日に當るので、宮中皇靈殿並に多摩陵において五年式年祭が嚴かに行はせられた、この日天皇陛下には陸軍式御正裝を召され、一木宮相、鈴木侍從長その他を隨へさせられて午前八時四十分宮城御出門、原宿驛に行幸、文武官の奉送裡に同九時同驛御發車多摩陵に向はせられた、これより先英靈靜かに眠らせ給ふ多摩陵は杉諸陵頭、河村陵墓監以下陵墓職員に依つて松の落葉一つとめず清淨に裝飾、午前十時迄に皇族方をはじめ奉り、犬養首相、倉富樞密院議長、牧野内府並に國務大臣、前官禮遇陸海軍大將、樞密顧問官親任官同待遇各一人、宮内各廳勅奏任總代など何れも大禮服又は正裝或は通常禮服に威儀を正して幄舍に參集、陵門外には儀仗兵が整列して陛下の御着を待ち參らする裡に十時十五分官民有資格者の奉迎を受けさせられて東淺川驛に御着あらせられた、陛下には直に自動車に召されて陵所に御着、參集諸員の奉迎裡に御休所に入らせられた、かくて十時式部官の前導で諸員參集本位につけば奏樂裡に掌典神饌幣物を供し、三條掌典次長は恭しく祝詞を奏し終つて天皇陛下には林式部長官、一木宮相、前川侍從武官、鈴木侍從長、奈良武官長以下御後に候し御陵前に進御、恭しく御禮拜御告文を奏させ給ひ、次いで皇后、皇太后兩陛下の御名代御拜禮、引續き皇族方の御拜禮があつて陛下には入御更に諸員の拜禮を終つて幣物神饌を撤し滯りなく御祭典を終へさせられ、陛下には十時五十五分陵所御發車、午後零時十分原宿驛御着宮城に還御遊ばされた

大正天皇祭 遙拜式 けふ大連神社で

大連神社の大正天皇祭遙拜式は二十五日午前十時より同社々殿にて執行された、最初神官の修祓に次いで齋主の祝詞奏上あり、民政署長代理富田庶務課長、市長代理近藤收入役、滿鐵總裁代理有賀庶務課長の順序で玉串を奉献し官民數十名の參拜もあつて同十時半閉式した(寫眞は式場)

白軍大勝し 京城高商惜敗す

軍隊慰問資金募集 武道大會

大連講道館有段者會、並に滿洲武道會主催滿洲體育聯盟後援の軍隊慰問資金募集の武道大會は二十五日午前十時より大連道場に於て開催、伊佐有段者會副會長開會の辭を述べ、直に一中對二中、育成對京城の紅白柔道試合に移つたが、白軍品川(二中)三人、栗屋(二中)二人、横田(二中)河原(二中)岡藤(育成)野村(二中)それぞれ一人づゝ、抜き結局白軍四將を殘して大勝、引續き京城高商對大連道場戰に移つたが、一進一退の後大將戰となり大連田中、京城佐野を輕く押へて大連に凱歌があがる

京城 先鋒 / 大連 先鋒

○一級下川(育成投)一級平山△
同(引分け)同 中山
○一級大野(横四方)一級鄭△
同(育成投)一級庄司○
一級北條(引分け)同
一級藤井(引分け)一級川崎
一級毎熊(引分け)一級渡邊
△一級城戸(大外落)初段窪田○
○初段加藤(小外刈)同
同(引分け)初段今田
初段田村(引分け)副將初段宗
△副將山野(跳腰)大將二段田中○

田中しばしば大業で攻め立てるも山野よく頑張り田中先づ體落して業をとり第一呼鈴直後跳腰の業あり併せて一本となり田中勝つ

○大將二段(横四方)同△

佐野疲れを見せ寢業に引き入れんとしかへつて横四方で押へられる

最高記錄出づ 好成績の大連射撃大會

大連市民射撃會及び本社共同主催の大連射撃大會は二十五日午前九時より春日池畔大連市民射撃場において開催、近來稀な暖かさに定刻すでに豫定人員百餘名あり直に射撃を開始し午前十一時終了役員射撃に移つたが前田春一氏は四十八點の大連に於ける最高記錄を出し一般の人々も續々好記錄を現はす標準點以上の射手左の如し

第一班 松野 新一(三五點)
第二班 岩本 □(二八點)
第三班 松原 國隆(二九點)
緒方 秀直(三五點)
淺川 盛光(三四點)
大越 實(三二點)

名譽の傷病勇士 百二名は廿七日着連

廿七日午前七時大連驛着、内地に送還さる、傷病兵百二名のうち沿線部隊關係者のみ到着、一先づ大連病院に收容の上廿九日午前八時到着の旅順部隊關係者と共に同日午前十一時出帆平仁丸にて内地へ

あす大連に到着の勇士達の上陸順序 正午までに全部入港

滿洲軍補充部隊を乘せた運送船は廿六日午前五時入港の吳淞丸(姫路部隊乘船)を先登に左の如き順序で大連着、上陸をなす豫定である

▲吳淞丸 廿六日午前五時入港八時上陸開始▲東泰丸(小倉部隊搭載)同日午前九時入港十時上陸開始▲平仁丸(松江其他の部隊)廿八日午前八時入港九時上陸開始

因に第十一平榮丸(岡山、小倉久留米部隊搭載)のみは時化のため二十七日午前八時、運延入港の豫定である

『在滿婦人の努力に敬意を表します』 林、久布白兩女史離連

老齢を提げ而も婦人の身をもつて長驅ハルビンまで駐滿軍隊慰問のため來滿中であつた婦風會副會長林歌子女史並に會務理事久布白落實女史は打連れて二十五日出帆奉天丸で夫人連多數の見送りを受け上海に向つたが林女史は語る

自分達はこちらに來て非常によかつたと思ひました、實に寒い目を見實に苦しんで居られる軍隊の人達の身になつて涙がこぼれましたわ、二人は奉天で別れ私はハルビンへ久布白女史は安東に行つたんです、ハルビンでは特に張景惠夫人と晩餐を共にして色々語り合つたんでしたが支那側夫人も非常に今度滿洲で正義の爲戰つた日本の軍隊に感謝をしてゐるやうでした、女學校や小學校で七回許り講演しました、何れにしても在滿夫人連のしんみの御努力に對しては敬意を表します上海に行つてあちらの樣子を見た上來春一月六七日頃歸ります

民政黨代表が海軍を慰問

【東京二十五日發】民政黨總務添田敬一郎、高橋代議士兩氏は黨を代表して在支帝國海軍慰問使として來る二十八日神戸出發の長崎丸で渡支約二週間に亘り上海南京漢口地方にある帝國海軍を慰問し併せて政治經濟狀態を視察する

大連商業の警備演習

大連商業では廿五日午前六時半全校生徒の非常召集を行ひ三年以下は同八時半忠靈塔、大連神社に參拜、國運の隆昌と皇軍の武運長久を祈り四、五年生は譚家屯において警備演習をなし同十一時終了後校庭において分列式を行ひ解散した

兒玉吞象氏講演會 廿六日ヤマトホテルにて

時局發生以來前後一ケ月に亘り南滿各地を遊歷、日支の要人を訪問してその蘊蓄を啓示して來た易學の大家兒玉吞象氏は廿五日朝來連ヤマトホテルに投宿したが氏の來連を機とし小林和介、佐藤至誠、津久井誠一郎氏等發起となり廿六日午後七時よりヤマトホテルにおいて「易から觀た滿蒙の將來」の題下に一場の講演を行ふこととなつたが一般有志の多數來聽を希望すると

覇權を目ざして 工專鞍中の兩軍 けふラグビー大會へ

明年一月初め大阪花園球場で舉行の全國高等專門學校ラグビー大會に出場の滿洲代表南滿工專ラグビー部選手一行廿一名および同じく甲子園球場で舉行の全國中等學校ラグビー大會に出場の滿洲代表鞍山中學ラグビー部選手一行十七名は共に二十五日大連出帆のはるびん丸で内地遠征の途に就いたが、埠頭は自校の選手を送る兩校應援團の高らかな校歌の合唱に賑はつた

全力を盡す 鞍中軍引率者談

鞍中軍を引率の渡邊三宅兩教諭は語る

試合數は少ないが練習だけは本當に眞劍につゞけました、昨年安東での戰に京城師範に敗れたことはあらゆる意味で貴い經驗になりました、それから一年間の練習は全く涙ぐましいものでした、幸ひ選手のコンデションは絶好ですし滿洲代表としても名譽のために全力を盡して戰ひます、いづれ向ふに着いてから一流選手のコーチを仰ぎ最後の猛練習を行ふ筈です

勝算はある 安藤工專監督談

皆はちきれるやうな元氣です、今度は内地代表チームの實力が全く未知數であるため全然豫想の立てやうがありせんが恐ろしいのは矢張り關東代表チームだらうと思ひます、勿論勝算は持つてゐますが兎に角フォワードさへしつかり球を出してくれゝば充分に優勝出來ると信じてゐます、今度こそあの優勝旗を滿洲に飾りたいものです(寫眞は大連埠頭にて、工專(上)鞍中兩選手)

ラグビーと氷滑 今年の運動界を回顧して(下)

ラ グビーを語らざるものは近代人にあらずさいふほど現代のラグビーは大衆化され民衆化されたウインター・スポーツの王座は今完全にラグビーが占めるところとなつた、今シーズン關東側の覇權は慶大より明大に移り、關西側は京大が占むるところとなり、來春早々東都において關東ペナントチーム明大に次ぐ慶大、早大と關西の京大、同大が相爭ひ又カナダチームが來朝して全日本チーム及び關東、關西のペナントチームと相爭ふ、野球時代に次ぐラグビー狂時代を現出せんとして居る、滿洲のラグビーも内地の如く益々盛んとなりゲーム毎に約五千のファンが押し寄せる時代となつた。

今 シーズンに入り工大對工專、醫大對工專、等の好ゲームあり、實業團戰唯一のゲームたる大連滿鐵對大連クラブ戰は八對五の大接戰で四年越しに大連實業が覇權を掌握した、斯くの如く盛んになりつゝ、現代、專用球場をもたざることは實に遺憾である、内地には花園に東洋第一の專用球場あり又明夏明治神宮外苑にこれに劣らざるの球場完成することとなつた、滿洲にも專用球場の急設を痛切に感ずるのである、大連、旅順、奉天國際の四運動場は陸上專用のものであり十二月に入れば完全にゲームの出來ない滿洲は九月よりラグビーシーズンに入るため陸上と略同シーズンとなり兩者とも不便を感ずるので

一 昨年滿洲ラグビー協會前理事渡邊謙、滿鐵岡部平太、高橋俊夫及び滿鐵式部飯澤重一の諸氏に依り大連運動場南側に專門球場新設の運動起り關東廳にも了解なつたが經費の問題で行きつまり今日に及んで居る。

日 本スポーツ界を左右するものに滿洲のスケートがある、今冬日本スケート界の最初の歐洲否世界進出として石原、河村、木谷の三選手を北歐に送つた、來るレークプラシッドの世界氷上オリンピック大會に再び以上の三選手を送ることゝなりすでに遠征の途に就いた、世界の强豪に伍して必ずや好成績を收めるであらう、その他軟球、排球、籠球それぞれ斯界のため貢するところあり、とり分け現代大衆スポーツとして見逃せないものは、スポンヂ野球の發達である、大連においてすら七十餘チームあり、全滿に數ふればその數驚くべきものさなるであらう、よろしく小學校々庭などを解放して民衆體育に貢せられんことを。

最 後に本年度滿洲運動界を飾つたものに滿洲柔道軍の來襲がある、木原、板田、古川、久永、西と日本柔道界を背負ひ立つ福岡軍と和田、吉原、吉田、猿丸、佐々木、小谷、逸見の一騎當千の滿洲軍との對戰は完全に日本柔道界の視聽を集め、死力をけづつて戰つた結果未曾有の大接戰を續け遂に引分けとなつた、その白熱戰たるや今なほ吾々の記憶をよび起すものである。

日 支衝突事件に刺戟され全滿の三十有餘の體育團體は提携蹶起して滿洲體育聯盟を組織し軍隊慰問、獻金の方法を講じ着々その歩を進めて居る、力強い團體として今後の活躍が期待されて居る、かくの如く昭和六年は日本スポーツ界に、滿洲スポーツ界に絢爛なる光彩を放たしめるさともに多事多端な年であつた、今暮れなんとするさき靜かに思ひを馳せて過去を認識するさともに來るべき昭和七年度はより以上の光輝ある年たらんことを望んで止まない。

感動される小國民の思遣り 慰問金續々集まる

日本橋小學校六年生森紀子、同四年生森英子、同一年生森シゲヒラの三姉弟は二十四日午後現金五圓八錢に左記手紙を添へ軍隊慰問金として屆けて來た

もうお正月も近くなつて來ました、兵隊さん達はお正月も寒い所で働かなくてはならないのですから何にか兵隊さんの喜ぶ物を買つて差し上げて下さい、このお金は私達姉妹がお居餘を貰つて得たお金に父から戴いたのを蓄めてゐたお金を合せたものです

◇

また常盤小學校五年生奥山正三、同宅島德幸、同二年生奥山金一の三君は

兵隊さん零下何十度の寒い所でお働きになるのは大變だらうと思ひます、僕等もつたいなくてお部屋の中でジッとしてゐる事は出來ません、其處で友達や弟と相談しこの前の日曜日に割箸を三人で賣つて得たお金です何かのたしにして下さい

と手紙を添へ金二圓二十錢を軍隊慰問金に寄贈かた依賴した

◇

常盤小學校六年生坂下秀子、尾崎泰子、山内ツユヨの三女生徒は

お家の走り小使をして貰つたお金や毎日のおやつを節約して蓄めて置いたお金です、陣中にお正月を迎へる兵隊さんの爲めに御用立て下さい

と現金一圓七十三錢を軍隊慰問金として市役所に屆け出で

◇

金光教大連女子青年會では酷寒の街頭に進出し食料雜貨品を賣り歩きその純益百五十五圓九十六錢也を傷病兵および戰歿者遺族へ慰問金として交附かた市役所へ依賴

神明、彌生高女生が毛皮縫附けに懸命 クリスマスも正月も忘れて兵隊さんのために

今日からいよいよ冬休みを迎へた大連神明、彌生兩高女の生徒さん達も例年なら久しぶりの休みにクリスマス、お正月とはしやぎ廻るところだが、今年は時局柄、この生徒もたゞ御國のため、兵隊さんのためといぢらしいほどの緊張ぶり、彼女達でも「冬休みを利用して何か御手傳ひすることでもありましたら」と關東倉庫に申込んだので關東倉庫でもその赤誠に打たれて奧地へ行く兵隊さん達の外套一萬二千枚の衿に防寒毛皮をつけてもらふ事となり廿五日神明高女に百五十枚持參して毛皮のつけ方を講習したが三年生以上同窓生まで加はつて夕方まで熱心に作業をつゞけた、何分多數であり相當手間どれるので當分毎日午前九時より作業を開始して年内には是非仕上げて兵隊さんたちに着せたいと皆大張な意氣ごみである

『北滿の落花』撮影隊一行

東活の在滿將兵慰問並に「北滿の落花」撮影隊一行は廿九日入港ばいかる丸にて來連するが一行の顔ぶれは若木總務以下左の通りで、元旦より大日活において「出征夜話」の實演をなし各地の撮影にとりかゝる筈であるさ

井手錦之助、武村新、南光明、東郷久義、岡田靜江、大内純子、宮城直枝

大連神社より慰問代表出發

遼西の野に兵匪と戰ふ關東軍將兵に對し石本鏆太郎氏、大連神社社司原本執の兩氏が代表としてお守り三千枚滿鐵一輛をもつて二十五日午後十時大連發の列車で奉天に行くと

大阪慰問使團離連

駐滿軍隊慰問のため來滿中であつた大阪市の青年聯合團、婦人聯合團、聯合處女會三團體主催の慰問使團は大阪市主事赤塚長次郎氏に引率され二十五日出帆はるびん丸で歸阪の途についた

刑務所に逆戻り

原籍東京市京橋區日比谷町三當時住所不定無職竊盜前科二犯石川春雄(二三)はこの十九日旅順刑務所を出所した者だが、更に改悛の情なく二十一日は薩摩町關東館で靴一足、二十三日は遞信局二階洗面所でクリーム石鹸および手拭、二十四日は三越便所で婦人オペラバッグを各竊取し大連署刑事に取押へられた

飾窓を壞し毛皮を盜む

大連伊勢町三四バレー商會では二十四日午後十一時より二十五日午前九時半に至る迄の間に浪速町一〇四大連百貨店の飾窓に陳列して置いた顧毛皮二枚、狐毛皮二枚、時價四百圓を硝子破壞の上竊取されたのでその筋に屆け出た

紙入を掏らる

大連美濃町一五濱物商岡山利次郎は二十四日午後四時三十分ごろ常盤橋電車停留場から七號系統電車に乘らんとした際、ズボンのポケットに入れておいた百四十五圓在中の紙入れを何者かに掏り取られ青くなつてその筋へ屆け出た

松平直德子逝去

【東京二十五日發】舊播州明石藩主正三位勳三等子爵松平直德氏は曩に病氣中のところ二十四日午後一時半逝去した享年六十三歳

天氣豫報

二十六日 南西の風 晴一時曇

	廿五日午前十一時	廿四日最低
大連	零下八、〇	六、四
奉天	同 七、一	一九、四
長春	同 七、六	二一、三

武門血笑記（7）

下村悦夫作　工藤義正挿畫

深夜の刺客（一）

池田藩の劍道指南役、鶴飼太郎左衛門は、二三年前、永年連れ添つてゐた妻を失つてから此方は、一層その酒量が殖えたやうであつた。もともと、若い時から大酒の方ではあつたが、此頃は相手さへあれば、夕方始めた酒宴が、眞夜中時になるのが、殆どお極りになつてゐた。

今宵も、門弟達が歸ると、入れ違ひに飄然と訪れた旅の劍客、辻川幸作と名乘る中年の武士を相手に、宵の中から飲み續けてゐるのであつた。

「……お話の樣子では、江戸も京も却々物騷ぢや喃、打續く太平の治世に地を拂つた武道が、今時再び役に立つやうになつたとはいやはや不思議なものぢや。ぢやが、何んにしても貴公方、若い者の世の中ぢやて。拙者などは、もう早く隱居でも御願ひして、此奴を―」

と銚子を取上げて

「劍法でなく、人斬劍術の堂に達してゐる、恐るべき奴ぢやつた。互格に劍を拔いて立つたら、當藩でも太刀打の出來る人間は數へる程しか居まい」

太郎左衛門は、その日の物凄い光景を思ひ出したらしく、醉眼を二三度、ぢつと、瞬かしたが、ふと、相手の默つて聞入つてゐる樣子に氣附いて、

「ほう、これは、話に實が入つてさんと失禮。貴公、一向やらぬやうぢやが、熱い處を今一獻、どうぢや」

と盃を取上げる。

幸作は輕く頭を下げて、

「手前、もう、すつかり醉酊致しました。此上は、御厚意に甘えてこれにて、中座、御先に、御無禮させて頂きたう存じます」

と、その逞しい兩腕を、きちんと、兩膝の上に置いて、改めて、慇懃に會釋をした。

幸作が、與へられた自分の部屋

夜中に、露木と、陣野と白井が參るかも知れないが、構はないから奥に通すがいゝ」

妻を失つてからこの方、身の廻り一切の世話をしてゐる娘にさへも、醉つた時には世話をかけまいとする親の慈悲、こう命じて置くと、太郎左衛門は、六尺近い、その大兵肥滿の身體をぐつと起して平常のやうな確かな足取で、奥の居間に入つて行つた。

と、間もなく、其處から聞こえて來た、大きな鼾聲――。

「相手にでもして寐すより仕方があるまい、はつはつは」

太郎左衛門は、何時になく上機嫌。でつぷりと肥え太つた、熟柿のやうな赤い顏の、相好を崩して笑ふ。話をしてゐる中に、心の中で、ふと、今夕、眾門者を惡生にやつた三人の高弟、露木、陣野、白井―のいづれ劣らぬ、それぞれの賴もしい樣子を思ひ浮べたのであつた。

「いや、いや、先生の御高名は兼々承つて居りましたが、先日、飛龍の黑兵衛を擒の節の御手の中は老ても、山陰の麒麟だとの專ら噂で御座います」

幸作は武藝者らしく、面擦れのした逞黑い顏を、薄赤く染めて、口の邊りに笑ひを浮べてゐたが、その一癖ありげな鋭い眼だけは、きつと太郎左衛門の赭顏に注がれてゐた。

「何の、あれは怪我の功名、會々通り合はせて、役人共が手に餘るのを見兼れて、拔合せた白刄を目潰しに投げた迄の事。ぢやが、黑兵衛と云ふ男、流石名うての兇だけあつて、業はそれ程とも思はれぬが、恐ろしい氣魄の籠つた鋒であつた。つまり、竹刀で修業した

へ歸つて行くと、太郎左衛門は、女中を呼んで、後片附をさせながら、

「お梨花には、此方に構はないで休むやうに云ふがいゝ、それから

落成した映樂館　廿五日開館式の豫定が變更されたが、近日中に洋畫全發聲興行で蓋を開ける、設備としては大連映畫館唯一のWE式發聲裝置を誇つてゐる

蜂語

今年は映樂館主吉田眞と三氏の祟り年だと専ら評判され出した▲映樂館も最後の五分間に檢査未了で豫定通り開館出來ず▲その上に屋根の一部に違反があるらしく今のところ開館日が豫定されないとのこと▲一方寶館從業員の解雇手當問題が未解決のまゝ爭議狀態を持續しこゝもと內憂外患交々到る有樣である▲この難關を切り拔けるか、問題の解決は誠意の二字にあると敢て苦言を呈したい

本社特選　新棋戰（其二）

平香交香落番　四段△建部和歌夫　三段▲加藤富久

【圖は四二玉迄の局面】

▲加藤氏「持駒」ナシ

△建部氏「持駒」ナシ

△三八玉　▲三二玉
△一六歩　▲一四歩
△二八玉　▲六四歩
△三八銀　▲五四歩
△五六銀　▲九六歩
△同歩　▲同香

【土居八段講評】▲加藤君の五四歩は持久戰模樣となり勢ひ香落の弱味を攻むるも比較的効果が薄くなるから拙策である。六五歩、七六銀、九六歩、同歩、同香と早く攻撃を執る方優る△建部君の五六銀は輕る過ぎた指し方で、僞に九筋に破綻を生じる惧れあれば此處は七六銀と固く指す處である。